

實ニ薄弱ナル口實ニ過ギズ。即チ墺西士利亞ノ口實ニ曰ク、寺法（カノンロー）ニ依ルトキハ王ノ爲シタル土地ノ讓渡ハ幼者ノ所爲ト等シク無効ナルヲ以テ、千三百二十四年ニ於テ墺西士利亞ヨリ波蘭ニ讓渡セル土地ハ之レヲ還付センコトヲ請求スト云フニアリ。實ニ讓渡後百四十八年間其ノ不當若クハ無効ナルコトヲ云ハズシテ經過シ來リ、此時ニ至テ始メテ之ヲ主張ス。抑モ始メヨリ奪ハズンバ飽カザルノ口實ノミ。普魯西亞ノ口實ニ曰ク、千百七年ノ頃「ブランデンブルグ」ノ「マルグラーツ」小弱ノ時ニ當リ、波蘭ノ要求ニ抵抗スルヲ得ズシテ多クノ土地ヲ失ヘルモ、「マルクラーツ」ハ嘗テ是等ノ土地ニ對スル權利ヲ公式上拋棄セルコトナキヲ以テ、之レガ還付ヲ要求スト云フニアリキ。是レ亦墺西士利亞ノ口實ノ類ノミ。魯西亞ニ至ツテハ墺、普二國ニ比シテ遙カニ大膽ナル手段ニ出デ、竊カニ二國ノ兒戲ニ類スル口實ヲ嘲笑シ、單刀直入「兵力是權利」說ノ實行ヲ好餌ノ上ニ演ジタリ。

斯ノ如ク波蘭ヲ三國間ニ分割スルニ當リ、英、佛二國ハ沈黙ノ傍觀者タリキ。千七百九十年ニ至リ魯、土ノ葛藤ニ乗ジ、波蘭ハ普魯西亞ガ各國ノ波蘭ノ内政ニ干涉スルコトニ反對スル援助ヲ與フベシト云フヲ信ジ、深ク普魯西亞ト結托シ、「サクソニー」ノ撰出王ヲ波蘭ノ世襲王トナシ、盛ンニ弊政ヲ釐革シ、兼ネテ魯西亞ノ霸約ヲ脱センコトヲ企圖セルモ、不幸ニシテ佛國革命生ジ來リ、普魯西亞ハ波蘭ト結ベル質言ヲ忘却セルノミナラズ、却テ魯西亞、墺西士利亞

ノ二國ト握手シテ千七百九十三年第二回ノ分割ヲ行フニ至レリ。火ノ將ニ消ヘントスルトキ、光リヲ放ツガ如ク、波蘭ノ殘部、今ハ極メテ小部分トナルトキ、有名ナル「コツシヤスコ」慨然蹶起シテ義兵ヲ舉ゲタルモ、幾クナラズシテ敗衄シ、千七百九十五年第三回ノ分割ニ依リ、終ニ「ポーランド」ハ「クラツコー」ヲ除クノ外ハ盡ク分割シ去ラレタリ。

千八百十五年「ヴイエナ」會議ニ依リ波蘭ノ終局ニ就キ討議シ、英、佛二國ノ全權大使ハ反駁セル所アリタルモ、終ニ分割ハ承認セラレタリ。此「ヴイエナ」條約ニ依リ魯、墺、普三國ノ保護地トシテ「ヴイステュラ」河左岸數英方哩ノ地、幾多ノ人口ヲ有シ獨立自由ノ中立市タルコトヲ宣言セリ。

### (二) 魯國ノ專制、付英、佛、瑞ノ違議

初メ魯西亞ノ得タル部分ニ關シテハ魯國皇帝ハ「ポーランド」ノ首府ニ於テ波蘭王ノ位ニ即キ、上下二院ヨリ成ル議會ヲ有シ、立法及ビ租稅ノ兩權ヲ有セシメ、波蘭ノ軍隊組織、波蘭ノ貨幣鑄造ヲ別ニ有スル等ノ憲法ニ從ツテ統治スベキ約アリタルモ、千八百三十二年ニ至リ「ニコラス」帝ハ是等ノ憲法ヲ廢棄シテ波蘭ヲ純粹ナル魯國ト化シ去レリ。千八百三十六年「クラツコー」ノ地ハ革命的隱謀ノ中心點トナレリトナシテ、魯、墺兩軍ハ之レヲ占領シ、英、佛、



瑞(瑞典)ノ達議アルニモ拘ラズ、魯、墺、普合議シテ千八百四十六年十一月六日終ニ墺西士利亞領ニ歸シ去レリ。

公法學者及ビ一、二ノ外交政治家ノ裏ニハ、波蘭ノ分割ヲ以テ最モ非理非道ノ舉トナスモノアリト雖モ、終ニ分割ハ有効ノモノトナリテ今ハ如何トモスルコト能ハズ、必竟波蘭ノ分割ハ魯、墺、普ノ貪婪ニ出ヅルモノト雖モ終ニ之レヲ決行シ終レリ。

### (三) 朝鮮ノ分割

朝鮮ノ分割ニ至テハ全ク波蘭ノ分割ト異ナレリ。朝鮮ノ朽チタルヤ久シク、東洋平和ノ破綻ハ必ラズ此所ヨリスルコト猶ホ人ノ疾病ニ冒サル、部分ハ、其ノ薄弱ナル體部ニ於テ發スルガ如シ。若シ夫レ東洋平和ノ維持ヲ計ラントセバ、斷ジテ東亞最モ薄弱ナル部分朝鮮ニ於テ外科的施術ヲ行ヒ、病根ヲ斷ツニアラザレバ東洋平和ハ常ニ危殆ニシテ、何レノ時ニ破綻スルヤモ測ルベカラザルナリ。朝鮮ニ於テ帝國ト清國ト相對峙スル時ハ既ニ過ギ去リ、病勢ハ一進シテ朝鮮内清國ニ置キ代ユルニ魯國ノ急ヲ以テシ、今ハ此ノ薄弱ナル部分ニ於テ帝國對魯國ノ急ニ迫レリ。外科的施術亦止ムヲ得ザルモノアリ、朝鮮ノ分割ニ就テハ日、魯、英三國ノ間ニ分割セバ可ナリ。佛ト獨トハ敢テ兵力ヲ以テシテモ其ノ一分ヲ得ンコトヲ主張スルノ勇氣アリヤ否ヤ疑問ナリ。故ニ分割ニ就テハ日、魯、英ノ三國主タル對手タランノミ。而シテ分割ノ理由ハ實ニ東洋平和ヲ維持スル爲ニ最モ必要ナルモノナリト云フニアリ。之レヲ波蘭ヲ魯、墺、普ノ三國間ニ分割セルモノニ比スレバ遙カニ有力ニシテ、且ツ萬止ムヲ得ザル理由アリト信ズ。

以上三策ハ好ンデ之レヲ行フベキニアテズ、魯國不當ノ口實ヲ設ケ戰端ヲ開カントスルカ、若クハ朝鮮ニ於テ我が帝國ノ利益ヲ保護スル爲ニ必要ナル勢力ヲ減殺シ去ラントセルニ當テ、始メテ三策中、其ノ一ニ出ヅレバ或ハ可ナラント云フコトニ止マル。



## 杉村濬朝鮮ニ施行スベキ事業並ニ 處理セラルベキ事件ニ付建議

小官曩ニ對韓意見書ヲ草シ、閣下ノ高覽ニ供シタル處、幸ニ御垂聽ヲ賜リ感喜ノ至リニ堪ヘズ候。依テ茲ニ該意見ノ趣意ニ基キ、將來我が政府ガ施行サルベキ事業並ニ處理セラル可キ事件ヲ鄙見ノ儘左ニ列舉シ、再ビ高覽ニ供セントス。

將來朝鮮ニ向テ施行サルベキ事業並ニ處理セラルベキ事件ヲ其ノ目的ニ從テ大別セバ左ノ如シ。

第一 韓廷ノ感情ヲ和ゲ併セテ朝鮮ノ利益トナルベキ事件。

一、金玉均處分ノ事。

韓人ノ日本ニ對スル感情ハ歷史上ノ關係、殊ニ豊公征韓ノ役ノ爲ニ甚ダ善カラズ、但ダ明治十三、四年已來我が待遇ト誘導ノ懇切ナリシガ爲メ、朝鮮ノ開化黨ハ漸ク舊怨

ヲ釋キ、日本ト相提携シテ自國ノ開化ヲ圖ラン事ヲ試ミタルニ、十七年金玉均ノ變亂ハ忽チ其心ヲ沮喪セシメ、今ヤ韓廷ノ輿論ハ再ビ日本ヲ惡視スルニ至レリ。殊ニ現今ノ當路者タル閔族ハ金玉均一派ヲ敵視スルコト尤モ甚シケレバ、施テ我國ヲ敵視スルニ至レリ。故ニ若シ現政府即チ閔黨政府ト相提携セントスルニハ、金玉均ノ處分ヲ爲スニアラザレバ到底好結果ヲ得ザルベシ。

二、濟州島漁業ノ件。

同島ハ遼遠ニシテ人民頑強ナレバ、韓廷ノ命令充分ニ行ハレズ、先年來我が漁民ト島民ト爭鬪屢々興リ、島民ノ殺害セラレタル者サヘ之レアルニ、韓廷ノ保護行届カザルガ爲メ島民ハ之レヲ怨メリ。且ツ之レニ依テ猜疑心深キ韓廷ハ窃カニ我ヲ疑ヒ、同島ヲ覬覦スルモノト爲セリ。故ニ明治二十四年前ノ例ニ從ヒ、暫時同島ノ漁業ヲ禁止スルコトヲ得バ韓廷ノ悦ビ大ナルベシト雖モ、左ニ之ンナクトモ後來我が漁民等ニ嚴諭シテ溫和以テ島民ニ接シテ其歡心ヲ得ンコトヲ務メシメ、且ツ漁期ニハ屢々軍艦ヲ廻航セシメテ一ハ我が不法ナル漁民ヲ懷柔スルコト緊要ト思惟セリ。斯クシテ年數ヲ重ネナバ韓廷ノ苦情漸次消滅ス可シ。

三、大院君ト親密ナル交際ヲ避クルコト。

杉村濬朝鮮ニ施行スベキ事業並ニ處理セラルベキ事件ニ付建議



當路ノ韓官、即チ閔氏ハ大院君ト怨讐ノ間柄ナレバ、本邦人が屢々同君ノ門ニ出入スルコトハ、閔氏ヲシテ我ト同君ト結托シ居ルモノト疑ハシメ、兎ニ角親交ヲ得難キ事情アリ。

#### 四、釜、元兩港ノ地租ヲ定メ並ニ仁川港ノ地租ヲ直上グスルコト。

釜、元兩港ノ我が居留地ハ各々凡十萬坪アリテ、一ケ年借料トシテ我が政府ヨリ銀貨五十圓ヲ拂フノミニテ、居留人民ハ一錢ノ地租ダモ納メズ、故ニ韓廷ハ之レニ向テ久シク苦情ヲ唱ヘ居レリ。然ルニ我が借地人モ亦地租ヲ納メテ其所有權ヲ鞏固ニセンコトヲ希望スルモノ、如シ。

仁川居留地ノ地租ハ本ト韓錢ノ取極メナレバ、其後五文錢ヲ新鑄シ、且ツ再三之レヲ鑄替ヘ其都度粗惡ニ流レタルガ爲メ、其價大ニ下落シ、幾ンド十分ノ一ニ減ゼリ（十餘年前韓錢一貫文ハ我が三圓程ニ當リシ處、目下三十錢内外ナリ）。

但シ三港居留地ノ地租ハ支那モ同様ノ例ナル所アレバ、我ハ主唱者ト爲リテ支那ヲモ同時ニ改正セシム可キハ勿論ナリ。

#### 五、朝鮮政府ヘ軍艦讓渡ノ事。

近來朝鮮政府ハ其體面ヲ裝ヒ、且ツハ自國沿海ノ取締ニ供センガ爲メ閔應植其總裁ト

爲リテ海軍創立ニ着手シタリ。然ルニ財政ノ困迫ハ逆モ軍艦ノ購入ヲ許サバレバ、此際我が恩惠トシテ不用小艦ヲ低價ニ御讓渡相成候ハ、韓廷ノ之レヲ悦ブハ必然ナラシ。近年日、韓ノ交際ハ我が權利ニ關スル交渉談判ヲ以テ充サレ居レバ、若シ其間斯ノ如キ惠舉アルトキハ必ラズ彼ノ感情ヲ和ゲ、談判上大ニカヲ省クコトアル可シ。昨年東學黨騷ギノ際、支那政府ヨリ大砲小銃若干ヲ贈與セリ、以テ其ノ意ノ至レルヲ推測シ得可シ。

#### 六、勳章贈與ノ事。

明治五、六年頃ヨリ今日ニ至ルマデ兩國交際ノ衝ニ當リテ盡力シタル韓官不少、其中重ナル者ヲ擇ンデ勳章ヲ贈與セラル、ハ實ニ望マシキコトナリ。殊ニ近日韓廷ニモ勳章條例ヲ發布セントノ詮議アル由ナレバ、彼等ハ悦ンデ之レヲ拜受スベシト思ハレ候。

#### 第二 朝鮮ノ困難ヲ救ヒ又ハ其ノ改良ヲ圖ルベキ事業。

一、税關ノ收入ヲ抵當トシテ若干ノ金圓ヲ貸與ヘ、韓廷ノ外國債ヲ償却セシムルコト。  
現今韓廷ノ外債多カラズト雖モ、財政不整頓ナル爲メ償却ノ道立タズ、非常ニ困難セリ、其金高大概左ノ如シ。

三 十 萬 兩 招商局ヨリ鑛山抵當ニテ借用、利子不詳。

杉村濬朝鮮ニ施行スベキ事業並ニ處理セラルベキ事件ニ付建議



二十萬兩 清商同順泰ヨリ關稅抵當ニテ借用、年利七分二厘。

四萬圓程 我ガ正金銀行殘金。

三萬圓程 外國人俸給未拂高。

十萬兩内外 電信創設費ニシテ清國へ償却スベキ殘金、關稅ヨリ支拂。

計九十餘萬圓。

右ノ内招商局ノ三十萬兩ハ海關ニ關係ナキ故之レヲ除キ、其他ノ分ニテモ之レヲ償却セバ大イニ韓廷ノ肩ヲ休フスベシト思ハル。但シ利子ハ年七分二厘ヨリ低廉ナラザル可カラズ、關稅ノ餘金ハ少ナクトモ一ケ年十二萬圓程アル計算ナレバ、是レヨリ漸次元利ヲ償還シ得ベシ。

若シ我國ヨリ前記ノ大金ヲ貸與スルトキハ、之レニ依テ幾分カ我ガ勢力ヲ増加シ、海關事務ヲ改革シ進ンデ財政整理ノ勸告ヲモ與フルヲ得可シト思ハレタリ。

## 二、京城、仁川間（日本九里程）ニ鐵道ヲ敷設スル事。

鐵道ハ韓人ノ迷夢ヲ醒シ其富ヲ開發スルニ於テ大功アルコト必然ナラン。京、仁間ニ鐵道ヲ敷設セントスルコトハ韓廷ニモ其議アリタレバ、其ノ資本ヲ貸渡シ、事業ヲ成功セシムル相談サヘ相立タバ、起工ノ望ミナキニアラザル可シ。京、仁間ノ鐵道既ニ

成リ、韓民其ノ利益ヲ悟リタル後、京、釜間ノ鐵道ニ及ブベシ。今日ノ場合ニ於テ俄カニ京、釜間ノ鐵道ヲ説クハ大早計ニシテ行ハルベキ見込ミナシ。

## 三、京、釜間ノ電信線ヲ鞏固ニスルコト。

同線ハ清國ノ債ヲ以テ之レヲ成功シ、兩國ノ間ニ條約アレバ、我ハ清國ト協議ノ上其債ヲ償ヒ、同國ガ所有スル權利ヲ讓リ受クベシ、否ラザレバ同線ヲ鞏固ナラシムルコト能ハズ。

## 四、造幣事業ヲ補助シテ成功セシムル事。

本件ハ我ガ贈金ニ依テ造幣局ノ建築出來鑄貨ニ着手シタルモ、政府ニ於テ新貨通用ノ議決定セザルト、資本ニ不充分ナルトニ因テ其事業ハ遲々トシテ眠ルガ如シ。故ニ今後我ヨリ之レヲ促シ、且ツ能フ丈ノ助力ヲ與ヘザルトキハ成功覺束ナシ。

## 五、日本貨幣ノ流通ヲ助成スルコト。

現今日本紙幣ノ朝鮮國內ニ流通スルモノ其高蓋シ百萬圓ニ下ラザル可シト雖モ、多クハ貯藏若クハ遞送ノ便ニ供スルマデニテ、未ダ貨幣トシテ一般ニ通用セラル、境ニ至ラズ。故ニ其流通ヲ助成セントスルニハ差當リ三港及ビ京城、若クハ京城、釜山ニ日本銀行ノ代理店ヲ置キ、交換ノ道ヲ開クベシ。目今朝鮮人ハ銀貨ヨリモ寧ロ紙幣ヲ好



ム方ナレバ、銀貨ノ準備ハ多額ヲ要セザルベシ。且ツ又外國ニ在テノ事ナレバ、例外ニ交換ノ際（紙ヲ銀ニ、銀ヲ紙ニ交換スルニ限ラズ）相當ノ手數料ヲ徴收シテ其費用ヲ補フモ可ナラン、隨テ幾分カ交換ヲ制スルヲ得ベシ。

右ハ鄙見ノ大略ニ有之、尤モ其内清人ノ忌嫌ニ觸ルベキ事柄ハ、縱令駐韓清使ノ贊助ヲ得ルニ至ラズトモ、彼ヨリ妨害ヲ受ケザルマデノ豫防ヲ爲サル可カラズ。依テ茲ニ韓人ノ清國ニ對スル感情ノ一般ヲ併陳シテ閣下ノ御參考ニ供セントス。現今韓人ハ清國ヲ尊崇シ、之レニ敬事スト雖モ、今ノ清朝ハ本ト長白山ノ北方ニ國シ、其初メ韓人ヨリ夷狄視セラレタル關係アルヲ以テ、内心決シテ之レニ服從セズ、獨立ヲ希望スル者多シ。加之、近年清國ノ舉動ハ漸次朝鮮ノ國政ニ干涉スル傾向有之ニ付、韓官ハ多ク之レヲ厭忌スルモノ、如シ。故ニ袁世凱ガ韓廷ニ及ボス勢力ハ決シテ日本ノ諸新聞ガ言フ如ク大ナラズ。表面其勸告ニ從フモ實行ハ往々之レニ反シ、或ハ無遠慮ニモ故ラニ清人ノ忌嫌ニ觸ル、コトアレバ、袁氏モ幾ンド其扱ヒ方ニ困ミ、時々話端ニ發セリ。去リ乍ラ之レヲ我ガ韓廷ニ對スル勢力ニ比較シテ素ヨリ幾層ノ上ニ居レバ、我ガ進路ヲ妨害スルニ於テハ充分ノ力アリト認メラレタリ。故ニ前述ノ目的ヲ達セントスルニハ、清國ノ妨害ヲ豫防スベキハ勿論、日、清ノ同意ハ（縱令表面ノミニテモ）大ニ韓人ヲ畏怖セシメ、運動上利目アルベシト思惟セラレタリ。

又袁世凱ハ深ク朝鮮ノ事情ニ通ジ、活潑ニシテ有爲ノ氣象ニ富メル人物ナレバ、若シ清國ト相提携シテ事ヲ爲サントスルニハ他ノ凡庸ナル清官ヨリハ、當人ヲ駐ムルコトハ幾倍ノ便益可有之ト存候。右ノ件ニ付テハ威嚴ヲ顧ミズ、鄙見ノ儘及具陳候間、何分ノ御詮議相成候様致度不堪希望候。敬具

明治二十七年二月二十二日

公使館二等書記官 杉 村 濬

外務大臣 陸 奥 宗 光 殿



## 對韓意見書

杉村 濬

朝鮮ニ對スル我が政略ヲ定メント欲セバ、第一、朝鮮ノ國情、第二、日韓交渉ノ歴史並ニ我ニ對スル第三各國ノ關係ヲ詳ニシ、然ル後將來ニ向テ我が執ルベキ針路ヲ尋ネザルベカラズ。我國人ノ常言トシテ朝鮮ハ貧弱且ツ未開ニシテ、我國ニ比較セバ後進國ナリ。故ニ我ハ常ニ開導誘進ノ地位ニ立ツベキハ勿論、我が威勢ノ及ブ所思フ如クナラザルコト無カルベシト、憐レナル朝鮮國ノ現状ハ政府ノ不體裁ヲ始メトシテ、人民ノ無氣力、陸海兵備ノ整ハザル、學事、工藝、農商ノ振ハザル等、百事皆地ニ墜チタル有様ナレバ、恰モ大人ノ小兒ヲ扱フト一般、思フ存分ニ我が見込ノ程ヲ行フヲ得ルガ如シト雖モ、如何セン之レヲ内ニシテ朝鮮ノ國情ハ決シテ之レヲ許サズ、日、韓古來ノ歴史ハ彼等ヲ容易ニ甘服セシムル能ハズ、之レヲ外ニシテハ各國ノ關係之レヲ許サズ、況ンヤ近來彼等ハ能ク其ノ關係ヲ洞觀シ、甲乙對照比較シテ取捨ヲ爲

スニ於テオヤ。左レバ我が見込ノ往々蹉跎シテ行ハレザルハ決シテ故ナキニアラザルナリ。

扱テ朝鮮ノ國政ハ如何、我が論者ハ往々此國ヲ以テ我が維新幕末ニ比スレドモ、決シテ其ノ當ヲ得タリト謂フベカラズ。朝鮮ハ外國ト交際ヲ開キタル已來ノ年數ハ略ボ幕末ニ同ジト雖モ、政事上、工藝、物産等外形ニ顯ハレタル進歩ハ遙カニ幕末ニ及バズ、之レニ反シテ國民ノ腦髓ハ半熟ノ儘老衰シ、幕末ニ於ケル活潑ノ氣象更ニナシ。要之、朝鮮ノ開化ハ我が千年前ノ儘ニシテ、更ニ年數ヲ重ネ漸次老朽シタルモノト斷言スルモ過當ニアラザルベシ。加之、多年不規則ナル政治ノ下ニ生息シ、官ヲ畏レ、貧ヲ守ルヲ以テ守身ノ要旨ト心得タル習慣ハ自然其性ヲ成シ、人民ノ頭腦中ニ國ト云フ觀念ニ乏シ。之レニ伴ヒタル弊害ハ人民益々狡智詐謀ニ富ミテ信用地ヲ拂ヒ、苟且偷安以テ世ヲ送ル者滔々タル天下皆是レナリ。或人韓官ヲ評シテ曰ク、彼輩ノ希望ハ飲食ノ二事ニ過ギズ、又曰ク、韓人ハ強壯ノ五體ヲ具ヘタル老人ナリト、善ク評シ得タリト云フベシ。大凡朝鮮ノ現状ヲ概叙セバ、上ハ無限ノ權力ヲ有セラル、一ノ王室ヲ戴キ、議政府六曹及ビ内外衙門等ノ十餘衙ヲ以テ中央政府ヲ組織シ、地方ニハ八道ニ觀察使ヲ置キ、其下ニ牧使、府使、郡守、縣令、縣監等アリ。軍備上ニハ京ニ六營、地方ニ（兵馬、水軍）節度使、防禦使、節制使、僉節制使、萬戶等ノ武官ヲ置イテ守備ニ充テ、其形井然具備スト雖モ、多クハ其名ノミ存シテ實防更ニ舉ラズ、肝腎ナル議政府六曹モ其役所ハ廢寺ト同様ノ觀ヲ爲シ



テ、事務ハ總テ長官ノ私宅ニテ取扱ヒ、大事アレバ各大臣王宮ニ集合シテ評議スト云フモ、平生ハ各衙獨立シテ相關聯セズ、勢力アル大臣若クハ寵臣ハ隨意ニ國王ノ前ニ出テ勅裁ヲ得テ事ヲ行フ。故ニ彼此牴觸スルコト多ク、領議政ハ昔日ノ我が太政大臣ニ相當スベキモノニテ、首相ノ任タリト雖モ、是レ亦閑職同様ニテ、實權ヲ執ル者ハ勢道ト稱シテ近年外戚閔氏更ニ之レニ任ゼリ。法律規則ハ書冊ノ儘之レヲ高閣ニ束ネ、司法ノ官吏ト雖モ之レヲ閱セズ、大抵成法ニ由來セル習慣ニ長官ノ意見ヲ加ヘテ處分スルコトナレバ、次第々々ニ法文ニ遠カリ、幾ンド無法ニ近キ有様ナリ。又時々發布スル禁令ハ、發令其人ノ權力ト事情ノ如何ニ因テ或ハ初メヨリ全ク行ハザルモノアリ、暫時行ハレテ自然廢止ニ歸スルモノアリ、禁令ノ達ハ屢々下レドモ未ダ嘗テ廢止ノ達アルヲ聞カズ。蓋シ必要ナキガ爲メナラン。國情斯ノ如クナル故ニ、官吏モ人民モ法律規則ヲ重ズルヲ知ラズ、恐ル、所ハ唯ダ國ノ習慣ト上ニ立テ生殺與奪ノ權ヲ握ル者ノ二ニ在ルノミ。轉ジテ財政如何ヲ觀レバ、戶曹ハ我が大藏省ニ似タリト雖モ、近年宣惠廳ノ權力増大シ、財權統一セザルノミナラズ、各官衙亦各多少ノ收入アリテ其用ヲ補ヘリ。甚シキニ至リテハ王族ノ家ニ御用ト稱シテ勝手ニ新稅ヲ徵スルコトアリ、慶尙道洛東江沿岸ニ數多ノ收稅所ヲ設ケ、通行船舶ニ課稅スルモノハ往々右等ノ類ナリ。財政ノ錯雜斯ノ如クナレバ、歲出入ノ豫算ナドハ全ク之レナキ處ニ王室ノ供用制限ナク、國庫ハ常ニ空虛ニシテ餘儲ナシ。

勢力アル大臣ハ錢穀ノ收入ヲ待テ先ヲ爭ヒ受取ル風ナレバ、百官ニ給スル俸祿モ兵隊ニ渡ス米錢モ滯リ勝ニテ、數ヶ月間無祿無給ナルコト常ノ如シ。近頃聞ク、雇外國人ノ給料マデモ十餘ヶ月間渡サザルモノアリト。尙ホ一ノ甚シキ弊害ヲ舉グレバ、地方官ハ人民ニ直接シ、不正ノ收入多キヲ以テ人ニ熱心ニ之レヲ願望スル所ナルガ、近年ニ至リ其ノ願望ニ乘ジテ之レヲ鬻賣シ、以テ王室ノ一財源ト爲セリ。去ル明治十九年頃ノ調ニ據ルニ、八道ノ觀察使ハ二萬兩乃至五萬兩(當時ノ相場ニシテ我が四千圓乃至一萬圓)、府吏ハ二、三千兩ヨリ四、五千兩、其已下郡守、縣令ハ千兩乃至二千兩程ト聞ケリ。故ニ地方官ヲ志願スル者ハ先ヅ金主ト豫約シ、拜命ノ即時ニ其金ヲ上納シ、赴任スルヤ否ヤ直チニ徵收ニ着手スル故ニ、人民其誅求ニ堪ヘズ、殊ニ地方官三千ノ任期中トテモ安心ナラザレバ、王室ヘノ獻納ト有權家ヘノ贈遺ハ一日怠ルベカラズ、且ツ獻贈多キ者ハ良二千石ト稱セラレ、往々重任又ハ昇任セラル、コトアリ、故ニ地方官ノ鬻賣ハ今日一種ノ租稅トナリ、容易ニ之レヲ廢スル能ハズ。其ノ反動ノ結果トシテ地方ノ行政ハ益々等閑ニ付シ去ラレ、正稅次第ニ減少シ(尤モ他ニ原因アルコトナルベケレドモ)古昔八道ノ田畝ハ二百四十萬結ト稱セラレタルモ、追々其數ヲ減ジ、今日ノ帳簿面ハ僅々六十萬結ニ過ギズト云ヘリ。以テ其他ヲ類推スベシ。茲ニ朝鮮ノ不規則ヲ慥ムベキ證據トシテ左ノ三件ヲ掲グベシ。



一、彼ノ有名ナル咸鏡道防穀ハ當時外務省督辦ハ條約ノ重キヲ思ヒ、國王ニ奏聞シテ切ニ之レヲ禁ゼント試ミタルモ、該道觀察使ハ督辦ノ無權力ヲ侮リ、且ツ竊カニ權臣ト結托シテ依然之レヲ施行シ、半ケ年ノ久シキニ及ベリ。

一、近年興リタル貨幣事業モ一方ニハ銀銅ノ新貨ヲ發行シテ舊錢ト交換セントスルカト思ヘバ、他ノ一方ニハ依然粗惡錢ヲ續鑄シ、已ムベキ氣色ナシ。而シテ双方トモ國王ノ允准ヲ得タルモノナレバ其鑄造權ハ無限ナリ。

一、紅蔘ハ特許ヲ受ケテ之レヲ製造シ、之レヲ販賣スル制度ナルニ、去年中王室ニハ一時ノ窮ヲ救ハンガ爲メ近臣ニ内命シ、禁ヲ犯シテ支那人ニ密賣セシメタルコトアリ、人之レヲ王室ノ密商ト云フトゾ。

朝鮮ノ國情ハ大概已上ニ列舉シタル如ク、不始末、不體裁極マルコトナレバ、外國ト訂約通商シテモ彼等ハ能ク其條約ヲ嚴守シ通商ヲ保護スルコトハ頗ル困難ト察セラレタリ（自國ニ法律ナキニ非ザルモ、嘗テ正當ニ行ハレタルコトナク、又其ノ官吏ハ嘗テ自國ノ工商ヲ保護シタル例ナキヲ觀テモ推測シ得ベシ）、左レバ之レト交際スル外國ハ深ク其ノ國情ヲ洞察シテ之レニ對スル方針ヲ定ムベキハ素ヨリ論ナキコトナリ。

日、韓交際ノ歴史ハ世人ノ熟知スル所ナレバ之レヲ再演セズ、其ノ歴史ニ據テ古昔我が文物

ハ多ク朝鮮ヨリ輸入シ、我ハ後進國タルコトハ彼我共ニ認メタルコトナリ。之レニ緣由シテ朝鮮ハ常ニ我ヲ鄙ミ甚シキハ倭奴ト稱セリ。殊ニ豊公征韓ノ役ハ實ニ百世ノ怨ヲ買ヒ、今ニ至ルマデ之レヲ書ニ載セ、之レヲ心ニ銘シテ忘レズ、故ニ韓人ノ我ニ對スル感情ハ決シテ我が朝鮮ヲ視ルガ如クナラズ、外敵ト云ヘバ先ヅ日本ニ屈指シ、日本人ヲ視ルコト虎狼ノ如クナリキ。近來東學黨ノ激文ニ於テモ其一端ヲ見ルベシ。然ルニ明治九年改約已來、我が政府ハ專ラ朝鮮ノ獨立ヲ保護シ、朝鮮人ヲ開導スルコトニ盡力セラレタル結果トシテ、同十三年中金宏集、修信使トシテ東京ニ赴キタル際ニハ、大ニ開悟スル所アリテ歸國シ、專ラ日本ト相提携シテ其國ヲ開明ニ進マシメンコトヲ務メ、加之、釜、元兩港ヨリ輸入シタル外氣ハ漸ク國民ノ開發心ヲ誘ヒ、翌十四年ニ至リテハ視察官トシテ洪英植、閔種默、趙秉穆、魚允仲、朴定陽等十名程日本へ派遣セラレタリ。此ノ人々ニハ數月間滞在シテ各種ノ取調ヲ遂ゲタル後歸國シタリシガ、是レヨリ韓廷ノ内ニ陰然日本黨ヲ形成シ、其ノ人々ハ是非トモ日本政府ガ執リシ方針ヲ逐ヒ、之レト相提携シテ此ノ國ヲ開化セント務メ、同年中我が公使館附堀本中尉ニ依頼シテ洋式兵ノ訓練ニ取掛リタリシガ、不幸ニモ十五年七月ノ暴舉ニ遇フテ廢セリ。此ノ暴舉ノ原因ハ今日マデ判然ナラザレドモ、閔氏ヲ斃シ日本人ヲ攘ハントノ目的ニ出デ、兵隊ノ不平ニ投ジテ大院君ガ之レヲ利用シ、以テ彼ガ如キ始末ニ及ビタリト云フ說ハ事實ニ近カルベシ（但シ此前閔氏ハ



日本ニ傾キタル模様アリシ、此ノ騷亂ノ爲メ日本黨ノ勢力ハ一時頓挫シタリシモ、程ナク大院君失敗シテ閔黨政府ノ再興ト共ニ益々其ノ勢力ヲ伸張シタル處、恰モ此ノ機ニ乗ジテ清國政府モ亦其力ヲ朝鮮ニ伸シ、我ト共ニ護衛兵ヲ京城ニ駐在セシメ、陰然我ヲ相制セント試ミタル爲メ、韓廷中ニ日本、支那ノ兩黨ヲ生ジ、互相軋轢シ、而シテ其結果ハ十七年冬ノ變亂ト爲レリ。此ノ變亂ハ日本黨失敗、支那黨勝利ノ大關鍵ニシテ、此レヨリ已來日本人ノ勢ヒ頓ニ減却シ、前日マデ韓官盛シニ出入シタル我ガ公使館門ハ、今外務當局官吏ヲ除クノ外出入セザル様ニ變ジ、實ニ面目ヲ失ヒタリキ。去リ乍ラ十八、九年ヨリ二十一、二年ニ掛ケテ徐々恢復ヲ務メラレ、亂後ニ於ケル不面目ハ少シク雪グヲ得タリシモ、朝鮮人ノ感情ハ再ビ十二、三年前ニ立戻リ、常ニ我ニ向テ猜疑心ヲ懷ケリ。殊ニ金玉均一類ハ我ニ向テ時々奇妙ナル風説ヲ醸シタルハ益々彼輩ヲシテ我國ヲ疑ハシメタリ。此ノ前後ニ當リ朝鮮政府ニ困難ヲ感ゼシメ、我ヲ厭忌スル心ヲ生ゼシメタルモノハ、兩國間ニ興リシ數多ノ交渉事件ナリ。抑モ朝鮮ハ我ト更約シテ大海路ノ貿易ヲ開キタル已來、今日マデ凡ソ十六年ニ及ビ、支那ハ十二年、米、英諸國ハ十年程ナリ。此間朝鮮政府ハ外交上ノ困難ヲ感ジタルハ英、米ニアラズ、支那ニアラズ、十中八、九マデハ日本ナリ。其ノ重ナルモノヲ舉ゲレバ、第一、明治十一年頃釜山ノ課稅事件、第二、同シク十四年元山ノ殺傷事件、同十五年及ビ十七年ノ變亂ヲ除キ、第三、同十八年電線事件、第

四、十九年濟州賠償事件、第五、同殺人事件、第六及ビ七、同十二、三年已來元山及ビ黃海道ノ防殺事件ニシテ、其他細件ヲ尋ネバ枚擧ニ暇アラズ。故ニ事理ヲ辨別セザル朝鮮政府ヨリ觀ルトキハ、列國中日本程交際ニ困難ナル國ナシト思フハ無理ナラヌ事ナリ。尤モ右ニ列擧シタル事件ハ總テ朝鮮政府ノ不都合ヨリ興リシ結果ニ相違ナキモ、其ノ國情ハ前述ノ通りナレバ、彼等自ラ不都合ト思ハズ、却テ之レヲ咎ムル我ヲ指シテ過酷ト爲シ、之レヲ怨惡スルノ心ヲシテ益々深カラシメタリ。故ニ韓廷ノ官吏ハ今日口ニ和親トカ、東洋同胞ノ邦トカ唱フト雖モ、其實大局ニ注目スル者少ナク、大抵我ヲ侵伐ノ野心アリト誤認シ、即チ昔日ノ日本ハ干戈ヲ執リテ侵伐シタル代リニ、今日ノ日本ハ條約ヲ攻道具ト爲シ、平和手段ニテ侵伐ノ目的ヲ達セントスルモノナリト思フガ如シ。近日閔應植ノ上書中ニモ、日、韓條約ハ專ラ日人奸黠ノ主見ニ成ルモノナリト云ヘリ。要之、前述ノ如ク不體裁ナル現政府ニテハ、到底不埒ナル官吏ノ舉動ヲ檢制シ能フベシト思ハレザレバ、將來我レ若シ寸分ノ容赦ナク小過瑣失ヲ數ヘテ盡ク之レヲ責ムルトキハ、朝鮮ハ其ノ苦難ニ耐フル能ハズシテ益々我ヲ怨惡シ、而シテ其ノ歸極スル所ハ我モ朝鮮政府モ共ニ面白カラザル位地ニ推シ移ルベシ。是レ熟慮セズンバアルベカラザルコトナリ。

各國ノ朝鮮ニ於ケル其ノ關係ノ大ナルモノハ支那ニシテ、日本之レニ次ギ、而シテ露國、而



シテ英國ナランカ、支那ト朝鮮トハ古來ノ關係甚ダ密ニシテ世々之レニ服事シ、封世ヲ受ケ、朝貢ヲ修メ、正朔ヲ奉ズル等ノ禮節ニ於テ嘗テ缺ケタルコトナク、又朝鮮ガ外國ヨリ侵伐セラレ、危急ナル場合ニハ支那ヨリ出兵シテ之レヲ援助シタル例モアレバ、朝鮮人ハ事大(支那ニ服事スルヲ云フ)ヲ以テ保國ノ要訣トナスコト或ル韓人ノ著書ニ見エタリ。殊ニ韓人ハ自ら支那人ノ末流ニシテ、其ノ文物、工藝、總テ支那ノ賜ナリト信ズルヨリ、支那ヲ宗國ト仰ギ、大國ト尊ビ、支那人ヲ視ルコト恰モ譜代諸侯ガ舊幕人ヲ視ルガ如シ。彼ノ東學黨ハ外人排斥ヲ唱ヘナガラ、支那人ニ及バザルモノ是レガ爲メナリ。清、韓兩國ノ間柄既ニ斯クノ如シトセバ、之レヲ百世ノ仇ト斥ケ、倭奴ト鄙メタル日本人ニ比較セバ、實ニ霄壤管ナラザル次第ナリ。然ルニ近年ニ至リ朝鮮人ガ多ク日、清兩國人ニ直接シ、且ツ屢々公務或ハ漫遊シテ兩國ノ政事、民情ヲ觀ルニ及ンデ、始メテ中國人ノ深ク尊慕スルニ足ラズシテ、却テ日本人ノ親ムベク、傲フベキヲ悟リ、稍ヤ其意ヲ傾ケタルハ僅カニ十餘年來ノ事ナリ。去リ乍ラ是レモ唯々少數ノ官吏ト日本人ニ親接スル限リアル商人ニ止リ、其他多數ノ朝鮮人ハ依然昔日ノ儘ナリ。今朝鮮ノ日、清兩國ニ對スル感情ヲ對照スレバ左ノ如シ。

支那ニ對シ

日本ニ對シ

一、世々服事シ朝貢ヲ修メ大國若クハ中國ト

一、後進國ト見做シ倭奴ト鄙メリ。

尊ベリ。

二、古來征伐ヲ受ケタルコトアルモ是レ皆背叛若クハ反命ヨリ興リタル結果トシテ之レヲ怨ミズ。

三、近年ニ至テモ外國ト事ヲ生ジタルトキハ必ラズ支那ト謀リ、其内援若クハ周旋ヲ以テ難ヲ免レタルコト多シ。

四、近世歐洲ノ文化ヲ慕フノ士ハ漸ク支那ヲ疎ジ、其尊ブベカラザルヲ覺悟セリ。

朝鮮ニ於ケル日、清兩國ノ比較ハ前記ノ如シ。左レバ我國ハ多年其徳ヲ積ミ、其功ヲ重ネ、以テ韓人ノ尊信ヲ得ルヲ勉ムベキハ勿論ナルニ、實際ノ事情ハ之レヲ許サズ、僅カニ得タル信用モ一事件ノ興ル毎ニ之レヲ減ジ、從前日本方ト稱セラル、人々ヲシテ其影ヲ隱サシメ、滿廷幾ンド斥倭黨ニ變ゼントスルハ遺憾ノ至リナリ。露國ハ近年頻リニ親交ヲ朝鮮ニ求メ、宮中ニハ聊カ人望ヲ得タリシトノ説アレドモ、本ト是レ異人種ニシテ、韓人ガ訂約已來露國ヲ恐懼スルノ念已マザレバ決シテ未ダ支那同様ノ勢力ヲ有ツニ至ラズ。唯ダ露國ハ嘗テ害ヲ朝鮮ニ加ヘ

二、古來征伐ヲ受ケタル内ニモ豊公征伐ノ役ハ今猶ホ人民ノ口碑ニ傳ハリ深怨ヲ含メリ。

三、朝鮮ノ事變ハ多ク日本ヲ敵視スル場合ナレバ今日マデ斯カル事ナシ。

四、近世歐洲ノ文化ヲ慕フノ士ハ漸ク日本ニ親ミ其傲フベキヲ悟レリ。



タルコトナク、既往現今ノ交渉事件ハ陸路通商ト電線通聯位ニ過ギザレバ、韓人ハ未ダ露國ヲ以テ交際ニ困難ナル國ト認メズ。其他英、佛、米、獨ノ各國ハ其ノ關係ニ大小ノ差アルマデニテ、未ダ著シキ勢力ヲ此國ニ及ボサザルガ如シ。前述ノ形勢ハ果シテ永ク持續スルヤ否ヤ知ルヲ得ズト雖モ、我が政略ヲ定ムルニ於テハ最モ之レニ關係セズンバアルベカラズ。今日我が國力ハ能ク朝鮮ノ輿望ニ反シ、各國ノ故障ニ打勝チテモ以テ其目的ヲ達スルニ足ラバ則チ論ナシト雖モ、若シ然ラザルトキハ一意ニ朝鮮ヲ藐視スル心ヲ抑制シ、能ク形勢ヲ斟酌シテ事ヲ處スルコソ頗ル緊要ト思惟セラレタリ。

## 結 論

今日我國ガ執ルベキ方針ハ矢張從前ノ針路ヲ追ヒ、朝鮮ヲ開導シ、共ニ富強ニ進ムベシ。且ツ現今ノ勢ヒ其ノ方針ヲ執ルコト急要ナラン。縱令之レヲシテ軌道ヲ誤ラザルトキハ、自ラ各國ノ猜疑心ヲ減少セシメ、朝鮮ノ運命ヲシテ永カラシムルヲ得ベシ。且ツ我國ハ始終此方針ヲ執ルトキハ、不幸ニシテ朝鮮ハ其運命ヲ保ツコト能ハザル場合ニ於テモ專ラ我國ニ依頼シ、我が保護ノ下ニ立ツヲ願フベシ。近年ニ至テハ兵略主義ヲ持スル人々ノ勢力ハ大ニ減少シタリト雖モ、平和手段ヲ以テ侵取ヲ行ハントスル者之レナキニアラザルガ如シ。國ト國トノ交際ニ於

テハ或ハ昔時英國ノ東洋諸國ニ對スル如ク、今日埃及ヲ取扱フ如ク、一步モ假借スル所ナク、能フ丈ケ其國ノ權利ヲ抑制シテ自國ノ權利ヲ伸張スルヲ務メ、且ツ其國人ノ不安内ニ乗ジテ自國ノ利益ヲ圖ルコトハ列國ノ間ニ國ヲ建テ、虎視眈々ノ世ニハ缺クベカラザルコトナリト雖モ、朝鮮人ノ日本ニ對スル感情ハ前述ノ如クナル上ニ、今日朝鮮人中ニモ早ク此等ノ事ヲ悟リ、案外ニ洞見シタルモノ多キガ如シ。又況ンヤ弱ヲ助ケ強ヲ制スルハ人情ナレバ、日、韓兩國ノ間ニ何か事件ノ興リシ時ハ、多少ノ不道理アルモ外國人等多ク朝鮮ヲ陰助スル方ナリ。故ニ右ノ手段ハ到底行ハレズ、若シ強ヒテ之レヲ行ハントセバ、朝鮮ヲシテ我ニ背カシメ、驅テ之レヲ他國保護ノ下ニ立タシムルマデノ事ナリ。左レバ其ノ本ニ反リ我が對韓ノ方針ヲ定ムルコト重要ナラン。試ミニ注意スベキ要點ヲ舉グレバ左ノ如シ。

一、我國ハ朝鮮ノ不利益トナリ、其國ノ衰弱ヲ致サシムベキコトハ可成丈之レヲ避ケ、且ツ他ニモ斯様ノ事ヲナサシメザルヤウ注意スベシ。

一、朝鮮政府ニ於テ若シ條約違犯ノ舉アルトキハ、素ヨリ之レヲ嚴責シテ反省ヲ求メ、相當ニ謝セシムベシト雖モ、能ク其事情ヲ酌量シテ出來得ル丈ケ寛大ニ扱フベシ。尤モ平生彼等ニ注意ヲ加ヘ條約違犯ノ舉ナキ様ニ豫防スルコト專要ナリ。

一、朝鮮ノ貧弱ヲ侮リ凌辱ニマギラワシキ舉動ニ及バザル様ニ注意スルコト勿論ナリ。



右ノ大方針ヲ執リテ漸次信用ヲ恢復シ、然ル後彼等ヲ開導スルコトヲ務ムベシ。尤モ寛待ニ過ギタル弊害ハ韓人其恩ニ忤レ、我ヲ輕無スル心ヲ生ズル掛念アリト雖モ、退イテ十餘年來ノ歴史ニ徴スルニ、必ラズシモ然ラザルガ如シ。之レヲ屢々威嚇手段ヲ用ヒテ其功少ナキモノニ比較セバ如何、況ンヤ彼等果シテ容赦シ難キ舉動ニ及ビタルトキハ、十五年ノ役ノ如ク相當ノ處理ニ及ブニ於テオヤ。彼等ハ十五年ノ役ニ向テ毫モ怨ヲ存セザルモノハ是レガ爲メナラン。此外兩國間ニ生ズベキ苦情ヲ除却スル方法ニ付テハ別ニ鄙案アレバ、追テ之レヲ陳述スベシ。

明治二十六年六月

## 井上伯金嘉鎮氏談話

明治二十七年十月二十五日仁川着ノ當日仁川領事館ニ於テ出迎ノ爲メ特派セラレタル外務協辦金嘉鎮氏トノ談話要略筆記。(一應ノ挨拶了リ)

金嘉鎮氏曰ク、這回貴政府ハ我國ノ爲メヲ思ハレ、特ニ我國ノ事情ニ明カナル閣下ヲ簡派セラレ、事ニ成リタリト聞クヤ、我が政府ハ(政府ト云フハ彼等ノ黨ノ意ナラン)切ニ閣下ノ來着ヲ待テ設ケ居タルナリ。何卒此上ハ何事モ閣下ニ頼リ、及バズナガラ吾々モ我が國家ノ爲メ盡ス所アラントス。

井上伯曰ク、貴官ハ久シク我國ニ駐劄セラレ、能ク我國情ニ通ゼラル、儀ナルガ、實ニ今日ハ一方ニハ日、清開戦中ニアツテ國事多端ノ時ナリ。拙者モ内務大臣トシテ國政ニ參與シ、須臾モ遑ナキ身ニシテ、樞要ノ職ニアリシニモ拘ハラズ、我 天皇陛下ノ命ヲ奉ジ、貴國ニ來航スルニ至リタルハ、抑モ日、清開戦ノ原因ハ即チ貴國ノ内政改革ニ



アリ。然ルニ若シモ貴國內政改革ニシテ獨立ノ實ヲ舉ゲシムルノ目的ヲ達スル能ハザレバ、折角我國ガ數萬ノ軍兵ヲ出シテ血ヲ流シ、幾千萬圓ノ財ヲ費スモ全ク水泡ニ屬スベシ。去レバ今日貴國內政ノ成功如何ハ大ニ我國ノ目的ニ關スル儀ナレバ、畏クモ我 皇帝陛下ハ是レヲ以テ 叡慮ヲ惱マセラレ、國家多端ノ際ナルニモ拘ハラズ、拙者ヲ廣島ニ召シ、是非渡韓ノ上貴國大君主始メ當局者ニ勸告シテ、何處マデモ貴國內政ヲ改革シ、獨立ノ實効ヲ奏セラル、ヤウ致シ度トノ 御思召ニ出デタルナリ。然ルニ拙者ガ貴政府部内ノ事ニ關シ是レマデ聞キ得タル處ニ據レバ、隨分紛雜ヲ生ジテ改革ノコト容易ニ拂取ルベキ見込無之ト云フ。惟フニ改革ノ事タル、頗ル困難ノ大業ナレバ、宜シク王家ノ一致並ニ當局者ノ同心協力、一意以テ此ノ難局ニ當ルノ決心ナカラザルベカラズ。苟クモ互ニ私怨ヲ挾ミ、或ハ私利ヲ營ミ、或ハ權勢ヲ爭フガ如キコト有之テハ到底改革ノ實効ヲ望ムベカラズ。拙者ハ貴國ニ對シテハ尤モ公平ナル意見ヲ抱キ、是レハ何黨、彼レハ何黨ダト云フテ、其何レノ黨派ニ左袒シ、何レノ黨派ヲ助クルト云フ如キ偏頗ナル處置ヲ爲スモノニアラズ。第一大君主陛下、第二中宮陛下、第三大院君ト此間柄ハ最モ親密ニシテ毫モ疑念ノ存スルナク、釋然和衷ナラザレバ、王室ノ鞏固得テ望ムベカラズ。王室ノ鞏固ナラザルハ政府ノ鞏固ナラザル所以ナリ。

拙者ハ此點ニ就イテ充分大君主陛下始メ各大臣ニモ勸誘致度キ覺悟ナリ。貴官ニモ篤ト其邊ニ注意セラレ、此期ハ一層國家ノ爲メ盡力セラレタシ。實ハ拙者モ着早々ニテ未ダ貴政府部内ノ實況ヲ盡ス能ハザレバ、隨テ未ダ何等ノ定案モナシ。孰レ追々諸君ノ意見ヲ叩キ、鄙見ヲモ披瀝、以テ我 皇帝陛下ノ 御聖意ヲ貫通シ、漸ク以テ着々歩ヲ進メ、改良ノ効ヲ奏シ、獨立ノ實ヲ舉ゲシメントスルニ外ナラズ。

金曰ク、今日ニ於ケル我國ノ事、實ニ嘆息ニ堪ヘザルナリ。吾々同志數個ノモノ切ニ内部ニアツテ奔走シ改革ヲ努ムルモ、種々ノ刺戟ニ遇ヒ、何事モ中途ニシテ阻喪スルコト多シ。加フルニ當局者中ニモ口ニハ成程開明主義ヲ説クモ、其内幕ニ入ラバ必ラズシモ然ラズ。目下ノ所中々以テ我輩數個人ノ力如何トモスル能ハズ。殆ンド絶望ノ域ニ沈ムモノナリ。然ルニ幸ニモ閣下ノ來任ヲ得タル以上ハ、驥尾ニ附シ吾々モ可及丈國家ノ爲メ一ト奮發致スベシ。

井上曰ク、最早今日ノ好機會ハ再ビ來ラザルベシ。徒ニ猜疑離間、或ハ朋黨ノ爭鬪、舊怨ノ復讐ニ日ヲ送り、改革ノ實効ヲ見ル能ハザランカ、貴國ノ前途ヲ察スレバ國歩艱難ノ極再ビ至ラントス。拙者モ貴國內政改革ノ援助ニ與カリ、如何ニ力ヲ盡スモ到底望ミナキモノト見做セバ、折角我 天皇陛下ノ 御思召ニ背ケドモ致シ方ナシ。拙者ハ斷然



事由ヲ奏請シテ進退ヲ決スベキナリ。實ニ今日ハ大切ノ場合ナレバ、貴政府ノ當局者モ熱心事ニ當リ、逡巡時日ヲ移シ時機ヲ失フ可カラザルナリ。

金曰ク、誠ニ貴意ノ如シ。此ノ時機ヲ失フガ如クンバ再ビ我國ノ事望ムベカラズ。去レバ何分ニモ此ノ期ハ閣下ニ頼ツテ改革ノ實効ヲ舉ゲ度シ。又閣下ノ御注意ハ我が政府部内ニモ一々徹透スルヤウ拙官ヨリ取り做スベシ。終ニ臨ンデ拙官モ今日ノ地位外務協辦ノ重職ニアルモ、其實無才無能、甚ダ之レヲ愧ヅ、去ルニテモ閣下我國ニ人物少ナキノ一事ヲ察セラルベシ。云々

右ニテ金氏ハ孰レ京城ニテ委細御面話可致トテ辭シ去ル。

## 李俊鎔トノ談話筆記

十月二十七日午後一時統衛使李俊鎔氏來訪セリ。(氏ハ大院君ノ嫡孫ナリ)。初對面ノ挨拶了リ、

李氏曰ク、貴政府ガ我國ニ對セラル、厚意ハ今更申スマデモナキコトナガラ、特ニ這回ノ事件ニ就テハ一層我國ノ爲メ御盡力ニ及バレ、猶ホ又老練ナル閣下ノ來任ヲ得タルハ我國ノ爲メ此上無キ幸福ニシテ、偏ヘニ御助成ヲ仰ギタシ。

井上曰ク、御談話ニ就キ茲ニ拙者モ一ト通り貴聽ヲ煩シ置キ度キ事アリ、其レハ目下日、清交戰中ニアリテ、我邦ハ最モ多事ノ際ナレバ、拙者モ内務大臣トシテ一日モ闕下ヲ離ルルノ違ナキ地位ナルニモ拘ハラズ、全權公使ニ轉ジタルモノハ、畏クモ我 皇帝陛下ハ貴國ニ於ケル内政改革ノ事ニ痛ク宸襟ヲ惱マセラレ、拙者ヲ大本營ニ召サセラレ、會テ明治九年以來都合三回モ朝鮮ノ事局ニ當リタル廉ヲ以テ、特ニ此ノ任務ヲ拙者ニ



御委任相成、貴政府ヲ幫助シテ是非共改革ノ實効ヲ奏スル目的ヲ達セラル、ヤウ、大君主陛下始メ陛下ノ政府諸大臣ニ勸告シ、又補助スベシトノ御聖意ニ外ナラザル次第ナリ。今ヤ御承知ノ通り我邦ハ一方ニハ數萬ノ軍旅ヲ出シテ鮮血ヲ流シツ、又一方ニハ巨萬ノ財ヲ費シツ、アルナリ。是レト申スモ畢竟貴國ノ獨立ヲ鞏固ナラシメ、東洋局面ニ立タシメントスル我國民一般ノ輿望ニ出デタルモノナリ。然ルニ貴國人ハ是レヲ思ハズシテ、口ニコソ改革々々トノ聲ヲ爲スモ、其實ハ私黨ヲ樹テ互ニ争フアリ、或ハ自家ノ利慾ニ汲々タルアリ、或ハ權力ノ争奪ニ忙ハシキナド、夫レ此ノ如クニシテ曠日彌久國政改革ノ事其實効ヲ奏スル能ハザランカ、最早再ビ時機ノ乘ズベキナク、貴國ノ前途竟ニ復タ收拾スベカラザルニ至ランモ知ルベカラズ。何事モ一度アルコトハ二度アリト云フ、日、清ノ平和此ニ一タビ破綻セリ、他日何等ノ變事何邊ニ起ルベキヤモ圖ルベカラズ。惟フニ東洋ノ天地ハ是レヨリ益々多事ナルベシ。苟クモ貴國ノ當局者タルモノ、眼ヲ活大ニシテ宇内ノ形勢ニ注目シ、此ノ多事ノ際ニ當テ同心協力速カニ國運ノ挽回ヲ努メザルニ於テハ、實ニ後悔及ブ莫キノ嘆アルベシ。就中貴下ニ多ク望マザルベカラザル理由ハ、貴下ノ一門ハ王室ノ尊族ニシテ、世間専ラ重キヲ置キ、前途多望ノ紳士ナレバナリ。何卒此期ハ別シテ誠意ヲ以テ奮發、國家ノ事

ニ盡力サレテ然ルベシ。

李氏曰ク、自分ハ曾テ一步モ國外ニ踏ミ出シタルコトナケレバ、固ヨリ識見ニ乏シク、東洋ノ形勢トテモ多ク不案内ナルモノ、今日閣下ノ懇篤ナル教ヲ得テ大ニ牙塞ヲ開ケリ。我國モ到底今日ノ如キ有様ニテハ實ニ前途ノ事憂ヒニ堪ヘザルナリ。今少シ早ク眼ヲ開キテ進歩的改革ヲ努メシナランニハ、斯クマデ憐レナル境遇ニハ沈マザリシナラン。思フテ此ニ至レバ汗顔ノ外ナシ。夫レニシテモ貴國ガ終始一轍ノ御厚意ト云ヒ、且ツ閣下ノ有益ナル勸告ハ謝スルニ辭ナキナリ。

井上曰ク、今日ハ午後三時外衙門ニ赴キ金大臣ト面見ノ約アリ、時刻已ニ廻ル、宜シク他日ヲ待テ具サニ暢談スベシ。

於是、李氏ハ尙ホ緩々申述度事多ケレドモ、姑ラク之レヲ他日ニ讓ルベシトテ辭ヲ殘シテ去レリ。



## 金允植ト談話筆記

井上伯ハ着任披露ノ爲メ十月二十七日午後三時杉村書記官並ニ通譯トシテ國分書記生ヲ帶同シテ外務衙門ニ赴キ、外務大臣金允植氏ト一條ノ談話ヲ爲セリ、其要領ヲ摘録ス。彼我互ニ一應ノ挨拶了リ、

井上曰ク、拙者が這回全權公使トシテ任ニ當國ニ蒞ムニ至リタル始末ヲ一ト通り申述ベ置クノ要アリ。御承知ノ通り我國ハ目下清國ト交戦中ニアリテ國事頗ル多端ノ秋ナリ。去レバ拙者モ國務大臣ノ一人、即チ内務大臣トシテ樞要ノ位地ニアルニモ拘ハラズ、公使トシテ駐在ヲ命ゼラレタリ。抑モ日、清事件ノ原因ハ我 皇帝陛下ノ宣言書ニ明カニ示サレタル如ク、貴國ノ獨立ヲ助ケラル、ノ目的ニ出デタルガ故、苟クモ貴國內政改革ノ舉ニシテ實効ヲ收ムル能ハザランカ、是レ大ニ我國ノ目的ト齟齬スルモノナリ。茲ニ我

皇帝陛下ハ我ガ國家多事ナリト雖モ、朝鮮ノ事亦タ敢テ默過シテ止ムベカラズトノ聖慮ニ出デ、特ニ本使ヲ廣島ナル大本營ニ召サレ、拙者が去ル明治九年江華島ニ於ケル和講以來、屢々朝鮮ノ事ニ折衝シタリトノ廉ヲ以テ、殊ニ全局ノ調理ヲ御委任相成リタル次第ナリ。我

陛下ガ貴國ノ國事ニ 叡慮ヲ惱マサル、コト已ニ此ノ如シ、宜シク貴政府タルモノ協和一致、赤誠ヲ以テカヲ國事ニ盡シ、互ニ私黨ヲ樹テ猜疑争鬭、國家ノ大業ヲ誤マルガ如キコトアルベカラザルナリ。又拙者モ我

皇帝陛下ノ厚キ 御思召ニ因リ此任ニリ膺タル以上、貴國ノ爲メ充分盡力スベキハ勿論貴政府ト雖モ一般普通ノ公使ト見做サレズシテ、何事モ隔意ナク之レニ胸襟ヲ開キテ御相談致シ度シ。之レヲ要スルニ大君主陛下並ニ貴政府ノ重臣ハ本使ヲ信用セラレ、本使亦タ貴政府ヲ信ズルニアラザレバ到底効果ヲ收ムベキニアラザルナリ。

外務大臣曰ク、貴公使ハ貴國ノ樞機ニ參セラレ、須臾モ離ルベカラザルノ身ヲ以テ此回圖ラズモ我國ノ駐劄公使トシテ蒞マル、ト聞キ、我ガ政府ニ於テモ極メテ貴國 皇帝陛下ノ厚キ御思召ニ據ルモノナラントテ一同感佩ニ堪ヘズ。特ニ我ガ大君主陛下ニモ切ニ閣下ノ來着ヲ待設ケラル、ナリ。今ヤ我ガ上下舉テ望ヲ貴公使ニ屬セリ、何卒此上ハ我



國ノ爲メ宜シク御開導アランコトヲ希望致スナリ。

又タ先程 御國書ノ謄本ヲ送ラレ繙讀ヲ遂ゲタリ。謁見ノ事ニ至ツテハ直ニ宮内大臣ヲ經テ奏請ニ及ビタレバ、何分ノ御汰沙アリ次第御報可申。

井上曰ク、前陳セシ如ク、今日ハ通常ノ場合トハ異ナリテ多事ノ際ナレバ、可成速カニ謁見ヲ了ヘ、早速任務ニ從事シタシ。

金大臣曰ク、勿論此際謁見ノ事ハ時日ヲ移サバルベシ。何レ宮内大臣ヨリ回答ヲ得次第御通知ニ可及。

井上曰ク、尙ホ豫メ申置キ度事アリ、拙者ガ當國ニ駐劄スルニ至リタルハ、前ニ述べタル如ク格段ノ譯合ナレバ、儀式的ノ謁見ニ限ラズ、何時モ必要アラバ特ニ内謁見ヲ賜ハラシコトヲ請フノ機會多カルベシ、豫メ前以テ大君主陛下ニ奏請シ置カレタシ。

金大臣曰ク、委細承知セリ。前任大鳥公使ノ時ニ於テ、内謁見ノコトハ已ニ允准ヲ經テ其一面ハ實行セラレタリ。況ンヤ貴公使ハ格段ニ我ガ大君主陛下ニモ待遇ヲ賜ハルコトナレバ、何時ニテモ内謁見ヲ允サル、ハ勿論ノ事ナリ。尙ホ本大臣ヨリ豫メ奏請致シ置クナルベシ。獨リ内謁見ノミナラズ、貴公使ハ屢々我ガ内閣大臣ノ會合ニ列セラレ、我ガ國政ニ關スル有益ノ助言ヲ與ヘテラタシ。

井上曰ク 本使ハ喜ンデ其席ニ列シ、各大臣ノ意見ヲ聽聞シ、亦タ鄙見ヲモ陳ブベシ。

金大臣曰ク 此レ貴公使ノ注意マデニ申述べ置キタシ、我國ニ二派ノ獨立主義アルコト是レナリ。其一ハ國歩ヲ進歩シ鞏固ナル獨立國ヲ作り、敢テ自國ノ權利ヲ他ニ侵害セラレザルコトヲ期セントスルモノナリ。其一ハ自ラ信ズルノ厚キ舊規ヲ株守シ、之レニ因テ獨立ヲ求メントスルニアリ。換言スレバ一ハ開明主義ニシテ、他ハ守舊主義ナリ。

井上曰ク 本使ハ貴政府ヲシテ何事ニ拘ハラズ悉ク歐米ノ開明主義ヲ移シ來レト云ハズ、凡ソ洋ノ東西ニアツテ風俗習慣ノ異ナル、自カラ其適否ヲ察セザルベカラズ。然レドモ取テ苟クモ國政ニ利アリトセバ、之レヲ取ランコトヲ望ムナリ。今ヤ數十年來因襲セラレタル制度及ビ習慣ハ即チ今日貴政府政治ノ腐敗ヲ來シタルニ非ラズヤ。其レ之レヲ思ハズシテ尙ホ唯一ノ舊規ノミニ拘泥シテ國政ヲ維持シ得ラル、モノ、如ク思惟セラレ、ニ於テハ、到底方今ノ危急ヲ救済スル能ハザルベシ。斯クテハ貴國ノ前途知ルベキノミ。今日如何ニ貴國ガ頽敗セシカヲ見ヨ。纔カニ一局部ニ與リタル東學匪徒ノ紛擾スラ、自國ノ力能ク之レヲ剿除スルコト能ハズシテ他國ノ援兵ヲ請ヒタルニアラズヤ。實ニ貴國ノ形勢ヲ觀察スルニ、恰モ重症ニ罹リタル病者ト一般ニシテ、内患已ニ重シ、亦外患ヲ加フルノ日ナキヲ保セズ。又タ家中火ヲ失シ、強盜外ヨリ迫ラントス



ルモノ、如シ。何ヲ以テカ外強盜ニ衝リ、内火ヲ救ハントスルカ。宜シク速カニ病源ヲ治シ回復ヲ計ラザレバ、世ノ大勢ハ貴國ノ爲メ長日月ヲ貸サバルナリ。當局者タルモノ此際事理ヲ推究シ、一意國政ノ改良ニ熱中セザルベカラザルナリ。

軍國機務處ニ於ケル議事ノ進行ハ尤モ速カナルガ如シ。亦タ其議論ハ頗ル多辯ナルガ如シ。然レドモ如何セン三ヶ月有餘ノ間、一事ノ實行ヲ見ズシテ殆ンド文具ト同一ナリ。如何ニ其論議ノ有益ニ、其ノ法案ノ高尚ナルニモセヨ、到底之レヲ實行セラザルモノトセバ、寧ロ機務處ナキニ如カズ。拙者ハ當局者ガ此ノ如ク優柔ノ間ニ日時ヲ送ラル、コトヲ惜マザルヲ得ザルナリ。自今必ラズ無責任ノ言行ヲ止メ、協同一致シテ國事ニ膺リ、彼ノ貴國ノ状態トシテ互ヒノ猜嫌、互ヒノ私怨ニ拘泥シ、或ハ互ヒニ離間策ヲナシ、宛モ婦女ノ痴話ニ均シキ振舞ナキヤウ望ミタシ。

金大臣曰ク 誠ニ貴公使ノ言ノ如シ。我國ノ有様ハ丁度重病人ト同様ニシテ、此ノ病根ヲ治セント欲セバ充分主治醫ニ重キヲ置キ充分ノ信用ヲ爲サバルニアラザレバ到底回復ノ期ナカルベシ。實ニ我が政府ハ一意改革案ヲ決行シタクハ思ヘドモ、如何セン財力ノ窮乏ニ制肘セラレ、各般ノ事兎角阻喪セザルヲ得ズ。随分是レマデノ議案中ニモ民生ニ有益ナル事柄ナキニアラザレドモ、如何セン目下三南ハ（慶尙、全羅、忠清）東學徒

ノ擾亂ニ、西道ハ（平安、黄海）日、清交戦ニ通路ヲ妨ゲラレ、普ク民心ニ訴フルノ機會ヲ得ズ。又タ我が政府ガ鞏固ナラザル爲メ屢々外部ノ刺戟ニ遇ヒ、内部ニ風波ヲ起シ逡巡セシムル如キ傾キアルハ嘆息ノ至リナリ。

井上曰ク 財政ノ困難ナルガ爲メ政府ガ改良實行ヲ爲ス上ニ運ビ惡シトハ成程其レモ實行セラレザル一原因ト見テ可ナラン。然レドモマダ他ニ種々ノ原因多カル事ナラン。其財力窮乏云々ニ就キ一言セン、何程財力ニシテ富裕ナルニモセヨ、用途其當ヲ得ザレバ何ノ益ニモ爲ラズ、否ナ寧ロ却テ財力ノ乏シキニ優ル弊害ヲ來スヤモ知ルベカラズ。

（此時杉村書記官ヨリ顧問官聘用并ニ外債ノ事ニ關シテ左ノ問答ヲ爲セリ）

書記官曰ク 過日宮内ニ於テ協議ニ及ビ置キタル顧問官、聘用並ニ外債募集ノ二件ニ關スル愈都憲ヘノ委任ヲ停止スル爲メ電報ヲ發セラルベシトノ件ハ其後實行セラレタルヤ。

金大臣曰ク 直ニ委任停止ノ電筋ヲ爲シ置キタリ。

井上曰ク 拙者ハ顧問官、其他一切ノ事柄ニ關シテ我 皇帝陛下ノ御委任ヲ受ケ居ル次第ナレバ、追々御相談ニ及ブベシ。抑モ顧問官ノ如キハ尤モ此際注意ヲ要スベキモノニシテ、或ハ久シク貴國ニ駐リシ日本人、或ハ我國ニ留マリタル貴國人中孰レモ此任ヲ希フモノアラン。且ツ我國ニテモ民間ノ人ニシテ渴望スルモノ頗ル多シト聞ク、去リ乍ラ此



顧問官ノ撰擇ハ尤モ鄭重周密ナラザルベカラザレバ、何人ト雖モ貴政府ニ顧問官、又  
タ其他ノ名義ヲ以テスルニセヨ、是非一たび拙者ノ手ヲ經ルヲ要ス。然ラザレバ何等  
ノ手ヨリスルモ我が政府ハ之ニ應ゼザルベシトノ條件ヲ附シ、拙者ハ廣島ヲ出立シタ  
ル次第ナレバ御含ミアリタシ。又タ外債ノ事ノ如キモ充分將來ノ見込ヲ附ケテ、然ル  
上之レニ着手スルヲ要スル儀ナレバ、追テ篤ト御協議スル所アラントス。

金大臣曰ク 我國ガ政事上顧問官トシテ外人ヲ聘用スルコト此ニ十餘年ニ及ベリ。然ルニ此等  
顧問官ナル外國人ハ、何等利益ヲモ我ニ與ヘタルコトナシ。惟レ彼我風俗習慣ノ異ナ  
ル、恐ラク泰西人ノ力能ク我ニ投合スル能ハザルノ結果ナランカ。故ニ本大臣ハ外國  
人ヲ聘用スルコトノ其ノ何邊ニ美味アルヤヲ知ラズ。之レニ反シ今ヤ各衙門創業ノ時  
ニ當リ、貴國人中適當ナル顧問官ヲ傭聘スルヲ得バ必ラズ我國ノ爲メ大ナル裨益ヲ得  
ルコトナラン。而シテ顧問官雇入ノ事ヲ以テ報聘大使一行愈都憲ニ委任シ、貴政府ニ  
就キ協議ヲ爲サシメントセシハ、我が政府ハ當時閣下公使トシテ當國ニ蒞マル、コト  
ヲ聞カザリシガ故ナリ。過日貴公使來任ノ事ヲ聞クヤ、直ニ愈ニ電信ヲ送り、其委任  
ノ事ヲ停止セリ。追々御相談ノ上最モ適當ナル顧問官ノ推薦ニ與カルコトヲ得バ、國  
家ノ爲メ幸福ナリ。

井上曰ク 人々各其器能ニ應ジテ其レ相應ノ職ヲ授ケ、其給料ニ相當スル職務ノ實ヲ擧ゲシメ  
ザルベカラズ。貴國ノ如ク已往十餘年間多額ノ給料ヲ拂ヒナガラ何等ノ効果ヲ見ル能  
ハザル所以ノモノ、其ノ人ヲシテ器ニ應ジテ仕事ヲ爲サシメザルノ致ス所ナリ。是レ  
其雇ハル、モノ、罪ニアラズシテ雇フ者ノ罪ナリ。縱ヘバ外國人ヲ聘用セバ彼レ必ラ  
ズ我國ノ爲メ有益ナル働キヲ爲シ呉ル、ベシト思フハ甚ダ不可ナリ。第一人ヲ用ユル  
ニハ各其長技ヲ撰バザルベカラズ。假令一家人ヲ雇使スルモ或ルモノハ庭掃除、或ル  
モノハ炊事、或ルモノハ裁縫ト云フ如ク、各々其職務權限ヲ明カニシ從事セシムルニ  
アラザレバ、唯ダ多ク人ヲ集メテ其成業スル方便ヲ示サルガ故ニ、只ダ始終拱手ス  
ルニ過ギザルベシ。貴政府ニ於テ顧問官ノ聘用ハ最モ急務ナラン、然レドモ其顧問官  
ニシテ其ノ採ルベキ職務ニ適當シ、其ノ爲スベキ職務權限ヲ與ヘザレバ矢張從前ニ於  
テ雇外國人等ガ無用ノ長物視セラレタルト一般ナラン。此ニ或ル必要ト見做ル、物品  
アリト假定セヨ、據テ之レヲ購ヒ來リテ己レノ所有スルノ日ハ果シテ最初考ヘタル程  
ノ必要ナル價值ナキコト往々ニシテ之レアリ、去レバ貴政府顧問官ノ問題ノ如キモ充  
分思慮ヲ繞ラシ、之レヲシテ實際上ノ働キヲ爲サシムルコト極メテ肝要ナリ。

右ニテ話端ヲ收メ歸館ス。



## 朝鮮内廷ノ事情ニ付「ドクトル、

## アルレンス」トノ談話

十月二十六日朝仁川ニ於テ米國「ワールド」新聞記者「クリールマン」氏ハ、王妃ノ智略共ニ朝鮮政府ノ改良ニ關シ、漫然輕爲スベカラザル由ヲ語レリ。依テ米國公使館書記官「ドクトル、アルレンス」ハ嘗テ醫師トシテ王妃ニ接近セシ人ナルヲ以テ、先ヅ齊藤修一郎ヲシテ十月二十八日同氏ヲ訪問セシメタリ。其應接左ノ如シ。但シ米國辦理公使「シル」氏モ同列對話セリ。

齊藤曰ク 朝鮮目下勢力ノ各派ヲ代表スルモノハ何派ナルヤ、古來傳來ノ東西南北黨ノ如キハ最早勢力ヲ代表スベキモノニアラザルベシ。必ラズ他ニ之レアリテ兄弟相争フ今日ノ情體ヲ爲スナラン。

アルレンス曰ク 然リ、東西南北黨ノ如キハ今日ハ最早政治上ノ感念ヲ以テ之レヲ看ルノ必要ナシ。現今勢力ノ各派ヲ代表スルモノトハ、則チ國王、王妃、大院君及ビ朴泳孝等ノ如キ若輩トノ四者ナルベシ。併シ乍ラ朴等ノ一派ハ別ニ背立モナケレバ容易ニ一定ノ旗色ニ應ズベク、又國王ト王妃トハ同一體ニシテ、王妃ノ方却テ強骨優智ナルヲ以テ幸ヒニ王妃ト大院君トヲシテ舊怨ヲ抛擲シ、同心協力シテ各國家ノ謀ヲ爲スコトヲ得セシメバ、實ニ朝鮮ノ情況ハ一變シ、萬事改良ヲ爲スコトヲ得ベシ。要之、國王、王妃ハ十年間熱心ニ待チ居タル機會ヲ得タルナリ。唯ダ其機會ガ案外俄カニ到達セルヲ以テ、稍ヤ駭然タラザルヲ得ザルモ、最早今日ハ其ノ警戒ノ情モ退却シタルベシ。

齊藤曰ク 前段ノ貴説誠ニ然リ、我ガ日本國ハ即今二者ノ疑惑ヲ解クノ義務アリ。一ハ外國ノ疑惑ヲ解キ、一ハ朝鮮ノ疑惑ヲ解ク之レナリ。若シ夫レ王室ト大院君トノ間ニアル疑惑ヲ解カシメ、朝鮮ノ獨立ヲ完クスルニ於テ一大端緒ヲ得タルモノト云フベキハ御同感ナリ。而シテ茲ニ説ヲ爲スモノアリ、此ノ二個ノ燈明ヲ混和シ、一大明光トセンニハ、行掛リモアリ、大院君ヲ押立テ、王妃ヲシテ泣イテ以テ老人ノ袖ニスガラシムベシト、或ハ又説ヲ爲シテ曰ク、王妃ハ王妃ナリ、是レヲ保護シ、之レニ勢力ヲ與ヘ、老人ヲシテ之レニ屈服セシムル方、策ノ得タルモノトス。此二説各捨ツベカラザルノ點アルガ如シ。貴説果シテ如何。

朝鮮内廷ノ事情ニ付「ドクトル、アルレンス」トノ談話



アルレンス曰ク 大院君ハ歳已ニ七十五、人生命數ニ於テ已ニ前途限リアリ。加之、此ノ老人ハ信憑スベカラザルノ性質ヲ有セリ。已ニ清國ヲ玩弄シ、今日已ニ日本ヲ玩弄シ居ルナリ。反之、王妃ハ歳猶ホ壯ニシテ且ツ王妃ハドコマデモ王妃ニシテ、換言スレバ國王ナリ。名分ノ上ニ於テモ豈ニ大院君ニ願使セラル、モノナランヤ。

齊藤曰ク 貴説ヲ了解スルニ此點最モ注意ヲ加フベキ所ナラン。

先刻貴説ノ後段ナル國王、王妃ハ此ノ十年間熱心ニ待チ居タル機會ヲ得タルナリトハ何ノ意ナルヤ。

アルレンス曰ク 余ガ先年米國へ歸省ニ出立セントセシ際ニモ、國王、王妃ヨリ懇ニ諭囑セラレタル如ク、此ノ數年間屢々種々ノコトヲ兩陛下ヨリ余ニ話サレタリ。余ハ此ノ談話ヲ支那人ニ漏洩セザルコトヲ信用セラル、ヲ以テ、余ハ決シテ之レヲ漏スヲ欲セザルナリ。君モ知ラル、ナラン、王妃則閔氏ハ支那ノ血筋ニテアルニモ係ラズ、八十四年以來ハ王妃ハ全ク排清主義ニ傾キタリ。

齊藤曰ク 夫レハ初メテ承ハルコトナリ、其ノ排清主義ニ傾キタルハ何等ノ理由ナルヤ。

アルレンス曰ク 八十四年ノ騷擾後、支那ハ大院君ヲ保定府ニ押込メ、王妃並ニ閔氏ヲ使役シテ大ニ朝鮮ニ干涉セントセリ。王妃ハ却テ獨立ノ見識アリ、朝鮮ヲ愛シタリ、之レ支那ト王妃トノ衝突ニシテ、遂ニ支那ハ王妃ノ手ニ合ハヌヲ悟リ、大院君ヲ朝鮮ニ返シ、爾來清國ノ干涉ハ次第ニ増スニ從ヒ、王妃並ニ國王ノ排清國精神ヲシテ愈ヨ隆カラシメタリ。兩陛下ハ空位ニ坐シテ日ニ潛然タリキ。

齊藤曰ク 貴説ヲ明瞭シ得タリ。然ラバ最初ノ話點ニ就キ井上伯ニシテ若シ國王則王妃ヲシテ日本ノ野心ナキコト、日本ノ頼ム可キコト、及ビ王位ノ安然ナルコトヲ信ジ得セシメバ、朝廷ハ勇氣ヲ鼓舞シ得テ直正ノ王權ヲ施行スベシ。是ニ於テカ大院君モ誰モ彼モ大旗ノ下ニ並立シ、百怨百疑盡ク消滅シ、協同一致ノ實ヲ舉グルヲ得、何等ノ計謀術數ヲ要セザルベシトノ意ナルヤ。

アルレンス曰ク 然リ、君ノ解説恰モ余ガ肺肝ヲ穿テリ。

齊藤曰ク 日本ガ朝鮮ニ對スル數十年以來ノ平和主義ハ君ノ能ク知ル所ニシテ、今更多言ヲ費スヲ要セザルベシ。我國ハ東洋全局ノ安寧ト平和ニ着眼スルヲ以テ、朝鮮國ヲシテ確乎タル獨立ノ基礎ヲ立テシムルヲ願フノ外他事ナキヲ信ズ。今ヤ我が 皇上、井上伯ヲ簡派シ、公明正大國王ト雖モ憚ル所ナク、善ハ善ト、惡ハ惡ト公言セシム。井上伯此ノ大任ヲ施行セントスルノ初メニ當ツテ、王妃ノ大勢力アルヲ知り、親シク面謁ノ機會ヲ得テ肺肝ヲ吐露シ、我國主意ノアル所ヲ開陳スルコトヲ得バ此上ノコトナカル



ベシ。唯ダ如何セン國習或ハ之レヲ阻止シ、互ニ意志ノアル所ヲ貫通スルニ道ナカルベシ。偶々濟物浦ニ於テ「クリールマン」氏ニ會シ、貴下ノコトヲ知ル。幸ヒニ貴下ノ紹介ニ依リ王室ト井上伯トノ間ニ眞意ノ貫通スルヲ得バ、是レ深ク東洋大局ノ爲ニ謝スベキコトナリ。井上伯ハ議院ノ演舌ニ立ツテ辯ズルノ器ニアラズト雖モ、互ニ膝ヲ交ヘ對話スルヤ、誠ヲ押シテ人ノ肺肝ニ投ゲ込ムノ特質アリ。

アルレンス曰ク 日本皇帝ハ斯ノ如キ人物ヲ此國ニ簡派セラレタルハ、實ニ此國ノ大幸ナリトス。余ハ茲ニ更ニ米國公使ノ許可ヲ得テ、今貴下ノ請ハル、使命ニ就テハ全力ヲ擧ゲテ從事スルヲ誓フベシ。此國ノ人物ガ自ラ此國ノ改新ノ事業ヲ爲シ得ザル以上ハ、井上伯ノ如キ大有爲者ノ指導ヲ得ルハ實ニ天幸ナリト雖モ、井上伯果シテ貴下ガ評セラ、如キ人物ナラバ、王妃ト對話セラル、ノ機會ヲ得バ其結果實ニ重大ナルベシ。如何トナレバ王妃ハ斯ノ如キ人物ヲ知認スルノ智能ヲ備ヘ居レバナリ。

(此時米國公使ハ何トカシテ井上伯ヲシテ王妃ニ謁見ノ機會ヲ得セシムルコトハ出來ザルヤト問ヒタルニ、「アルレンス」ハ It is not probable but possible I think over matter. ト答へ、坐ロニ勘考セリ。)

尙ホ齊藤ノ數點ノ問ニ對シ、「アルレンス」ハ左ノ如ク答ヘタリ。曰ク「王妃ノ診察ハ先年來

斷リタリ。如何トナレバ簾ノ内ヨリ舌ヲ出シ診察スル如キハ到底「ウソ」タルヲ免レズ。王妃ト對話スル時ハ王妃ハ常ニ簾中ニアリ、只ダ一回凡ソ半時間面談シタリ。

辭シテ歸ラントスルヤ、公使並ニ「アルレンス」共ニ口ヲ揃ヘテ曰ク、日本政府ノ精神果シテ今日貴下ガ陳辯セラル、如キ誠衷アルニ於テハ、井上伯ノ使命ヲ完全ニ行ハシメ、日本、朝鮮及ビ東洋大局ノ光榮ヲ發揚スルニ於テ此ノ公使館ハ全力ヲ擧ゲテ補助スベシ、云々。



## 「ヒリヤア」氏トノ談話要略筆記

明治二十七年十月二十九日午前、井上伯ハ重立チタル外交團ヲ訪問セリ、其節英國總領事兼外交事務官「ヒリヤア」氏トノ對談概要左ノ如シ。寒暖ノ挨拶了リタル後「ヒリヤア」氏曰ク、閣下ノ御談ヲ聞キ我が政府ニ報告スルコトヲ得バ幸ヒナリトス。

井上伯曰ク 拙者ノ性質ハ最モ單純ナリ、故ニ拙者ハ貴下ニ對スルニ於テモ正ニ其ノ天真ヲ曲ゲザルベシ。抑モ我が日本ノ當朝鮮國ニ對スル眞意ハ、終始一貫敢テ換ハルコトナク、一意専心唯ダ當國ガ中央及ビ地方ノ政治ヲ改良セシメ、其ノ獨立ノ實ヲ舉ゲシメンコトヲ切ニ希望スルノ外、更ニ他意アラザルナリ。尙ホ詳カニ之レヲ解説セバ、明治九年ニ當リ交渉事件ヲ發生シ、拙者モ全權副使臣トシテ此國ニ渡航シ、協議ヲ經テ立約セントスル際、當國政府全權委員ハ主トシテ獨立國タルヲ稱へ、我が日本國ニ於テ其獨立國タルヲ甘認シ、且ツ日本政府モ朝鮮國ノ獨立スルヲ尤モ冀望シタリ。是ニ於テ

我が政府ハ東洋ノ大局ノ平和ニ着目シ、終ニ其結約ヲナシタリ。爾來一千八百八十二年及ビ八十四年ノ騷擾ノ外、年々多少ノ面倒起ラザルノ年殆ンドアラザルナリ。其ノ都度我國通商ノ利益及ビ我が臣民貿易上ノ利益ニ困難ト損害ヲ與ヘザルナク、是レ陰ニ陽ニ清國政府ノ干涉ノ度ヲ漸々嵩ムルノ一大原因タリ。遂ニ此回ノ如キ大紛亂ヲ生ジ、其極遂ニ我が臣民ノ利益ヲ保護スル爲メ、朝鮮ノ獨立ヲ確立セシメ、永ク東洋危亂ノ種子ヲ絶タンガ爲メ、朝鮮政府ニ向ヒ不得止手段ヲ施サルヲ得ザルノ機會ニ遭遇シ、其ノ際我が政府、清國政府ト協同シテ朝鮮内政改革ノ考案ヲ清國ニ提出シタリシモ、不幸ニシテ其ノ提案ハ清政府ノ排斥スル所トナリ、終ニ不幸ニモ日、清國ノ開戦トナリタルハ拙者ノ最モ遺憾トスル所ナリト雖モ、一旦開戦シタル以上ハ、戦争ハ其極限ニマデ至ラザルヲ得ザルナリ。然ルニ朝鮮政府現今ノ情況如何ヲ察スルニ、幾多朋黨互ニ相争ヒ、猜疑離間互ニ權勢ヲ争ヒ、議論ニ時日ヲ費シ、最モ緊要ナル改良ノ事業ニ至ラバ爾來三閱月ナルモ何等ノ成績ナシ。斯ノ如クセバ今後不可圖災厄ヲ再生シ、折角我が日本ガ切望スル東洋全局ノ平安ヲ害スル種子ヲ絶タント欲スルノ目的ハ水泡ニ屬スルノミナラズ、却テ新ニ其ノ平和ヲ害スルノ一大種子ヲ播生スルノ慮ナシトセズ、譬ヘバ朝鮮ハ一大病人ナリ、故ニ何人カ之レヲ能ク診察シ、病根ノアル所



ヲ診斷シ、適當ナル藥料ヲ與へ、健全ナル身體ニ復セシメズンバ、自身自カラ健康體ニ復スルハ遂ニ望ムベカラザルナリ。而シテ醫者ノ藥料タルヤ、時ニ或ハ服用者ノ苦シム苦味ノ品アルモ亦當然ノコトニシテ、之レガ爲ニ朝鮮自身モ亦他ノ外國モ不要ノ干涉ヲ爲スガ如ク推想ヲ起サンモ圖リ難シ。要スルニ是レ一ニ病人ノ健全體ニ復センコトヲ希望スルノ眞意タルニ外ナキナリ。右ノ次第ナルヲ以テ、拙者茲ニ改良ノ眞意ハ一ニ朝鮮ヲ指導シ、確乎タル獨立國タラシメ、東洋全局ノ平和ヲ永久ニ維持セント欲スルノ外他念アルコトナキヲ明カニスルナリ。

ヒリヤア氏曰ク 閣下ノ言甚ダ好シ、且ツ詳カニ貴意ヲ了セリ。閣下ガ單純ナル言明ヲ深ク謝ス。今茲ニ一、二點閣下ニ質疑セント欲スルモノアリ、其ノ第一ハ目今此國最モ貧乏シテ財源ナキヲ以テ、何等ノ事業ヲ成シ得ザル有様ナリ。閣下ハ今此國ノ改良ヲ指導セラル、ニ當リ、國債ニテモ起サシメント欲セラル、ヤ。

井上伯曰ク 現在ノ宿弊ノ現存スル上ハ縱令何程ノ財源アリトスルモ決シテ有益ノコトニ費スコトナク、却テ無益ノ費用ノミナラン。故ニ先ヅ中央ヲ組織シ、並ニ地方ノ政治ヲ改良シ、歲計ノ如何ヲ明了ニシタル後、財政ノ有様モ深ク研究シ、果シテ急用缺ク所アリトモ、初メテ國債ノコトモ勘考セント欲スルノミ。

ヒリヤア氏曰ク 閣下今此國ノ改革ヲ指導セラル、ニ當リ、此國ヲシテ數種ノ顧問官ヲ用ヒシムルノ必要ヲ認メラルベシ。而シテ此點ニ就キ日本人ガ大部ヲ占ムルハ勿論理ノ當然ナリト雖モ、幾何マデハ其他ノ他人ヲ許容セラル、ノ考ヘナルヤ。

井上伯曰ク 拙者目下ノ觀察ハ一般ニ亘ル大局ニシテ、先ヅ大局上段落ヲ結び、而シテ更ニ進ンデ各部ノ行政及ビ其他ノ事情ヲ詳カニ研究セザル以上ハ、顧問官等ノコトニツキ何等一定ノ考案ヲナスコト能ハズ、故ニ今日急ニ顧問官ヲ推薦スル如キ考慮ハ急ナラザルベシ。

ヒリヤア氏曰ク 閣下已ニ拙者ニ對シ單純ナリ、拙者豈閣下ニ對シ均シク淡白ナラザランヤ。實ハ當國稅關ノコトナリ、閣下モ已ニ御承知ノ如ク、此國政府ノ各部ニ於テ稅關ノミ整頓シタリト謂ヒ得ベキナリ。而シテ稅關ヲ管理スルモノハ清國總稅務使「ハアト」氏ノ部下ヨリ分派シタルモノニシテ、多クハ英國人ナリトス。之レヲ以テ拙者ガ本國政府ヨリ受領シタル所ノ訓令ニハ、稅關ノ組織ヲ變更スルハ英政府ノ大ニ不快トスル所ナルヲ以テ、其趣ヲ以テ當國政府ニ申込ムベシトアリ。當政府ハ已ニ此ノ一部ハ決シテ從來ノ有様ヲ變更セザルベキヲ明言シタル次第ナリ。當國稅關事務長「ブララン」氏ハ實ニ有爲ノ人ニテ、閣下ノ眞意ヲ知ラバ必ラズヤ當國改良ノ事業ニ於テモ十分閣



下ヲ補助スルコトヲ信ズルナリ。

井上伯曰ク 税關ノコトノ如キハ急ニ之レニ着手スル如キノ必要アルマジト信ズ。追々事業ノ

進捗ニ於テハ此ノ點ニ付貴下並ニ「ブララン」氏トモ意見ヲ交換スルコトヲ喜ブベシ。

ヒリヤア氏曰ク 尙ホ一點閣下ノ御參考ニ申置キ度件アリ。則チ拙者先役在任中、當政府ト英國ノ一「シンヂケート」ノ間ニ一ノ鐵道ヲ布設スルコト、鑛山ヲ開採スルコト、及ビ外債ヲ興スコトノ約定ヲ結ビタリ。然ルニ拙者歸任ノ後已ニ其約定期限ハ經過シタルヲ以テ、之レヲ機會トシテ拙者ハ此ノコトヲ全ク放棄セリ。要スルニ拙者ハ日本ガ指導者トナリ、此國ヲ開明ニ導クノ初メニ當テ、成ル可ク他ヨリ手ヲ出スハ利益ニ非ザルヲ信ズルナリ。當國ノ改良事業已ニ一段落ヲ終リ、萬事緒ニ就キタルノ日ハ、各國互ニ其ノ通商ノ利益ヲ均有センコトハ最モ望ム所ナリト雖モ、今日ハ成ル可ク事端ヲ單純ノ緒ニ採ラシメント望ムナリ。

## 井上伯謁見始末

明治二十七年十月二十八日（即チ余ガ着任ノ翌々日）午後三時進宮大君主陛下へ謁見、國書ヲ奉呈シタルマデノ儀式ハ前例ニ異ナラザレバ茲ニ掲載セズ。唯ダ當日大君主陛下ノ勅語並ニ本使ノ言上ヲ左ニ載ス。

井上奏ス 嘗テ尊顏ヲ拜シテ以來此二十年、今日復タ我 皇帝陛下ノ命ヲ奉ジ、來ツテ闕下ニ駐劄スルニ當リ、大君主ノ隆昌ニ涉ラセラル、ヲ拜シ、國書ヲ奉呈スルハ尤モ光榮トスル所ナリ。

（於是、大鳥公使ノ御解任狀ヲ始メ御親書共都合三通ヲ順次ニ奉呈ス）

大君主答 貴國 皇帝陛下ノ國書ハ朕一々躬ラ之レヲ收覽ス、曩ニ卿ヲ見テヨリ已ニ二十年ヲ經テ、今再ビ卿ヲ此席ニ見ルヲ得タルハ朕ガ大ニ満足スル所ナリ。卿本國ヲ出ルノ日、貴國 皇帝陛下ハ御健康ニ涉ラセラレシヤ、亦政府大臣モ壯榮ナリシヤ。



井上答 我 皇帝陛下モ寶祚旺盛ニ涉ラセラレ、政府大臣モ亦壯榮ナリ。

(右ニテ)ト通りノ儀式ヲ了ハリタレバ、世子宮、内外務兩大臣並ニ杉村書記官ノ外ハ退席ヲ願ヒ、通辯ハ國分書記生ナリ)

井上奏ス 今ヤ日、清兩國干戈ヲ交ヘ、之レガ爲メ我が政府ハ頗ル多事ノ秋ナリ。馨亦國務大臣ノ一員ニシテ國家ノ重職ニ任ジ、身須臾モ國ヲ離ルベカラザルノ地位ナルニモ拘ハラズ、特命全權公使ニ轉ジ來ツテ闕下ニ駐劄スルニ至リシハ、我 皇帝陛下ノ聖意タル、貴國ヲ助ケテ宿弊ヲ除却シ、獨立ノ實ヲ鞏固ナラシメザルベカラズトノ御趣意ニ外ナラザル次第ナリ。抑モ現今日、清ノ間、干戈ヲ動カスニ至リタル事ノ主タル原因ヲ先ヅ以テ奏センニ、去ル明治九年ニ於テ江華ノ出來事タル、貴國ノ兵隊我が軍艦ヲ砲撃シ、吾ガ上下一般憤激ニ堪ヘザルニ我 皇帝陛下ハ尙ホ平和ノ局ヲ結バセンガ爲メ黒田全權大臣並ニ馨ヲ副大臣トシテ貴國ニ簡派セラレ、當時江華島ニ於テ陛下ノ全權委員ト相會シ談判ヲ重ネタル末、陛下ノ委員ハ明言シテ自主獨立ノ邦國ナリト、又我が政府モ貴國ノ獨立タルヲ望ミツ、アリシ故、我國ト對等ノ權利ヲ以テ修好條規ヲ訂結シ、即チ卒先シテ貴國ヲ獨立國ト認定シ、爾後他外國モ續々對等ヲ以テ結約スルニ至リタリ。是レ恰モ貴國ノ獨立國タルヲ世界ニ紹介シタルガ如シ。去ル十五年ニ

至リテハ再ビ貴國ノ兵隊ハ吾ガ公使館ヲ不意ニ砲撃シ、我が公使ヲ辱カシメ、終ニ止ムヲ得ズ直ニ公使ニ兵隊ヲ率キ大君主委員ト談判ヲ遂ゲ、漸ク平和ノ局ヲ結ビタリ。又十七年ハ則チ十五年ノ役ニ起因シ、貴政府ノ望ミニ應ジ多少貴國ノ獨立ヲ補益セントシタルニ、或ハ自ラ猜疑ヲ起シ、又ハ清國ニ依頼シ、終ニ干戈ヲ動カスノ不幸ヲ來タシ、再ビ馨自ラ大兵ヲ率キ貴國ニ來リ、陛下ノ委任大臣ト交渉辯論ヲ重ネ(當時清國ハ吳大澂ヲ派シタリ)纔カニ平和ノ局面ヲ維持シ、歸國ノ上我 皇帝陛下ニ復命スルヲ得タリ。嗣イデ我が政府ハ清國ト天津ニ於テ談判ヲ開キ、成ルベク貴國ノ後害ヲ防止センコトヲ努メタリ。爾後動モスレバ時々平和ノ基ヲ動搖セザルハナシ。過去ヲ回顧シ現今清國ト開戦ニ及ブモ、貴國ヘ對シ怨ニ報ユルニ德ヲ以テシタルハ其蹤跡ヲ篤ト御考究アレバ明了ナラン。然ルニ曷ゾ圖ラン、清國ノ行爲之レニ反シ、頻リニ貴國ノ屬邦ヲ主張シ、且ツ日、韓兩國事件ノ生ズル毎ニ陰ニ陽ニ内政ニ干涉スル度ヲ嵩メ、之レガ爲メ屢々日、韓兩國隣交ノ基ト、兩國人民通商ノ益ヲ害シ、常ニ動搖ノ中ニ漾々タル姿ナリ。故ニ之レガ爲メ東洋ノ局面常ニ陰晴定マラズ、今日マデ漸クニシテ彌縫シツ、來リシ有様ハ、之レヲ衣裳ニ譬ヘバ恰モ取締ヒタル敝衣ヲ補綴シツ、アリタル形ト同様、寧ロ新衣ニ更ユルカ、將タ又大切斷ヲ行フテ之レヲ修補シ、其妨害ノ



大原因タル一怪物ヲ除却セザルヲ得ズ。是レヨリ先キ我が政府ハ事ノ此ニ至ラザランコトヲ慮カリ、清國ニ謀ルニ彼此協同シテ貴國ノ内政ヲ改良シ、因テ後來ノ患ヒヲ除カンコトヲ欲シ、文書ニ辯論ニ具サニ勸告シテ遺ス所ナシ。惜ムベシ、彼レ清國ハ却テ之レヲ除却シ、頑然圖ヲ改メズ、不幸ニモ今日ノ場合ニ推シ移シタリ。是レ抑モ誰人ノ罪ゾヤ。去レバ行キ掛リ上、我國ハ貴國內政改革ノ事ハ飽クマデ大君主陛下並ニ陛下ノ政府ニ向ツテ勸告シ、獨立ノ實効ヲ奏スル丈ノ幫助ハ是非共達セザルヲ得ザルナリ。

抑モ當今東洋ノ大勢ハ日月ニ多事切迫ノ情況ヲ顯シツ、アリ。魯西亞ハ歐羅巴、亞細亞中ノ大國ナリ。其ノ疆域ノ廣キ、其版圖ノ大ナル、遠ク亞細亞ニ亘リ、近ク貴國ノ北境ニ接セリ。又其建造中ニアル鐵道線路ハ七、八年ヲ出デズ、中央亞細亞ヲ橫斷シテ浦鹽斯德ニ達セントス。邦士夫レ彼ガ如ク廣大ニ、國力彼ガ如ク強盛ナルモ、其地北隆ニ偏在スルガ故ニ、亞細亞中四時ノ季候船舶ノ繫泊ニ便ナラズ、冬期ノ結氷ニ不自由アリ。故ニ彼レ英國ト東洋ニ衝ヲ争ハント欲セバ、勢ヒ一ノ良港ヲ東方ニ求メザル可カラズ。英ハ又之レニ反シテ東洋已得ノ商權ハ成ルベク之レヲ永久ニ維持センコトヲ欲シ、魯ヲ拒ンデ獨リ專有セントス。夫レ魯、英ノ東洋ニ驅馳拮抗スルノ形勢

已ニ此ノ如ク、隙アレバ機ニ乗ジ、利アレバ直ニ之レヲ收メントス。豈啻ニ魯、英ノミナランヤ。法モアリ、獨モアリ、皆國トシテ自國利益ト勢力ヲ經營スルニ汲々タルハ當然ノ務メタリ。此ノ時ニ當ツテ清人ノ蒙昧ナル、世ノ趨勢ヲ顧ミズ、徒ラニ舊弊ヲ墨守シ、自大是レ居リ、自家ノ力ヲ計ラズ、曩ニ法ト構ヘテ忽チ福州ノ一敗地ニ塗レシモ尙ホ自ラ曉ル能ハズ、去レバ先ニ假言セシ如ク所謂敵衣ノ補綴一度破綻シタル上ハ、將來何點マデニ止マルヤ知ル可ラズ。故ニ東洋局面モ何ノ日何等ノ椿事ヲ生ズルヤモ逆視スベカラズ、果シテ然ランカ、貴國ノ内政速カニ改良ヲ加ヘ、獨立ノ實ヲ舉ゲ、其ノ基礎ヲ鞏固ナラシメザルニ於テハ、前途何等ノ不幸ヲ來スヤモ知ルベカラズ。否、悔イテ及ブ能ハザルノ嘆アルベシ。又タ一步ヲ進メテ貴國ノ内政改革ガ、我ニ於テ如何ニ必要ナルカト申セバ、政略上ハ先ヅ姑ク措クモ、貴、我商業上、直接ノ關係ヲ有スル故ニ、貴國ニ留マツテ商業ヲ營ム數多ノ我ガ人民ハ、貴國ノ内訌外患ノ爲ニ直接間接ニ損害ヲ受ケ、云フ可カラザル不幸ニ沈淪スルコト再三ニシテ足ラズ。現ニ十五年ニマレ、十七年ニマレ、其他幾多ノ損害ヲ受ケタル實例ハ屈指ニ違アラズ。是レ必竟貴政府ガ力微弱ニシテ振ハズ、紀綱廢シテ張ラズ、宿弊増出セルニ因レリ。之レヲ匡正スルノ法ハ内政改革ヲ措イテ他ニ手段ノ講ズベキナシ。我 皇帝陛下ハ帝



國臣民ヲ保護セラル、ト同時ニ、其ノ利益ヲ保護セラル、ノ責任アリ。帝國ノ利益ハ帝國臣民ノ利益ニ因ルモノナレバ、將來貴國ニアル帝國臣民ハ利益ヲ保全シ、平和ヲ永久ニ維持セント欲スレバ、勢ヒ亦大君主陛下ニ對シ其内政ノ改革ヲ勸告セザルノ止ムヲ得ザルニ出ヅルナリ。

夫レニハ先ヅ王室ノ鞏固ナランコトヲ要ス。第一ニ國政改革ノ實ヲ舉ゲサセラレントナラバ、須ク先ヅ王室ノ鞏固ナランコトヲ要ス（此時陛下ハ宮内大臣ヲ顧ミテ然リ然リ）王室ノ鞏固トハ如何、即チ上ハ大君主ヲ始メ、中宮、世子ノ御三人ト大院君トノ御間柄ハ尤モ親密ニ少シノ隔リ、少シノ隙ナキヲ云フナリ。若シ然ラズシテ御互ヒノ間ニ彼此疑念ヲ抱カセラレ、他ノ覬覦ヲ招カル、如キコト萬一ニモ之レ有リテハ、到底王室ノ鞏固ハ望ムベカラズ。本固カラズシテ枝榮ユルモノナシ。王室ノ方々ニシテ協和親密ナル能ハザランカ、下ツテ陛下ノ政府並ニ下臣民モ亦猜疑離間、各其徒ヲ樹テ、新ト云ヒ舊ト云ヒ只ダ勢權ト地位ヲ争ヒ、現今ノ如クンバ貴政府ノ鞏固モ亦望ムベカラズ。國政改良ノ實、終ヒニ見ルベカラザルニ了ラントス。去レバ王室ノ協和ハ王室ヲシテ鞏固ナラシメ、政府ノ協和一致ハ政府ヲシテ各々其職ヲ守リ、堅牢不拔ナラシム。我 皇帝陛下特ニ此事ヲ望マセラルル次第ナレバ、大君主陛下ニ於テモ必ラ

ズ誠意ヲ此ニ注ガレンコトヲ切望セリ。聞クガ如クンバ已往十二、三年前ヨリ陛下ト大院君トノ御間柄兎角御疏遠勝ニ涉ラセラレシトカ、（此時宮内大臣傍ヨリ世間ニ云フ如キ程ノ事ハアラザリシト辯疏ス）又近日、中宮陛下トノ御間ニ於テ厭フ可キ風説スラアリシ。是レ等ハ王室ノ安寧ニ取テ頗ル痛嘆スベキモノニシテ、向後共決シテ此等ノコト無キヤウ切ニ願ハシケレ。何トナレバ中宮陛下トハ御夫婦ノ御間柄、又タ大院君トハ御父子ノ御間柄ナレバ、人倫ノ上ニ於テモ最モ御親密ナラザルベカラズ、又タ世子宮ハ向來王位ノ御相續者、即チ陛下萬々歳ノ後ノ大君主ニ涉ラセラル、ナレバ、申スマデモナク此ノ間柄ハ最モ御親愛ナラザルベカラズ、斯ノ如クニシテ而シテ朝鮮ノ國利民福共ニ享クベキナリ。

（此度事件後三ヶ月間國政改良ノ實未ダ毫モ舉ラズ）陛下ノ百僚ハ兎角協和一致ノ實ヲ缺キ、互ニ私黨ヲ樹テ、相争ヒ、或ハ猜嫌ノ念相反目シ、或ハ勢權爭奪ニ忙シキナド、徒ニ時日ヲ費シ、此頃ニ及ブモ改革ノ實更ニ舉ガラスト聞ケリ。申スモ如何ハシキコトナレドモ、貴國人ノ性情トシテ某々ハ陰謀ヲ企テ、暗ニ己ヲ傷クルノ意アリ、誰々ハ意中圖ラレズトナシ互ニ相疑フノ極、所謂疑心暗鬼ヲ生ジテ相鬪グニ至ルト云フ。斯クテハ陛下中興ノ大業モ到底望ミヲ絶タザルヲ得ズ。爾今宜シク釋然圖ヲ改メ



各々猜疑ノ念ヲ一掃シテ國事ニ盡瘁シ、内政改革ノ實ヲ奏セラレンコトヲ望ム。若シ然ラザルニ於テハ我ガ日本ガ今日マデ尙ホ此ノ終局マデ幾干ノ精兵ヲ失ヒ、人血ヲ流シ、億ヲ以テ數フルノ軍資ヲ惜マズ、事ニ從事シタル素志モ水泡ニ歸セン。殊ニ我皇帝陛下ハ、大元帥ノ職ヲ盡サレントテ大本營ヲ廣島ニ進メラレ、軍事ノ計畫ハ都テ大躬親カラセラレ、茲ニ又目下國務多端ノ際ニモ拘ハラズ、重要ノ職ニ在ル馨ヲ特ニ使臣トシテ闕下ニ駐劄セシメラレタル、陛下ノ御趣意ニ適ハズ、故ニ馨必ラズ偏セズ、黨セズ、今貴政府部内ニ存スル幾個ノ黨派中何黨ヲ助ケントカ、何黨ヲ排斥セントカ云フ如キ偏頗ノ見ヲ執ルモノニアラズ。要スルニ貴政府ヲシテ公平無私、協同一致以テ國務改良ノ實ヲ擧ゲシメント務ムルノミ。古來因襲ノ久シキ幾百年ヲ經テ終ヒニ今日ノ頽敗ニ沈メル貴國ヲシテ、一朝一夕所謂暗夜日光ノ灼然タルヲ觀ル如キ目覺シキ改革ヲ行ハントスルモ得ベカラザレバ、先ヅ以テ出來得ル限り其度ニ應ジ、緩急宜シキヲ量リ漸次進行セシメ、中途敢テ蹉跎退歩ノ患ヒナカラシメタシ。去レバ使臣闕下ニ在ル以上ハ誠意誠心貴國ノ爲メ努力シテ陛下中興ノ大業ヲ暗ニ翼賛セザルヲ得ズ。就テハ屢々内謁見ヲ請ヒ、何事ニ依ラズ貴國ノ爲メ言ヲ進ムルコトアルベシ。或ハ馨單樸ノ性質、陛下ノ御思召ニ違フコトモ儘マ多カルベシト雖モ、夫ハ良藥口ニ苦

キモ病ニ利アリトノ譬ヘモアレバ、恐ラク陛下ノ爲メ裨益ナシトセズ。請フ豫メ諒察セラレンコトヲ。又大君主陛下ニ於テモ馨ヲシテ一般ノ公使トノミ見做シ給ハズ、即チ我 皇帝陛下ノ特別ナル御親任ニ依テ簡派セラレタル馨ナレバ、充分御信用相成リ一ノ顧問官トシテ何時モ直ニ御召アツテ御下問アラバ、馨不肖ナリト雖モ赤誠ヲ注イデ奉答致スベシ。上陛下ニ於テ馨ノ御信用如何ハ大ニ全局ニ影響致ス儀ナレバ、先ヅ以テ陛下ノ御信用ヲ得、然ル後貴政府全般ノ信用ヲ受クベキナリ。斯ク申セバトテ使臣ガ貴政府部内ニ大ナル勢力ヲ得ヨウナド、云フガ如キ野心ハ決シテ無シ、其邊ハ少シモ御念慮ニ及バズ。惟ダ左ナクテハ折角我 皇帝陛下ガ馨ヲシテ當國ニ派セラレタル御趣意ト相齟齬スルノ恐レ少ナカラザレバ、豫メ茲ニ一言奏上致シ措カザルヲ得ザルナリ。

大君主陛下ノ答 貴國多事ノ際、殊ニ卿ガ要職ニ在ルノ身ヲ以テ我國ニ駐劄スルニ至リタルハ、卿ガ已往屢々彼我交渉ノ難局ニ折衝シ、適當ニ處辨シタルノ結果ニシテ、貴國 皇帝陛下ガ我國ニ屬セラル、厚キ 聖意ノ程推測ラレテ感佩ニ勝ヘズ、實ニ斯クマデトハ思ハザリシニ、卿ノ奏言ニ據テ殊更ニ之レヲ諒スルヲ得タリ。聞ク卿ハ貴國維新ニ當ツテ力ヲ國事ニ致シ、國家ノ元勳トシテ其名夙ニ高シト、今我國創業ノ際ニ當リ卿ヲ



此國ニ見ル、惟フニ卿必ラズ曾テ其自國ニ試ミタル實驗ヲ以テ我國改良ノ實ヲ擧ゲ、獨立ノ基礎ヲ固フスルヲ得バ何ノ幸ヒカ之レニ加ヘン、朕ハ卿ノ奏言ヲ嘉納シ、今後顧問官トシテ屢々卿ヲ引見スルノ日多カルベシ。卿モ亦朕ガ政府大臣ト交渉シ、隔意ナク必要ノ勸告ト裨益ヲ與ヘンコトヲ望ム。(陛下ハ此時宮内大臣ニ命ジ特ニ椅子ヲ井上伯ニ賜ハリタレバ、伯モ陛下ニ御椅子ニ倚セラル、ヤウ奏請セリ)

井上奏ス

聰明ナル陛下ノ御言葉ハ感銘セリ、又我 皇帝陛下ノ主意モ使臣ノ奏言ニ因テ具サニ諒察ヲ垂レ給ヘリトノ事、馨ノ光榮之ニ過ギズ。直ニ其由ヲ具シテ我 皇帝陛下ニ轉奏スベシ。而シテ尙ホ一言奏上致シ置キタキハ、我が政府ハ去ル明治九年已來貴國ニ對スル主義ハ終始一貫ニシテ決シテ變ズル所アラズ。即チ今日ト雖モ矢張初發ノ目的ヲ引續ケツ、アルコト是レナリ。約言スレバ我が政府ハ貴國ニ對シテ無限ノ好意ヲ表スルモノナリ。去レバ何事ニ拘ハラズ貴國ノ不利益ト思フ事柄ハ飽クマデ之レヲ矯ムルコトヲ努メ、貴國ノ利益ト思惟セラル、事柄ハ強ヒテ御勸メセザルヲ得ズ。然レドモ馨此地ニ在ル已上ハ、已上ノ目的ヲ達センガ爲メ兵力ヲ一徒黨ニ借シ、其事ヲ成サシメントスルガ如キ事ハ決シテ致サルナリ。其邊ハ叡慮ヲ安ンゼラレテ可ナリ。之レヲ聞ク、先頃朴泳孝歸國ノ際、我が兵力ヲ借り王宮ニ迫ラントスルヤノ風説アリシ

ヨシ、御心情ヲ惱マサル、ニ至リ大ニ宮中ノ恐怖ヲ來シタリトカ、是レ全ク猜疑ト離間ノ致ス所ニ外ナラズ、惟フニ一時ノ流言ニ過ギザルベシ。大鳥公使ハ斯ノ如キ輕率ナル人ニアラズ、然レドモ若シ大君主陛下ノ御依頼モアラバイザ知ラズ、只ダ通常一箇人ノ間ニ兵力ヲ貸シ以テ其ノ者ノ私欲ヲ逞フセントスル如キコトハ決シテ有ルベキ筈ナシ。是レ逆モ大君主陛下始メ陛下ノ政府ノ人々ガ我國ニ對シテ疑惑未ダ釋然タラザル所アリテ然ル所以ニシテ嘆息ノ至リナリ。然レドモ最早前段奏上シタル如ク、我が陛下並ニ政府ノ誠意ノ存スル所ハ御了解在ラセラレタル事ナレバ、此ノ先キ決シテ此等ノ風説ニ惑ハサレ御驚動アラセラレザルヤウ願ハシ。尙ホ又風説ノ疑ハシキ點モアラバ、直ニ馨ヲ召シ御下問相成ルニ於テハ、必ラズ誠意ヲ以テ奉答スベシ。之レヲ要スルニ、馨ハ陛下ニ御不安ヲ與フル如キ陰險事ヲ謀ルノ人物ニアラザルナリ。左スレバ陛下ノ顧問官トシテ充分御信用アツテ然ルベシ。然レドモ世間不意ニ何等ノ出來事ナキヲ保セズ、縦ヘバ匪徒外ニ顯ハル、カ、内訌内ニ起ルカ、苟クモ王宮ノ安危ニ關シ叡慮ヲ惱マサル、様ノ事アリテ、馨ニ其ノ保護ヲ御托シ相成ルノ日モアラバ、不肖馨必ラズ應分ノ力ヲ致シ、陛下ノ爲メ叡慮ヲ安ンズルコトヲ努ムベシ。

大君主ノ答 卿ノ奏言一々切當セリ、朕モ卿ガ懇切ナルコト夫レ此ノ如クンバ大ニ安堵ノ念ヲ

井上伯謁見始末

二四九



爲スナリ。

井上奏ス 聖聽ニ達シタルヤ否ヤヲ知ラザレドモ、我が北征軍ハ已ニ貴國ノ國境ヲ踰ヘ虎山ニ戰ヒテ之レニ捷チ、九連城ヲ占領シ、尙ホ進ミツツアルニ、顧ミテ貴政府改良ノ進行如何ヲ見レバ、前已ニ陳言スル如ク徒ラニ優柔不斷、此ニ三月餘ノ久シキ一事ノ實行ヲ得ルモノナシ。斯クテ如何カ被成ル、聖意ナルヤ、將又陛下ノ政府大臣ハ何事ヲ爲シツ、アリヤ。軍國機務處ノ如キ幾多ノ法案裁可ヲ經タルモ、其ノ議案ハ殆ンド文具ト異ナラザルナキカ、一々其根源ヲ推セバ事頗ブル多岐ニ渉ル恐レアリ、又此ニ至ルマデノ仔細ニ就テハ確カニ聞込ミタルコトアレドモ今殊更ニ奏上スルノ必要ナシ。

大君主答 朕屢々此事ヲ憂ヒテ政府大臣ヲ督責シ、已定ノ法案中、民度ノ適否ヲ察シ緩急ニ應ジテ速カニ實効ヲ舉ゲンコトヲ命ジ置ケリ。

井上奏ス 東學ノ匪徒昨今益々猖獗ヲ極ムルトノ事ナリ、然ルニ右東學中或ル者ノ口供ニ據レバ、地方官ノ苛斂貪虐ニ堪ヘズシテ憤懣ノ餘リ竟ニ匪徒ニ加ハルモノ多キニ至リタリ。是レ亦宿弊ノ増長、紀綱ノ弛ミタル一端ナレバ、兎ニ角國政ノ改良ハ今日ノ焦眉ニ屬シ、一日モ速カニ良民ヲ塗炭ニ援フノ途ニ就カンコトヲ切望セザルヲ得ズ。

大君主答 東學匪類宗教ヲ以テスルモノアルモ、中ニハ卿ノ言ノ如ク地方官ノ失政ニ起因スルモノ往々アリ。是レ朕ガ不明ニ出デ、必竟官紀ノ嚴肅ナラザルノ致ストコロニシテ慙愧ノ事共ナリ。

井上奏ス 圖ラズ今日微衷ヲ披瀝シテ長時間ニ涉リ多ク聖聽ヲ冒瀆ス、惶悚ニ堪ヘズ。

大君主答 否々朕ハ却テ卿ト相見テ其奏言ヲ聞クヲ嘉ミス。

右ニテ退出ヲ奏言シ、階ヲ下リ更ニ別殿ニ大院君ニ面會シタルモ、時已ニ點燈ニ及ベルヲ以テ一ト通りノ挨拶ヲ爲シ、單簡ニ王室ノ和親協和ニ關スル勸告ヲ試ミ、程ナク退出セントスルニ當リ、同君ハ明日午後二時答禮旁々日本公使館ヲ訪フベキコトヲ約セリ。其レヨリ隨行員一同ト共ニ宮ヲ出テ歸館セシハ六時過ナリシ。



## 井上伯大院君談話筆記

明治二十七年十月二十九日、日本公使館ニ於テ井上伯、大院君ト應接筆記、此日杉村書記官  
參席、領事館書記生鹽川三郎通辯及ビ筆記ス。應寒暄ノ儀了ツテ、

大院君 貴國公使トハ是レマデ追々交渉シテ親密ニシタルモ、孰レノ公使モ在任久シカラザル  
ガ爲メ其交際モ永續スルヲ得ズ遺憾ナリ、獨リ杉村書記官ハ（此時杉村書記官ヲ顧ミ  
微笑シテ）久シク在勤スレドモ、同氏ハ余ト反對ノ人ナレバ、余ハ同氏ヲ好マズ、何  
卒閣下ト永ク御交際センコトヲ望ム。

井上 閣下ト親密ノ交際ヲ爲スコトハ余モ希望セリ。抑モ杉村ガ反對ノ考ヘヲ有スルハ同人  
ハ永ク在勤シテ能ク貴國ノ裏面ノ事情ヲ知り居ルガ爲メ、閣下ガ御嫌ヒナサレシナル  
ベシ。余モ永ク在任シテ内部ノ事情ニ通曉シタランニハ或ハ閣下ヨリ嫌ハル、ニ至ル  
モ計ラレズ。

大院君（苦笑シテ） 余ノ杉村ヲ悦バザルハ同氏ハ余ノ贈物少ナキガ爲メナリ。（ト辭ヲ他ニ轉  
ズ）又此回貴國ガ我國ノ爲メ斯ク御盡力下サル、ハ感謝ニ堪ヘザル所ナリ。去レド熟  
熟思フニ、御盡力下サル、ニ平和ノ手段ヲ以テセラレシナランニハ一段ノ好都合ナリ  
シニ、事茲ニ出デズシテ兵力ヲ以テセラレ、遂ニ民心ヲ沸騰セシムルニ至リシハ返ヘ  
ス返ヘスモ殘念ニ存ズルナリ。閣下ノ御高名ハ豫テ承知セリ、以後ハ閣下ノ御盡力ニ  
依リ一層事ノ成就センコトヲ望ム、余ノ意見ハ多辯ヲ須ヒズシテ閣下ニ申上グル事ヲ  
得。

此時大院君、杉村書記官ニ向テ紙筆ヲ求メ、杉村書記官之レヲ進ム、大院君筆ヲ執リテ「漢  
高帝之得天下心也、先以約法三章臺執應可知也」ト記シ、井上伯ノ前ニ差出シ、  
大院君 是レ即チ余ノ意見ナリ。

井上 今回我  
皇帝陛下ガ特ニ重要ナル國務ノ任ニ當リ居ル余ヲ貴國ニ御派遣アラセラレタルニ付テ  
ハ、深キ叡慮ノアラセラル、次第ナルコトハ閣下ニ於テモ篤ト御承知ノコトト存ゼラ  
ル。故ニ余ハ是レヨリ我

皇帝陛下ノ叡慮ノアラセラル、所、及ビ我が政府ノ意向ヲ閣下ニ申上グベシ。就テハ



閣下ニ於テモ御腹藏ナク意見ヲ述ベラレタシ。此回我が政府ガ億ヲ以テ數フルノ財ヲ吝マズ、人命ヲ賭シテ此舉ニ及ビタルハ實ニ當國ノ獨立ヲ鞏固ニシ、以テ東洋ノ平和ヲ保全セント欲スルニ外ナラズ。

大院君

此回ノ舉ハ貴國ガ我國ヲ自主ノ國トシ、獨立國トナシ、以テ歐洲ニ對シ東洋三國ノ安全ヲ謀ラル、ニ出デタルハ余ノ業ニ承知シ居ル所ナリ。閣下ハ只今貴國 皇帝陛下ノ御覺召云々ヲ説カレシガ、斯ハ余ニ於テ餘リ惶悚ノ至リニ堪ヘズ。又閣下ノ御説ハ宛然豪傑ノ士ノ説ク所ニシテ、規模小ナル余輩ガ之レヲ聞クモ只々恐怖ノ念ヲ生ズルノミニテ御答ノ致シ様ナシ。且ツ事ノ前後ヲ鑑ミルニ、貴國政府ノ意向ト貴國 皇帝陛下ノ御覺召トハ或ハ相違スル事モアルベシト思ハル。

井上

陛下ノ 御覺召ハ即チ政府ノ意ナリ。

陛下ノ御叡慮ノ外ニ政府ノ意アルコト更ニナシ。此儀ハ閣下ニ於テ御承知相成置カレタシ。扱テ余ハ閣下ト胸襟ヲ開キ毫モ腹藏ナク事ヲ議セント欲スルニ、閣下ガ 皇帝ノ 御覺召ハ恐レ多シト云ヒ、或ハ恐怖ノ念ヲ生ズル杯ト唱ヘラル、ハ、是レ即チ余ノ説ヲ防阻セラル、ニ異ラズ。閣下ニ於テ斯ク城壁ヲ設ケラル、限りハ、余ハ閣

大院君

下ト俱ニ事ヲ議シ難シ。我が政府ガ億ヲ以テ數フルノ財ヲ吝マズ、人命ヲ賭シテ此ノ舉ニ及ビタルハ何ノ爲メナルヤ、余ハ恐ル、閣下ト余トノ意見ノ相合シ難キヲ。否、決シテ然ラズ、余ノ規模ノ狭小ナルガ爲メナリ。余ノ意見ハ只今此ニ記シタル漢高法三章ヲ約スト云フニ外ナラズ。識ラズ、閣下ノ御高見ハ。

井上

今ノ天下ハ往時ト異ナレリ、二千年前ノ政事ヲ今ノ世紀ニ行ハント欲スルハ誤レリ。多事ノ當世、人事繁雜ナルニ當リテハ法ノ四章、五章デハナク、千ノ法章、萬ノ矩律ヲ要シ、即チ政事多門ニ出ヅルヲ防禦スル爲メ、組織權限ヲ明カニセザルヲ得ザルナリ。閣下ハ斯カルコトニテ今ノ國政ヲ整理シ得ラル、ト思ハル、ヤ。

大院君

余ノ言フ所ノ法三章ト云フハ、法ノ三個章ト云フ意ニ非ラズ、民心ヲ收攬セント云フニ外ナラズ。秦ノ世、民心攪亂、漢皇起チ先ヅ法三章ヲ約セルハ民心ヲ收攬センガ爲メナリ。余之レニ則リ、先ヅ民心ヲ收攬セント欲スルナリ。

井上

今時ハ往時ト異ナレリ。試ミニ問ハン、二千年前ノ時ニ當リ、外國ト修好通商等ノ事アリシヤ、人民ノ權利義務等ノ事アリシヤ、千章モ足ラズ萬章モ尙ホ足ラザルナリ。此ノ國家多事ノ時ニ當リ二千有餘年前ノ昔ヲ談ズルガ如キハ到底無益ナリ。

大院君

余ハ頑固ナリ、世人ハ余ヲ見テ頑固ノ張本人トマデ稱セリ。然レドモ開化ノ必要ナル



事ハ篤ク之レヲ知悉セリ。假令バ鐵路ヲ通ジ、鑛山ヲ開ク等一トシテ余ノ願フ所ニ非ザルハナシ。故ニ余既ニ之レガ計劃ヲナセリ、然レドモ事ハ急速ナルベカラズ、急速ハ如何ニ民心ヲ攪亂スルヤ計リ難シ。故ニ漸次之レヲ爲サンコトヲ望ム。然ルニ事茲ニ出デザルモノ多シ。熟ラ六月二十一日（我ガ七月二十三日）以來ノ事ヲ見ルニ、機務所議政府等ノナス事ハ、日本ガ二、三十年間ニナシタル事業ヲ直チニ取テ此國ニ行ハント欲スルモノノ如シ。故ニ今日ニ至ルマデ既ニ百日ヲ經ルモ一モ爲ス所ナク、只ダ衣服ノ狭袖トナリシト、警務廳ノ設ケアリシノミ。然レドモ巡檢ノ服制ヲ變更セシガ如キハ事ハ好シト雖モ、痛ク耳目ヲ驚シ民心ヲ亂セリ。就テハ巡檢服制ノ如キモ漸次ニ變更シ往カバ大ニ都合ナラント思ハル。

井上

余ハ今日區々タル巡查服制杯ノ細事ヲ談ズルモノニ非ラズ。貴國王室ノ鞏固ヲ計リ、貴國々本ノ確立ヲ論ゼント欲スルナリ。閣下ノ御説ノ如ク百日間爲ス所果シテ何事ゾヤ、其間種々ノ風説モアリ、或ハ徒ラニ權力ヲ争ヒ、或ハ黨與狐疑離間ヲ擅ニスル等ノ事ノミ。此ノ如クニシテ如何ニシテ國本ノ確立、王室ノ鞏固ヲ劃スルヲ得ンヤ。

大院君

余ハ齡既ニ七十五ニ達シ老憊セリ。國政ハ一切議政府及ビ機務所ニテ掌レリ、故ニ余ハ國政ニ干與セザリシ。

井上

然ラバ閣下ハ如何ナル御考ニテ邸ヲ出デ、宮ニ入ラレシヤ、閣下ガ邸ヲ出デラレシハ即チ閣下ノ意思國政ニ當ラル、ノ御決心ナルコトハ争フベカラザルニ非ラズヤ。然ルニ今閣下ハ國政ニ干與セズト述べラル、ハ如何ナル御考ヘナルヤ、抑モ又國政ヲ議スルニ齡ノ高下ヲ論ゼンヤ

大院君

然レドモ機務所アリ、議政府アリテ事ヲ處シ、毫モ余ヲシテ國政ニ當ラシメズ、議政府、機務所ニテ議シテ啓スル者ハ直ニ裁可スルコトトナレリ。然レドモ此間余ガナセシ一個ノコトアリ、即チ報聘使派遣ノ一事ナリ。初メ朴定陽ト定メアリシモ、斯クテハ西園寺侯爵ト地位如何ハシキヨリ、更ニ余ノ孫（李鎔）ヲ差遣ハス事トナリシニ、聊カ都合アリテ遂ニ王子義和宮ヲ特派セラル、事トナレリ。是レ余ガ日本ニ對スルノ好意ナリ、願クバ閣下之ヲ以テ余ノ意ヲ諒セラレタシ。

井上

閣下ガ兎角城壁ヲ築イテ余ノ言ヲ聽カレザルハ、閣下ハ余ト對談スルヲ好マセラレザルヤ。

大院君

決シテ然ラズ、余ハ閣下ノ御經歷ヲモ略ボ承知致シ居リ、且ツ閣下ガ日本維新以後ノ政務ニ執掌セラレ、能ク開化ノ所以ヲ御熟知ノコトヲ存ジ居ルガ故、閣下ノ來ラレシ以上ハ將來我國ノ事極メテ好結果ヲ得ベシト心竊カニ期シ居リシ程ナリ。



井上 然ラバ是レヨリ御話致スベシ。抑モ此回ノ事ノ起リハ決シテ一朝一夕ノ事ニ非ラズ、先ヅ其ノ來歴ヲ説クベシ。我國ト貴國トノ間ニ條約ヲ結ビシハ實ニ明治九年ニシテ、該結約ハ決シテ事ナキニ成立セシモノニ非ラズ、即チ貴國陛下ガ養ハル、所ノ貴國兵士ガ、故ナク我が帝國ノ軍艦ニ向テ放撃セシニ依ル、此舉ニ付キ貴國ガ我國ニ對シ如何ニ侮辱ヲ加ヘシヤハ云フマデモナキ事ナリ。然レドモ當時我が政府ハ兩國間ノ平和ヲ保ツニ專意アリシカバ、我

大院君

余ハ當時地方ニ居住セシカバ、親シク承知セザリシモ、委細ハ後ニテ承知セリ。

井上

當時貴國君主ノ命ヲ受ケ、余等ト開談セシ貴國全權委員ニ對シ、余等ハ貴國ハ果シテ清國ノ屬邦ナルヤ、將タ獨立國ナルカヲ問ヘリ。同委員ハ答フルニ獨立國ナル旨ヲ答ヘタリ。且ツ當政府モ貴國ガ獨立國タルヲ望ミツ、アリシ、若シ當時該貴國委員等ガ清國ノ屬邦ナリト答ヘラレタランニハ、當時如何ナル事ヲ惹キ起セシヤ實ニ知ルベカラザリシ、然ルニ事茲ニ出デザリシハ貴國ノ幸福ト云フノ外ナシ。爾來通商ヲモ開始シ、兩國間ノ交際漸次其緒ニ就ケリ。然ルニ明治十五年ニ至リ、又モ貴國陛下ノ養ハ

ル、兵士ハ、兩國交際上ノ爲メ我國ヨリ派遣シテ當地ニ駐劄シアリシ我が使臣ヲ襲ヘリ。此事ガ如何ニ非禮ニ、如何ニ我國ヲ侮辱セシヤハ閣下ニ於テモ勿論御知得ノ事ナルベシ。是レガ爲メ我國ハ遂ニ大兵ヲ派遣シ、其間ヲ結ビ、爾後公使人民保護ノ爲メ兵ヲ駐在セシムルノ止ムヲ得ザルニ出デ、而シテ清國モ亦是レヨリ兵士ヲ貴國ニ派遣駐在セシムルコト、ナレリ。

大院君

當時國人未ダ開化ノ何者タルヲ知ラズシテ該事件ヲ惹起セシハ誠ニ遺憾トスル所、余ノミナラズ、該事件ガ誠ニ申譯ナキ儀ニ屬スルハ當時ヨリ既ニ國民一般ノ公論トスル所ナリ。

井上

然リ、誠ニ不埒千萬ノコトナリ。而シテ該事件ガ全ク貴國官吏ノ教唆ニ出デタルハ事實ナリ。

大院君

事ノ既往ニ遡ルハ言フモ益ナシ、願クハ現今及ビ將來ノ事ニ付御盡力アラン事ヲ望ム。

井上

然ラズ、抑モ今回ノ事ニ付事ノ全局ヲ論ゼント欲セバ須ラク既往ノ歴史ニ論及セザルベカラズ。何トナレバ事ノ原因ヲ極メザレバ如何ニシテ事ノ茲ニ至リシヤニ付真相ヲ知ルコト能ハザレバナリ。

大院君

余ハ本日答禮トシテ參上セシナリ、少々身體ノ工合宜シカラザルガ爲メ、御話ハ後日



ニ譲ラレタシ。

井上 昨日御面會ヲ約セシガ故、本日ハ緩リト各胸中ノ城府ヲ開イテ御對談致サントセシナリ、本日御話セネバナラヌト云フニ非ラズ。然ラバ後日再會ノ期日ヲ御約束致シ置クベシ。

大院君 本日ハ昨日ノ御答禮トシテ參上致セシ譯ナリ。實ハ今回御來任ニ付、先ヅ外衙門ニ於テ席ヲ清メテ御招待致シ、尙ホ宮内府ニテモ御招待致シ、然ル後緩々御話ヲ承リ等致サント存ジ居リシナリ。

井上 右等ハ悉ク儀式ナリ、余ハ此際儀式等ニ齟齬スルヲ屑シトセズ。余ハ東京ニアリテ樞要ナル國務ノ任ニ當リ居リシニ、陛下ヨリ至急來ルベキ旨ノ勅令ニ付廣島ニ至リシニ、陛下余ヲ召シテ仰出サル、ニハ、征清軍ガ着々戰捷進行スルニモ拘ハラズ、朝鮮ノ現況ハ朋黨ノ舉リシ實ナシ。急ニ同國ニ赴キ事ヲ處スベシト、此ノ命ヲ受クルヤ、余ハ私家ニモ歸ルコトヲナサズ、急ニ二、三ノ衣類ヲ取寄セタルノミニテ直チニ發柱赴任セシ譯ナリ。是レ貴國國家ノ事ナルガ故ナリ。當地着後徒ラニ儀式等ノ爲メ事ノ遷延スルハ余ノ尤モ不快トスル所ナリ。九連城ハ已ニ陥レリ、既ニ我が所有トナレリ。然

ルニ貴國ノ現状ヲ顧ミルニ、改良ノ實一モ舉行ナシ。閣下ハ今日ノ場合ヲ如何ナル場合ト認メラル、ヤ。國家ノ爲メ最モ危急ノ場合ニ非ラズヤ。幾千萬ノ財ヲ投ジ、生靈ヲ賭シテ我國ガ此舉ニ及ビタルハ如何ナル理由ト閣下ハ認メラル、ヤ。余ハ切ニ一刻タリトモ等閑ニ過スベキモノナラズト認メ、斯クハ本日談茲ニ及ビタル次第ナリ。

大院君 場合ノ危急ナル事ハ余モ亦承知致シ居レリ。人心回復ノ如キハ實ニ目下ノ急務ナリ。此危急ノ時ニ際シ、何ゾ儀式ヲ談ズルヲ要センヤ。抑モ余ノ意見ヲ述べ、閣下ノ御意見ヲ聽キ、双方互ニ腹藏ナク胸襟ヲ開カン事ハ余ノ望ム所ナリ。若シモ兩者ノ意見ノ相合スルコト能ハザル事モアランニハ、夫レコソ事ノ如何ニ成リ往クベキカ豫メ計リ難シ。余ハ信ズ、貴國々家、貴國王室ノ如何ニ成リ往クベキヤハ、一ニ閣下ト余ノ和衷協同ニアリト。故ニ余ハ閣下ト和衷協同、以テ事ニ當ラン事ヲ欲ス。事ノ成就ニ付テハ余一個トシテハ或ハ多少ノ名譽アルベケレドモ、夫レトモ格別ノ利害ヲ有セズ。只ダ其成否ハ一々貴國々家ト貴國王室ノ利害ニ關スルハ閣下ニ於テ吳々モ御承知置キ相成タシ。

大院君 勿論余モ亦閣下ト意見ノ相合ハンコトヲ熱望スルナリ。

井上 然ルニ閣下ガ兎角余ト對談スルヲ好マセラレザルガ如キ傾キアルハ、余ガ閣下ト果シ



テ和衷協同ノ實ヲ舉グルヲ得ルヤ否ヤニ付キ釋然タル事能ハズ。本日ハ御困憊トノ事ニ付、他日再會ヲ期シ、玆ニ豫メ御約束致シ置キ度ハ、閣下ト御協議ノ後、貴國各衙門大臣各ニ大臣御不在ナク代理協辦ト一堂ニ會シテ余ガ意見ヲ述ベタキニ付、其節ニハ閣下ニモ御臨席アルコトニ致シタシ。

大院君 其儀ハ相叶ヒ難シ。何トナレバ余ハ朝士ニアラザレバ勿論政府ニ出デ、各大臣ト事ヲ議スル事能ハズ。是レ余ガ國法ナリ。又閣下ガ各大臣ニ話サレシ事ハ勿論一々余ニ知レ得ルナリ。

井上 然ラバ閣下ハ大臣ト國政ヲ議セラレザルヤ、又個々別々ニ話シスベキコトナレバ、何ゾ各大臣ノ會合ヲ要センヤ。畢竟各個ニ御話スルコトハ或ハ互ニ疑心ヲ起スノ掛念ナキ能ハズ。是レ余ガ一堂ニ會スルノ必要ヲ感ズル所以ナリ。

大院君 否、勿論各大臣ト政ヲ議セリ。然シ大臣余ノ許ニ來リ事ヲ稟スルヲ例トス。又余ガ各大臣ト一堂ニ會スル事ハ地位甚ダ違ヒ、且ツ各大臣ハ余ノ面前ニテ坐スルコト能ハザル等ノ不都合アリテ到底行ヒ難シ。

井上 國政ヲ議スルニ何ゾ地位ヲ論ゼン。況ンヤ今ノ時ハ危急ノ時ナルヲヤ。昨日余ガ貴國陛下ニ謁見ノ時ニモ、内、外務大臣ハ列席セラレ居リシ、是レ事ノ國政ニ關スルガ故ナリ。

大院君 謁見トハ自ラ異ナレリ。兎ニ角余ガ政府ニ出ヅルコトハ法ニ於テ能ハザルナリ。

井上 然ラバ閣下ハ余ト協議スルヲ好マセラレザルナリ。此ノ如クンバ余ガ再ビ閣下ト會見スルヲ要セズ。余ハ閣下ノ和衷協同ハ即チ貴國々家ト貴國王室トノ運命ニ關スル程ノコトナリ。然ルニ閣下ガ兎角余ト協議スルヲ好マセラレザルハ、余ノ遺憾トスル所ナリ。閣下ハ又法ナリト云ハレシガ、區々タル小儀式的ヲ以テ法律ト云フハ誤解モ亦甚ダシ。余ハ日本ニ於テ數十年來國政ニ參シ、歐米諸國ヲ巡廻シテ頗ブル國家政務ニ通曉セリ。豈閣下ガ云ハル、如キモノヲ指シテ法ト云フノ理アラシヤ。若シ假ニ之レヲ法ト云バ目下東學黨ノ各地ニ跳梁スルニ當リ、貴國政府ガ自國ノ力ヲ以テ之レヲ鎮壓スルコト能ハズシテ日本ノ派兵ヲ請ハレシガ如キ、是レ果シテ國法ナルヤ。

大院君 日本兵派遣ノコトハ余ノ意ニ非ラズ、大臣ガ意ニ出デタルナリ。大臣ヨリ申出デタルガ故、余ハ單ニ首肯セシマデノコトナリ。

井上 閣下ノ首肯ハ即チ閣下ノ責任ヲ以テ許可シタル命ニ非ラズヤ、閣下ハ之レヲ知ラズト云ハル、ヤ。

大院君 閣下ニ豫メ願ヒ置ク二個ノ條件アリ、一ハ内政上ニ付徐々ト改革ヲナサル、コト、一



ハ朴泳孝等ノ事ナリ、同人等ノ事ハ余既ニ充分之レガ計劃ヲナシ置ケリ、故ニ閣下ハ之レ等ニ付テ可成猶豫セラレタシ。

井上

目下ノ處ニテ豫メ御約束ヲ致シ置クコトハ難シ。凡ソ事ハ須ラク急ナルベキアリ。緩ナルベキアリ。緩急ハ到底免ルベカラズ。此ノ如キ事ハ余ガ意ヲ述べ、閣下ノ意ヲ聽キシ後ニ非ザレバ何トモ決スルコト能ハザル儀ト御承知相成タシ。閣下ガ各大臣ト同席ニテ國政ヲ議スルコト能ハズト云ハル、ハ萬々其ノ理由ヲ見ズ。閣下ガ如何ニスルモ爲シ能ハザル儀ト主張セラル、ナラバ、余ハ閣下ト何ニモ協議スルコト能ハズ、閣下ハ余ト協議スルヲ好マセラレザルヤ。

大院君

否、余ハ閣下ト協議センコトヲ願フナリ。余ハ決シテ好マズト云フニ非ラズ、金宏集、金允植、金宗漢、兪吉濬等ハ何レモ余ノ意ヲ受ケ居ル者ナレバ、同人等ニ御話ノ事ハ勿論余ニ於テ承知シ得ル筈ナリ。

井上

否、個々ニ付テ御話スルハ無益ナルノミナラズ却テ害アリ。余ハ閣下ガ各大臣ト一堂ニ會スル事ヲ拒マル、間ハ、到底閣下ト事ヲ議スル事能ハズ。

大院君

然ラバ一堂ニ於テ屏風ノ影ニテ拜聽スベシ。

井上

此ノ國家危急ノ時ニ際シ、屏風ノ影ニテ聽クト云ハル、ガ如キ兒戲ニ均シキ處置ノ如

キコトハ余ノ解シ得ザル所ナリ。閣下ハ如何ナル時ト御承知アラル、ヤ、今ヤ兒戲ヲ談ズル場合ニ非ラザルナリ。

大院君

余ガ宅、若クハ別莊ニテ余ト閣下ト御話致スハ毫モ差支ナキモ、政府ニ出ヅルコトハ到底難シ。

井上

政府ニ出デラル、コト難ケレバ、場所ハ余ノ擇ブ所ニアラズ、宮中ナリ、閣下ノ邸ナリ、別莊ナリ、何レニテモ宜シ。又閣下ノ前ニテ各大臣ガ坐スルコト能ハズト云フガ如クンバ、起ツモ坐スルモ何ノ差支アラシヤ。坐スルナリ、立ツナリ、斯カル事ハ余ニ於テ何カアラン。兎ニ角余ハ一堂ニ會シテ國政ヲ談ズルノ要ヲ認ムルガ故ニ、一應閣下ト會シ、互ニ意衷ヲ悉シタル上、各大臣ヲ集メ、事ヲ議シ、然ル後閣下及ビ各大臣ト會見センコトヲ欲ス。閣下ハ飽クマデモ之レヲ拒マル、ヤ。

大院君

各大臣ト會スルハ如何ニモ苦シ、閣下ガ各大臣ニ談ゼラル、事ハ、即チ余ニ談ゼラルル事ナレバ、格別同席スルノ要ナカルベシト思フ。

井上

否、甚ダ違ヘリ。閣下ニ説ク所ト各大臣ニ説ク所トハ自ラ差異アルヲ免レズ、兎ニ角閣下ハ斷然之レヲ拒マル、ヤ、然シ場所ハ余ノ關セザル所、而シテ各大臣ガ起立スル場合ニモ余ハ椅子ヲ得ンコトヲ欲ス。



大院君 然ラバ貴意ニ從ツテ會同スベシ。扱テ余ハ閣下ノ説ヲ聽ケリ、閣下ハ余ノ申述ベシ内政ノ事、朴泳孝等ノ事ハ御承知相成ラルベキヤ。右ヲ御承知セラレザルニ於テハ人心彌ヨ亂ルベシ。余ハ人心ヲ鎮定スルヲ以テ目下ノ急務ト信ズルガ故、是非此ノ二件ハ御承知相成置カレタシ。

井上 先ニモ述べタルガ如ク、本日ハ是非閣下ト互ニ意衷ヲ悉知セント欲セシニ、閣下ハ御困憊ナリトテ之レヲ拒マレシガ故ニ、他日再ビ會同スル事トナレリ。故ニ他日再會ノ上、余ノ意見ヲ述べ、閣下ノ御意見ヲ聽キシ後ナラデハ右等ノ事ニ付豫メ御約束ヲナスコトヲ得ズ。是レ畢竟大體ノ定マラザルニ先ヅ枝葉ヲ定メント云フニ異ナラズ。事ノ枝葉ニ渡ルモノハ今日ニ於テ之レヲ如何トモスルコト能ハズ、閣下ハ切りニ民心云々ヲ屢述セラル、モ、彼ノ東徒ノ四面ニ群起スルヲ看ヨ、畢竟地方官吏輩ガ強索誅求ヲ擅マニシ、苛政ヲ憚ラザルニ起因セシモノナリ。民心ノ穩カナラザルハ素ヨリ其所ナリ。故ニ先ヅ改良ノ實ヲ舉ゲ、國基ノ確立ヲ計ラザルベカラズ。國ノ基礎確立セバ民心ハ自然鎮定ニ歸スルハ至テ觀易キノ理ナリ。

大院君 余ハ民心ノ鎮定ヲ先ニセント欲ス。然ルニ閣下ハ之レヲ後ニセント欲セラル、ヤ。  
井上 勿論ノ事ナリ。諸政ヲ革整セバ民心自然ニ鎮定スベケレバナリ。

大院君 兎ニ角後日再會ノ時委細ノ御意見ヲ伺フベシ。本日ハ實ニ答禮トシテ參上セシニ、斯カル御議論ヲ承リ論責ヲ蒙ムレルハ誠ニ面白カラズ。

井上 余モ亦タ甚ダ不快ナリ、何トナレバ閣下ハ兎角ニ余ノ言辭ヲ蔽ハントセラルレバナリ。余ハ昨日閣下ガ來ラルベキ旨御約束相成ラレタルガ爲メ、且ツ事ヲ危急ニ擯シ、一日モ猶豫スベキ場合ニアラザルガ故、斯クハ本日御話シ致セシナリ。然ルニ談枝葉ニミ亘リシハ甚ダ遺憾ナリ。後日再ビ御面會スル事ト致スベシ。正路ヲ執リ直チニ進ムハ余ノ性ナリ、不正不當ハ余ノ決シテ取ラザル所ナリ。

大院君 余トテモ亦然リ、以後ハ度々御會見シテ互ニ意衷ヲ悉サンコトヲ期ス。

井上 余ニ於テモ亦然リ、余ハ信ズ、余ノ意見ニ付テハ自然閣下ノ御賛同セラル、事ヲ。若シ不幸ニシテ閣下ト議ノ相容レザル事モアランニハ、今後如何ノ結果ヲ生ズベキヤ豫メ計リ難シ。

右ニテ了ル。



## 金鶴羽暗殺セララル

昨夜八時半頃法務協辦金鶴羽宅ヨリ急使來リ、鶴羽ハ刺客ノ爲ニ負傷シタレバ醫師ノ來診方取計吳レ度旨申出候ニ付、直チニ居留地ノ醫師井田大軍醫ニ國分書記生ヲ添ヘ同人宅ニ遣シタルニ、鶴羽ハ面部ニ大創ヲ蒙リ、右ノ腕ハ手首ノ處ニ於テ殆ンド切斷セラレ、後頭ニハ數ヶ所ノ深手アリテ既ニ絶命後ナリシ。又同夜ハ來客四名アリテ、其中ニハ平常金ト懇意ナリシ金健行ト云ヘルモノモ來合セ居タリシガ、同人モ亦面部ニ口ヨリ左ノ耳ニ懸ケ十三針ノ縫合ヲ要スル程ノ重傷ヲ蒙リ、他ノ一人モ亦右ノ腕ニ輕傷ヲ受ケ、漸ク残り一名ハ無事ナリシ。依テ同人等並ニ家内ノ者ニ就キ事實ヲ問合セタルニ、午後八時頃帶刀シタル者六、七人突然金ノ室内ニ入り、直ニ金ノ面部ニ切り付ケ、次ニ其右腕ヲ切りタルニ、同人ハ俯倒シタルヲ以テ上ヨリ腦蓋ヲ亂斫シ、傍ヲニ躊躇シ居タルモノヲ容赦ナク切り付ケ、遂ニ金健行外一名ニ負傷セシメタル次第ナリト云フ。又右兇行ニ先チ金健行ノ從者ハ門外ニ在テ主人ノ歸リヲ待ち居タル中、韓

人十名程鶴羽ノ門前ニ來リ、來客ノ誰ナルヤヲ問ヒタル儘、六、七人ハ内ニ入りタルニ、間モナク室内騒々シク何事ナルヤト思フ内、抜刀ヲ携ヘタルモノ出デ來リタルニ付、從者ハ大ニ驚キ只管命ヲ乞フタルニ、「汝等ニ關係ナシ」トテ從者ノ携ヘ居タル提灯ヲ奪ヒ、悠々トシテ一同立去リタリト云フ。又余ハ此急報ニ接スルヤ否、直ニ武久警視ニ命ジテ警務廳トモ協議ノ上、犯人捕縛方ニ着手セシメ候ヘドモ未ダ其手掛ヲ得ズ。右暴行ノ原因モ未ダ相分リ兼候ヘドモ、種々人ニ就テ尋ヌルニ、鶴羽ハ別ニ私怨ヲ構フガ如キコト更ニ無之トノコトニ有之、且ツ當時兇徒ノ所業朝鮮人ニアル間敷大膽ナリシコトヨリ察スルニ、此兇行ハ多分開化派ト守舊派トノ軋轢ニ原因シ、或ハ大院君ガ警務廳内ニ別派シアル舊捕盜廳ノ捕校等ヲ使喚シテ此ノ所業ニ及バシメタルニアラズヤトノ噂モアリ、目下嚴重ニ取調中ニ有之候。猶ホ委曲ノコトハ時々相分リ次第御報可及積ニ有之候。

此ノ如ク總テ政府部内ニハ種々黨派ノ軋轢アリテ、改革事業ノ困難ナルコトハ追々公信ニテモ可申進候ヘドモ、昨夜鳥尾中將鴨綠江畔ノ戰地ヨリ南下來京、猶ホ數日ハ滞在可致ニ付、右困難ノ事情ハ委シク同官ニ申含可置候間、文書ニテ盡シ難キ點ハ同官ヨリ直接ニ御聞取相成候様致度此段申進候也。

明治二十七年十一月一日

金鶴羽暗殺セララル



伯爵井上馨

子爵陸奥宗光殿

## 總理大臣金宏集談話要略

議政府ニ於テ十一月二日午後一時井上伯、總理大臣金宏集トノ談話筆記。

井上 着任勿々御面會致度希望セシモ、貴大臣ニハ彈劾上疏等ノ事アリテ一時儀式的ノ辭表ヲ呈セラレタルヤニテ、公務ヲ視ラレマジトノコトニ付今日マデ延引致セリ。

金總理 然リ、彈劾ノ上疏ニ遇ヒタルモ、此節ハ辭表ヲ呈スルマデニハ至ラズ、所勞アリテ一日間出勤セザリシ。

井上 其レ或ハ然ランカ、然レドモ拙者ハ金外務大臣ヨリ確カニ此事ヲ聞キタレバ、ヨモ間違ハアルマジ、何ハトモアレ此ノ國家多事ノ際ニ當リ、一個人ノ彈劾或ハ非難スル所トナリテ、大臣タルモノガ輕々シク辭表ヲ呈スル様ニテハ貴國ノコト嘆息スベシ。

金總理 然リ、此後ハ左様ノ事モ多クアラザルベシ。

井上 拙者去ル明治九年以來ノ歴史ニ就キ一ト通りノ始末ヲ申述ブベシ。去ル明治九年我が



軍艦ノ偶々江華附近ニ來ツテ薪水ヲ求メントスルヤ、貴國ノ官兵ハ突然之レニ向ツテ砲撃シ、我が國旗ニ侮辱ヲ與ヘタリ。之レガ爲メ我が國論ハ大ニ沸騰シ、直ニ兵ヲ派シテ問罪ニ及ブベシトマデ激昂セリ。畏クモ我皇陛下ハ兩國ノ和誼ヲ重ゼラレ、今ノ遞信大臣黒田伯並ニ拙者ヲ副大臣トシテ貴國ニ簡派セラレ、即チ貴國全權委員ト江華島ニ會同シ談判ヲ重ネタル末、委員ハ貴國ノ自主獨立國ト明言シ、其結約書ニ顯然タリ。我レ亦タ貴國ノ爲メ獨立ヲ望ミタル際ナレバ、彼我情誼相投ジテ竟ニ此ノ修好條規ヲ締結スルニ至レリ。是レヨリ我が國人ハ通商貿易日ニ其往來ヲ瀕繁ナラシムルニ及ベリ。而シテ十五年ノ變、吶嗟ニ起リ、此節モ亦タ貴國ノ官兵ハ我が公使館ヲ襲ヒ、我が公使ニ侮辱ヲ加フ、當時拙者ハ職外務ニ長タリシカバ、花房ニ訓令ヲ與ヘ、兵ヲ率キテ京城ニ來リ談判ヲ爲サシメ、漸ク平和ノ局ヲ結ブコトヲ得テ修信使朴泳孝、副使金晚植ト共ニ歸朝ノ途ニ就ケリ。恰モ當時拙者ハ神戸ニアリテ歸京ノ途次右一行ト横濱マデ同船スルコト、ナレリ。然ルニ船中ニ於テ貴國ノ信使ハ内々協議致度トノ事ナリシモ、拙者ハ職務ニ關スル事柄ナラバ東京着ノ上ニ讓ラントセシモ、強ヒテ一應聞キ置キ吳レベシト望マレタリ。其内話ノ要領ハ、

第一 此回貴政府ニ賠償スベキ五拾萬圓ノ賠償金ハ目下我國財政ノ窮乏ニ坐シ償還

方困難ナレバ、何卒特別ノ容赦アリタシト云フニアリ。

第二 朝鮮ハ自主獨立ノ邦國ニ相違無キモ、兎角清國ノ掣肘ヲ受ケ、動モスレバ獨立ノ實ヲ傷ケントス。左スレバ其ノ獨立モ有名無實ニ過ギザレバ、斷然獨立ノ實ヲ明カニセントセバ兵力ニ頼ラザルヲ得ズ。然ルニ我が兵力ノ用ユルニ足ラザルハ已ニ業ニ御承知ノ事ナリ。就テハ貴國ノ力ヲ借り因テ以テ獨立ノ名ヲ全フシタシトノ考ヘヨリ、此回使臣ハ大君主ノ親書ヲ携ヘ居ル儀ナレバ、可成我が大君主ノ意趣ヲ貫キ、其ノ成功ヲ見タシ云々。

第一ニ對シテ拙者ノ答ヘハ、賠償金ノ事、貴國ノ内情其レ或ハ然ラン。然レドモ和約後、墨跡未ダ乾カザル短日間、早ク已ニ之レヲ容赦スルト云フ如キ事ハ出來得ベカラズ。我が政府モ貴國ノ財政ヲ曉ラザルニアラザレバ、追々時機ヲ見計ヒ、貴國ニ必要迫リテ鐵道ヲ設クルトカ、電線ヲ架スルノ折リモアルベシ。此等ノ時ニ於テ何トカ貴國ノ便宜ヲ考フベキニ付、先ヅ姑ク定約ノ儘履行スベシ。云々

第二、借兵ノ事ハ頗ル大問題ナレバ、拙者ハ左ノ意趣ヲ明カニセザルヲ得ズ。

借兵トハ單ニ兵力ヲ借ルト云フニアリテ、貴政府内部ノ改良ハ貴政府自ラ之ニ任ズル下云フニアルカ。



又ハ兵力ヲ借り並ニ日本ノ力ニ依リ内部ノ改良ヲモ爲サントスルニアルカ、若シ前段ノ如クナリトセバ、日本ハ貴重ノ租税ヲ用ヒテ養ヒ置ケル兵隊ヲ、貴國ニ容易ニ借シ得ラルベキニアラズ。後段ノ如クセバ貴國內政ニ改良ノ實ヲ認ムルマデハ日本ニ於テ干涉セザルベカラズ。果シテ然ラバ我が兵力ノ爲メ清國ノ干涉ハ免カレ得ベシトスルモ、從ツテ又日本ノ忠告ハ又干涉ニ似テ却テ怨ヲ結ブ如キコトナキヤ、何ハ兎モアレ苟クモ此事ニ關シテ親書ヲ携ヘ居ルトアレバ、拙者一了見ニテ之レガ差圖出來兼ヌル次第ナレバ、追テ東京着ノ上、奉呈等ノ手續ニモ及バルベシ。其上 皇帝陛下ノ御下問ニ依リ我々内閣員ニモ熟議ヲ凝ラスベシト答ヘ置キタリ。

(但シ此一段ハ未ダ外務大臣ナリ、大院君ヘモ洩シタル事ナケレバ、其ノ積リニシテ御聽キ相成タシ)

右親書ハ圖書ト共ニ程ナク使臣謁見次第奉呈セラレ、果シテ我 皇帝陛下ハ閣議ニ附セラル、ニ至レリ。其ノ親書ハ使臣ノ言ト同一ノ事ヲ載セタルモノ、今尙ホ我が外務省ニ保存セラル。而シテ閣議ハ愈ヨ之レニ應ズベキヲ以テ答フベキニ内決シ、之レヲ我 陛下ニ奉答セリ。又我 陛下ヨリ御答ノ 御親書モ貴國王宮歟何レニ歟存在スル筈、當時拙者謂ラク、朝鮮獨立ノ事タル我が日本獨リ之レヲ認ムルモ、尙ホ他國ノ同

視ヲ要シ、益々是レヲ世間ニ吹聽スルニアリト、因之、米國人ノ日本ニアルモノヲ外務省ニ聘用シ、能ク拙者ノ意趣ヲ含メ、嗣イデ在米國我が公使館ニ轉任、新聞ニ、言論ニ、朝鮮ノコトヲ首唱セシメ、彼國政府ヲシテ貴國ニ條約訂結ヲ促サシメタル結果、竟ニ米國政府ハ十六年中公使「フート」ヲ派シ、貴國ト對等ノ條約ヲ結ブニ至レリ。是レ則チ純然貴國大君ノ誠意並ニ貴政府ノ依頼ニ應ジテ吾ガ政府ハ眞面目ニ貴國ノ獨立ヲ補助シ、士官或ハ兵ヲ設立シ、多少内治改良ノ事モ喙ヲ容レタルナリ。然ルニ十七年再ビ不幸ノ事端ヲ生ジタリ。即チ十七年ノ事端ハ十五年貴國所望ノ原ニシテ、即チ貴國ノ爲メ我が公使ハ盡力スル所アリタルモ、貴國人ノ不徳義ナル陽ニ我ニ結ビ陰ニ清ト謀リ、終ニ日、清兩國兵ノ京城ニ干戈ヲ交ユルニ至レリ。當時我が政府ノ感情ハ如何ナリシカ、實ニ貴國ノ陰險手段多キハ大不快ヲ感ゼリ。此ノ善後策ノ爲メ現ニ拙者ハ大兵ヲ率キテ貴國ニ臨ミ、即チ今日ノ此席ニテ閣下ト談判ニ及ビタリ。清人ノ暴狀ナル、彼我談判席ヲモ憚カラズ、吳大澂ハ當日臨席ヲ乞ヒ來リタルヲ、貴國委員中ヨリ陳述アリタルニ付、拙者ハ其無禮ヲ憤リ退出セシメタリ。當時ノ光景ハ閣下記憶セラル、ナラン。

(金總理、然リ、記憶セリト答フ)



貴國トノ談判モ漸クニシテ和局ヲ結び、拙者本國ニ復命ノ後、我が政府ハ更ニ又天津談判ヲ開キ、其結果トシテ貴國ニアル兩國ノ兵員ヲ同時ニ撤回スルコトニ至レリ。且ツ將來出兵ヲ要スル場合等モ約束セリ。然レドモ清國ノ干渉力ハ陰ニ陽ニ層一層貴國ニ加ハリ、引イテ日、朝間ノ出來事アル毎ニ裏面ニ立ツテ暗ニ貴國ヲ勸誘シ衝突ヲ起サントスルモノ多カリシ（防穀事件モ其ノ一）今年ニ及ンデハ端ナクモ清國ハ貴國ノ内亂ニ當リ出兵シ、吾國モ止ムヲ得ズ又出兵シタリ。其極終ニ今日干戈ヲ以テ相見ユルノ不幸ヲ招ク原因トハナリタリ。是レヨリ先キ我が政府ハ、事ノ此ニ及バザルニ於テ和局ヲ維持セント欲シ、彼レ清國ニ勸告シ協同貴國ノ内政ヲ改良スベシトノ條件ヲ附シ、之レヲ詢リタルモ、彼レ頑然堅ク貴國ノ屬邦論ヲ執ツテ其案ヲ排却セリ。則チ我が政府ハ行掛上自個ノ獨力ヲ以テ貴國ノ獨立ノ基礎ヲ鞏固ナラシムル爲メ、内政改良ノ局ニ當ラザルベカラズトノ決心ヲ爲シタルモ此時ニアリシナリ。

金總理

丙子和講以來貴我交渉ノ顛末聊カ之レヲ知悉セザルニアラズト雖モ、借兵ニ關スル御親書並ニ這回貴國ガ清國ニ詢ルニ協同我が内政改良ノ局ニ當ルベシト努メタルガ如キ仔細ノ情況ニ至テハ更ニ承知致サバリシニ、閣下ノ詳話ニ據リ具サニ之レヲ悉スヲ得タリ。

井上

親書ノ事已往ニ屬スレバ今事新ニ大君主ヲ始メ當局者ニ向ヒテ聲言スルノ要ナシト信ズレバ、拙者ハ深く此事ヲ藏メテ表明スルノ用ナシ。只ダ貴國人ノ不徳義ナルニハ當時頗ル大不快ヲ覺エシ故ニ一應閣下ノ御含ミマデ申述べタル次第ナリ。

金總理

若シ我が大君主ニ閣下ヨリ奏上セラル、如キコトナラバ、定メテ赧然當惑ニ御思召ナラント存ズレバ、此儀ハ只管スラ閣下ノ寛恕ヲ仰ギタシ。

井上

拙者敢テ已往ヲ尤ムルニ意ナシ、惟ダ歴史上ノ話ノ序ニ一應貴聽ニ留メ置カレン事ヲ期スルノミ。扱テ貴國內政改良ノコト最早三ヶ月ヲ經ルモ其ノ實効ヲ見ズ、拙者ハ之ニ就キ本邦ニ在ルノ日、及ビ當地ニ來ツテ以來、内部ニ種々猜疑離間ノ行ハル、アリテ、互ノ間、朋黨ヲ樹テ勢權爭奪等ニ日時ヲ送ルト聞ク、斯クテハ我が日本ガ幾多ノ人命ヲ犠牲ニ供シ、巨億ノ財ヲ擲ツテ事ニ從事シタル目的ト大ニ相違スルナリ。夫レ貴國ノ内政ニシテ改良ヲ見ザランカ、第一、東洋ノ局面ニ如何ナル不幸ヲ見ルヤモ知ルベカラザルコト、第二、我が商民ノ利益ヲ直接間接ニ害セラル、コト是レナリ。今ヤ東洋ノ形勢ハ日ニ多事ヲ告ゲ、何日何時風怒リ浪激スルヤモ知ルベカラズ。此時ニ當ツテ貴國ハ東洋ニ船ヲ同クシテ此ノ危難ヲ乗拔クルノ勇氣アリヤナキヤ、否、惟フニ貴國ノ事タル、彼ノ白耳義、瑞西等ノ小國ガ歐洲強國ノ間ニ介立シテ善ク自主獨立



スルトハ其趣キヲ異ニスルナリ。何トナレバ彼ノ二國ハ内國政モ整ヒ、獨立シテ他ノ侵略ニ遇ハザレバ能ク其邦土ヲ維持スルニ難カラズ。顧ミテ貴國ノ有様ヲ視レバ、獨リ外患ノ乘ズルナキモ、竟ニ自國內訌ノ爲メ他ヲシテ乘ゼシムルノ機會ヲ作ルニ至ルベシ、豈寒心セザルベケンヤ。貴我兩國ノ定約ハ彼我國民ヲシテ通商貿易ノ利益ヲ保護スルモノニシテ、取リモ直サズ兩國ノ有無ヲ協通シ、國利ヲ増進スルニ外ナラズ。然ルニ已往ノ經驗ニ鑒ムルニ、我が商民ノ直接間接ニ貴國ノ爲メ利益ヲ害セラレタル實例枚舉ニ遑アラズ。斯ノ如クンバ定約ノ誠意何レニカアル、是レ貴國內政ノ紊亂セル、綱紀ノ嚴肅ナラザル、職トシテ之レニ由ラズンバアラズ。以上ノ理由ハ孰レモ貴國內政ノ改良ヲ悉クス所以ノ重ナル原因ナリ。

## 金總理

閣下ノ言一々拜聽セリ。貴國ガ我國ニ對セラル、ノ厚意已ニ此ノ如シ、況ンヤ朝鮮ノ臣民タルモノ誰カ奮發一番以テ國家ノ爲メ盡サルモノアラン。只ダ我國人ノ無教育ナル、常ニ疑惑猜嫌ノ淵ニ溺レ、左視右顧、決斷力ニ乏シク、事ニ臨ンデ逡巡スルハ是レ必竟時局ニ豁通スル能ハザルハ不明ノ致ス所ナラン。

## 井上

第一、貴國ノ大弊害タルベキコトハ政權多門ニ出ヅルナリ。此ノ弊ヲ先ヅ以テ防止セザルベカラズ。此ノ弊ヲ革ムルニハ主トシテ大院君ノ地位ヲ明カニセンコトヲ要ス。其ノ問題タル大院君ナルモノガ攝政ナリヤ、將タ又國王ノ輔佐ナリヤト云フニ在リ。若シ攝政ナリトセバ、表面上君主ニ代リ國政ヲ躬カラスルトノ意味ヲ生ズルナラン。又輔佐ナリセバ裏面上君主ヲ輔弼スルモノニシテ、國政ヲ自カラスルト云フモノニアラザルナリ。此ノ點ニ關スル御意見ハ如何。

## 金總理

勿論攝政ナド云フベキモノニアラズ、即チ國父ノ御間柄ヲ以テ君主ヲ輔佐セラル、ト云フニアレバ、表面上ハ毫モ國政ニ關係アルコトナシ。

## 井上

拙者モ左様思ハル、ナリ、已ニ大院君ニハ兩回面會シ談話ヲ試ミタルニ、隨分頑固ナル老人ニテ、世ノ趨勢ヲ察セズ、一意舊弊ヲ持續セントスルガ如キ傾キアリ。拙者ニ面會勿々筆ヲ取テ「漢高帝之得天下心也先以約法三章云々」ト記シ、只ダ是レヲ以テ朝鮮ヲ治メントスルノ言動ヲ示シ、又拙者ト政府大臣ト一席ニ會シ談話スベキニ付、其席ニ臨マレタシト云ヘバ、國法ガ許サズト拒ミ、拙者ハ痛ク此說ヲ排斥シ、此ノ國家危急ノ秋ニ當テ國法ナドノ言辭ヲ以テ之ヲ避ケントセラル、モ、已ニ國王モ拙者謁見ノ際内國改良ノ必要ヲ奏上スルニハ、宮内、外務ノ大臣傍ラニ在ルアリ、又東學匪徒ヲ退治スルニ他國ノ兵力ヲ借ルガ如キモ、是レヲ國法ト云フベキヤト推問スレバ、



孟子ノ境ニ入レバ先ヅ禁ヲ問フトノ句ヲ引援スルナド、殆ンド支那流ノ大言壯語ヲ用キテ人ヲ籠絡セントスル如キ氣味アリ。然レドモ大臣列席暢談ノ事ハ不平ナガラモ拙者ノ望ミニ從フベシトノ事ナリシ、内政改革ノ實毫モ舉ラズト詰レバ、漸以テ歩ヲ進ムベシト云フ、拙者ハ之ニ對シ歩ヲ進ムルトハ椅子ヲ離レテ先ヅ歩ヲ移スヲ云フ、椅子ニ坐居スルヲ以テ進歩ト云フベカラズト反抗シ置キタリ。此ノ如キ固陋ノ考ヘヲ用キテ勝手氣儘ヲ働カル、様ニテハ、政府大臣モ定メテ困難ナルベシト御察シ申スナリ。況ンヤ閣下ハ國務大臣ノ首席、即チ總理トシテ最モ難澁ナラン。拙者モ切ニ同君ニ遇ヒ何卒シテ其ノ固執ヲ破碎シ、氣儘ノ振舞ヲ押ヘタシ、又同君ハ切リニ民心ヲ云々セラルルモ、人ガ默スレバトテ人心ヲ得タルモノニアラズ、大院君ノ必竟民心ヲ得ルトハ人心ヲ畏怖セシメテ、無理ニ己レニ傾同セシメントスルモノニシテ、其意ニ反スルヤ獄ニ投ジ、其ノ惡ムヤ暗ニ縊殺ヲ行フガ如キ、比々皆文明ノ世ニ適セズシテ陋習ナル惡手段ニ出ヅルナリ。

## 金總理

然リ、頗ル頑固ナリ（一層低聲ニ）大院君ニ人望アリトハ、其實ハ我國ガ近年閔氏ノ政權ヲ專ラニセルヨリ、紀綱紊亂、政令正シカラズシテ無辜ノ民ヲ害スルコトノ甚ダ多カリシカバ、寧ロ大院君執政ノ時ニ如カズトノ念ヲ起サシムルニ至レルモノニシテ、

同君執政ノ當時ト雖モ頗ル慘狀ナキニアラザリシ。只ダ一般ガ大院君ヲ懷フハ、今日ヨリ比較的ニ優レリトノ意味ニシテ、公正ノ見ニアラザルナリ。

希クハ閣下屢々大院君ト會見シテ充分同君ノ舊夢ヲ霧散セシムルヤウ願ヒタシ、到底吾々ノ力ニテハ君臣間ノ關係ヨリ、所謂國父ヲ以テ任ズル同君ヲ動カシ、意ヲ翻シ得ル能ハズ。然レドモ若シ彼ノ人ニテ一旦翻然圖ヲ改ムルニ至ラバ、國家ノ爲メ幸福ト云ハザルヲ得ズ。要スルニ同君ノ向背如何ハ國家問題ニ大ナル關係アルベキコトナレバ、同君ヲシテ勝手氣儘ノ舉動ヲ押へ、一朝開明主義ノ今日ニ急務ナルヲ知ラシメバ、幾百千ノ開化黨アルニ優ルノ結果アルベシ。此ノ任務ハ是非閣下ニ望ムノ外、遺憾ナガラ朝鮮臣民ノ遠ク企テ能ハザル所ナリ。特ニ先日閣下ニ回目ノ談話ハ著シク効能アリシモノト拙者ハ確信セリ。何トナレバ其ノ翌朝ノ事ナリシ、宮内大臣李載冕氏（大院君ノ長男）ハ態々拙者ヲ訪ヒ、大院君ノ傳言ナリトテ曰ヘラク、昨日井上伯ト談話中、多ク言語ヲ慎マズ或ハ同伯ノ感情ヲ害ヒ怒ニ觸ル、様ノコト共ナカリシカ窃ニ懸念サル、ナリ、定メテ本日同伯ハ議政府ニ大臣ヲ訪ハル、筈ト聞ケバ、何卒老父ノ爲メ可然御取成ヲ乞フ。又同氏ハ老父已ニ老耄ノ身ヲ以テ國政ニ參與スルノ意ナシナドト切リニ多少我ヲ折リ歩ヲ讓リタリ。尙ホ此上ハ折ニ觸レ機ニ應ジテ閣下ガ良劑ヲ進



メラル、ニ於テハ、同君トテモ必竟ハ悔悟スル時節到來スベシ。誠ニ同君ノ如キハ或トキハ毒ニモ成リ、又藥ニモ成ルコトナレバ、矢張り全ク捨テザル方宜シカルベシト思惟ス。

(暗ニ王妃ニシテ政事上ノ容喙ヲ防グハ、大院君ヲ要スベキヲ指ス)

## 井上

拙者ハ先日大君主陛下ニ謁見ノ節、王室内ノ和合協同ニ付縷々陳奏シ置キタリ。夫レハ大院君ガ入宮前ニアリテハ廢妃ノ目論見アリシトカ、又嫡孫李竣鎔ハ世子宮ヲ廢シ己レ之ニ代ラントスルトカ、種々不祥ノ風説アリシカバ、王妃ノ位地今ハ閔氏威權ヲ恣ニスル時代トモ異ナリテ、頼ルベキ親戚モナク、孤獨ノ境遇ニ坐シ、其心情ハ如何アルベキ、定メテ心細ク不安心ニ思召スナルベシ。随ツテ宮内ノ折合モ宜シカラズシテ相互ノ間ニ釋然タラザルノ嫌ヒナキヤト窃カニ慮カラルレバ、先ヅ以テ王室ノ一致協和コソ望マシキコトナリ。第一、王室ヲ調停シテ和氣洋洋タラシムルノ日ハ、政府大臣モ安ンジテ一意其職務ヲ行フノ便宜アルベキナリ。云々

又此際閣下ト拙者トノ間柄ガ密着ナルハ頗ル緊要ト存ズレバ、御互ヒニ何事モ忌彈ナク内幕ヲ打明シ、胸襟ヲ披イテ御相談致シ度シ。拙者モ我 皇帝陛下ノ御信任ニ依リ、折角來リテ貴國ノ大業ヲ翼賛シ、其實効ヲ奏センコトヲ努ムル上カラハ、内輪ノ情況

ニ通ジ一切ノ事實ヲ詳カニシ、而シテ可成大業ノ妨害物ヲ排除シテ以テ事ニ從事セザルベカラズ。縱ヘバ拙者ヲシテ病者ノ病狀ヲ詳カニシテ其用フベキ所ノ藥劑ヲ適當ナラシムルハ之レヲ閣下ニ待タザルヲ得ザルナリ。

拙者ハ國王ニ向テモ御信用アルベキヤウ、又何事モ陛下始メ陛下ノ政府大臣ヨリ御相談アリタシト上奏シ置キタリ。去レバトテ拙者ガ何モ貴政府部内ニ大ナル權力ヲ得ヨウナド云フ如キ野心ハ毛頭挾サミ居ラズトノ事ヲモ申上ゲ置キシ様ノ次第ナレバ、閣下ニモ其邊ハ御含ミアツテ充分打解ケテ衷情ヲ吐露シ、細大洩サズ相談ニ預リタシ。拙者モ公使ノ資格ニ依ラズ、一ニ貴國ノ顧問官同様トシテ腹藏ナク誠實御相談ニ應ズベシ。

## 金總理

御厚意難有、拙者ノ考ヘモ決シテ公使トノミ見做サズ、我ガ顧問官トシテ萬事御協議スベシト存ジ居レリ。各衙門ニ聘用スベキ顧問官ニ就テ一言センニ、實ハ報聘大使ノ一行中兪都憲ニ訓令ヲ授ケテ貴政府ニ就キ適當ナル人物ノ推薦ニ預リタシト命ジ置キタル折柄、閣下ノ御來任ト聞キ、此レヲ中止セシメタリ。極メテ顧問官ノ件ニ就テハ閣下ノ御考案モアルベケレバ、時機ヲ見計ヒ可然人物ノ推舉ニ預リタシ。御承知ノ通り何事モ創業ノ際ナレバ、我邦人ノ不經驗ナル到底各衙門ノ事ハカノ及バザル所ナレ



顧問官ノ手腕ニ據ラザルベカラズ。其ノ顧問官ノ適否ハ之レヲ閣下ノ鑑定如何ニ一任致ス外ナシ。

井上

顧問官ノ事固ヨリ等閑ニ附スルニアラザレドモ、如何セン今日貴政府ノ有様ニテハ顧問官ガ何程敏腕ヲ振フニセヨ、片端シカラ之レヲ傷ケ又妨グルモノアリテハ改良ノ事實ノ進歩スル筈ナシ。一步進ンデ二步退クガ如キハ寧ろ害アルトモ益アルナシ、故ニ先ツ基礎根本ヲ固定シタル上、愈ヨ其ノ事ニ取掛ルカラハ何等ノ困難モ必ラズ挫折セザルベシトノ決心ヲ付ケ、始メテ顧問官ノ入用ハ生ズベシ。夫レマデハ時機尙ホ早シト存ズルナリ。

顧問官ノ事、我國人中ニモ段々望ミ手アリトノ事ヲ聞ケリ。去リナガラ事柄ニ因テ人ノ技能ヲ異ニスレバ、其ノ局部ニ必要ナル人物ヲ舉ゲザレバ何ノ用モ爲サルモノナリ。拙者ハ本邦ヲ出ヅルノ際深ク顧慮スル所アリ、我が政府ト約スルニ顧問官聘雇ノ事ハ一切拙者ニ一任スベシトノ條件ヲ附シ置キタレバ、此段時機ヲ見計ヒ御相談ノ上必要ニ應ジテ薦舉スベシ。去レバト云フテ拙者ノ私情ヲ逞フセンガ爲メ濫リニ親近故舊ノモノヲ舉グル如キ愚ヲ爲スモノニアラザレバ、其ノ邊ハ御含ミ相成リタシ。

金總理 諾。

井上

大院君ノ地位ハ以上述べタル所ニ據テ明了セリ。然ラバ同君ガ擅ニ政府ノ職權内ニ侵シ入り、任事上ノ可否ヲ試ミ、若クハ暗ニ妨害ヲ與ヘテ折角成立セントスル事柄ヲモ阻喪ナラシムル様ニテハ第一ノ弊害ナレバ、決シテ此等ノ事ナキヤウ、又政府大臣ガ常ニ其位地ニ不安ヲ抱キ疑懼ヲ爲サルヤウ致シ度シ、此ノ目的ヲ達スルニハ、國王ト大院君トノ關係ヲ明カニシ、其ノ權限ヲ確定シ、大院君ヲシテ濫リニ政治上ニ容喙セシムル如キ事ナキヤウ致シ度シ、孰レ此等ノ事ニ關シテ追々熟慮シ置クベシ。

金總理

追々閣下ノ御注意モアレバ、大院君トテモ了解セラル、コトナラン。兎角同君ハ今ヲ距ル二十年前ニ一旦執權ノ地位ニ立チ、其ノ甘味ハ今ニ胸臆ヲ離レザルモノト見エ、動モスレバ執權ガマシキ舉動ヲ免カレズ、嘆息ノ至リナリ。

尙ホ此後御面會ヲ重ヌルニ隨テ内輪ノ情況ヲモ詳カニセラル、ナラバ、我國ノコト豫想外ノ事多カルベシ。

井上

終リニ臨ンデ一言致シ度キハ、凡ソ獨立ナル文字ハ其ノ字ノ如ク獨リ立ツトノ意味ナレバ、隣邦ガ如何ニ傍ヲヨリ其ノ獨立ヲ扶助セントスルモ、貴國自カラ獨立ノ覺悟ナクシバ畢竟無益タルベシ。去レバ朝鮮臣民タルモノ同心協力此時機ニ蹶起セザルベカラズ。斯ク申スモ貴國ノ獨立ヲシテ鞏固ナラシムルハ空前絶後ノ最好時機ト存ズレバ



ナリ。

金總理 諾。

## 井上伯内謁見陳奏要略

十一月四日大君主へ内謁見ヲ申入レ置キタルニ、宮内大臣李載冕氏ハ同日午後二時謁見ヲ賜ハル旨通知セルニ付内謁見セリ。余ハ先ヅ以テ宮内、外務兩大臣ニ向ツテ本日徐ロニ奏上致度事有之、願クハ大君主、世子ノ外何人モ姑ク席ヲ避ケラレタシト申出デタルニ、兩大臣モ異議ナク領諾セリ。

大君主 昨日ハ貴國 皇帝陛下ノ天長節ニ當リ、朕モ萬里ヲ距テ遙カニ此ノ慶節ヲ祝スルハ洵ニ満足ニ堪ヘズ。尙ホ又此ニ卿ヲ引見シテ祝詞ヲ致スナリ。

井上 我 皇帝陛下モ廣島大本營ニテ數多ノ將校ト共ニ此佳節ヲ共ニセラレ、恰モ同時ニ鳳凰城ニ於ケル我が軍旅ノ捷報モ達シ、庶民歡呼ノ中ニ一層御爽快ニ涉ラセラレタルコトナラント奏シ、直ニ地圖ヲ持參シ、第一、第二軍並ニ艦隊ノ動作ニ關シ得タル諸報告ノ一部ヲ地圖ニ就キ具サニ説明シタリ。抑モ日、清開戦以來我 皇帝陛下ハ大本營ヲ



廣島ニ移シ、晝夜ノ別ナク作戰計畫ヲ親ラセラレ、士卒ト疾苦ヲ共ニセラル、ナリ。貴國ト雖モ今日ハ我國ト同盟ノ約ニ據リ、最早清國トノ條約モ破毀セラレ、姑ク一兵ノ我ト戰鬥力ヲ共ニスルモノコソナケレ、事實清國ニ對シテハ宣戰國ナレバ、其ノ思召シヲ以テ接戰ノ景況ヨリ、我ガ占領線ノ區域等時々刻々御傾聽アツテ可然ト窺カニ思惟致スナリ。爾今我ガ軍隊ノ報告ハ接到ノ都度當局大臣ヲ經ルカ、若クハ外臣自カラ上奏スルノ機會多カルベシ。

大君主 然リ、我ガ獨立ノ實ヲ舉ゲシメントシテ終ニ日、清ノ交戰ト爲リ、特ニ貴國 皇帝陛下ノ御苦慮ノ程モ察セラル、ナリ、申スマデモナク、朕モ時々攻守ノ形況ヲ詳カニスルノ必要アリ、屢々奏聞ニ預リ度シ。

井上 今日ハ内々奏上致シ置キ度儀有之、聖聽ヲ煩ハスヲ得ルヤ否ヤ。

大君主 諾。

井上 幸ヒナリ、尙ホ希クハ陛下ノ左右ヲモ悉ク退ケラレ、徐々奏聞ニ及ビタシ。

(此時國王ハ宮内大臣、外務大臣始メ、待臣ヲ顧ミテ暫ク退席セヨト命ゼラル)

井上 外臣闕下ニ至リシヨリ以來日尙ホ淺シト雖モ、聊カ貴政府部内ノ情況ヲ究ムルヲ得タリ。扱テ目下貴政府ハ或ル者ハ絕對ニ開化主義ヲ唱へ、或ル者ハ絕對ニ守舊主義ヲ唱

ヘツ、アリ。要スルニ極端ト極端トノ間ニ衝突ヲ致セルガ如シ。加之、政治多門ヨリ出デ、人々兩端ヲ持シ、疑懼ノ間ニ彷徨スルモノアリ。斯ノ如クンバ如何ニ陛下ガ國政ノ改良ニ熱中セラル、モ其實効ヲ收ムルハ頗ル困難ト存ゼラル。去レバ先ヅ以テ大政ハ一途ニ歸シ、敢テ多端ニ多門ヨリ出ヅルガ如キ不都合アラザルヤウ、又タ開化、守舊主義ト雖モ時勢ノ趨勢、事物ノ利弊ニ鑑ミテ、各衙門大臣以下モ其ノ極端ニ偏頗セズ、一致協和ヲ務メザルベカラズ。惟フニ今日ノ有様ハ陛下モ必ラズヤ窺慮ヲ惱マサル、コトナルベク、又實際陛下ノ力之レヲ如何トモスル能ハズトノ御思召アルモアラシ。然レドモ物ハ決心次第ニテ隨分ドノ様ニモ處辨セラル、コトナレバ、外臣ガ此ノ一言ヲ勸メタキハ陛下御決心ノ如何ニアルナリ。凡ソ決心ナルモノハ何カ頼ル處アラザルベカラズ。即チ頼ル所アツテ始メテ事物ニ付決心セラレ得ルナリ。然ルニ貴國今日ノ場合ハ如何ト申セバ、兵力ト申セバ其内亂スラヲモ鎮定スル能ハズ、政府ハ如何ト申セバ、四分五裂、或ハ離間、或ハ猜疑、或ハ權力ヲ爭フ如キ體裁ニシテ、一モ陛下ノ大業ヲ翼賛シ効果ヲ收ムベシト思ヒ得ラル、モノナシ、申スモ如何ノ次第ナレドモ、殆ンド陛下ノ上下共其ノ頼ムニ足ルト思召スモノ一人モナキニ似タリ。否、寧ろ陛下今日ノ御境遇ハ孤獨ノ地位ニ坐セラル、モノト異ナラズ、左スレバ外臣ガ無暗



ニ御決心ヲ奏薦スルモ、陛下ノ意恐ラク躊躇セラル、ナラン。併シ乍ラ陛下ノ御決心ハ即チ馨ヲ御信用アリテ御依頼アルニ如カズト信ズ。サレバ馨個人トシテハ御承知ノ通り何等ノ勢力アルモノニモアラズ、寧ロ微々タル者ナリ。然レドモ馨ガ背面ニハ即チ日本政府アリト云フコトヲ御會得相成ラバ、其ノ勢力ヲ察セラル、ニ難カラザルベシ。果シテ然ラバ外臣ヲ信用シ御依頼相成ルノ日ハ、取リモ直サズ王室ヲ鞏固ナラシメ、兼テ陛下ノ決心力ヲモ富マシムルニ至ルヤ必然ナリ。

## 大君主

誠ニ卿ノ奏言ノ如クンバ大ニ安堵ノ懷ヒヲ爲スナリ。其レニ就テモ卿ガ我が國情ヲ充分穿テ得タルノ議論ナリ。

## 井上

第一此際陛下ノ御決心ヲ要スル所以ハ已ニ縷陳シタル如シ、惟フニ外臣奏上ノ事柄ハ中宮陛下ニモ御聞キニ達シ、共ニ兩陛下ノ御意見ヲ直ニ承知スルニ在ラザレバ、事體如何ヤト懸念セラルレバ、貴國ノ慣例トシテハ中宮ニ謁見ヲ請フ如キハ頗ル破格ノ恐れアリ、如何ハシクハ存ズレドモ、邦家多事ノ際ニモ有之、舊慣古格ニ拘泥スベカラズト存ズレバ、特別ノ聖意ニ出デ、中宮ニモ謁見ヲ賜リ、共ニ外臣ノ奏言ヲ聽納セラレ、ヲ望ム。尤モ今日ハ通常外國使臣ノ謁見トモ異ナリ、斯ク陛下ノ侍臣マデモ退出シタル上ハ、此席ノ事ハ他ニ洩泄スル等ノ虞レナク、今後之レガ爲メ何等ノ故障ヲ王

室ノ典例ニ生ズベシトモ考ヘラレザレバ、特ニ奏請致スナリ。併シ敢テ此事ヲ陛下ニ強フルノ意ニアラズ、只ダ兩陛下ハ一心同體、八道ノ蒼生、父母トシテ仰慕シ、之レト休戚ヲ與ニセラル、ハ必然、亦タ國政上ノ方針ニ就テモ自カラ感情ヲ一ニセラル、コトナレバ、傾聽ヲ煩ハス所以ナリ。

## 大君主

卿ノ請フ所敢テ難キニアラズ、然レドモ如何セン、我が慣例ハ男女内外ノ區別最モ嚴重ニシテ、民間往來ノ際ニアリテスラ姉女ノ面見ヲ從兄弟ニ止ム、其他何人ト雖モ接間ノ禮姉女ニ及バザルナリ（ト稍ヤ持重セラル、折柄、先キ程ヨリ國王ノ背後、障子ヲ隔ツル一ト間ニ在リテ終始ノ問答ヲ立聞キセラレタル中宮ニハ、スカサズ少シ計リ殊更ニ障子ヲ開キ）予ハ卿ノ請ヒニ悅ンデ應ジ、出デ、席ニ就キ、有益ナル談話ヲ聽クコトヲ望ムモノナリ、去リ乍ラ此ニ一ノ困難ナルハ、上王大妃、大院君ノ在ルアリ、兩所共ニ申サバ予ガ孝養ヲ盡サルベカラザル間柄ナレバ、兩所ヲ差シ措キ破格ニモ外國使臣ヲ引見シタリトセバ、其レコソ一方ナラズ變體ト御思召スハ當然、又タ國民ノ聞エモ多少憚ラザルベカラザル自分ナレバ、自躬カラ席ニ列スル能ハザルモ、此一ト間ニアツテ奏上ノ顛末ハ一々之レヲ聽聞スルニ於テハ、同席モ殆ンド同様ナレバ、何事ニ拘ハラズ遠慮ナク奏聞アリタシ、又タ予モ一々應答スベキナリ。



井上 否、敢テ強ヒテ請フノ意ニ非ラズ、王妃ガ已ニ使臣ノ奏言ヲ次ノ一間ニ於テ御聽聞相成ル以上ハ、最早直ニ面奏スルモ同然ナレバ、使臣ノ本懷之レニ過ギザルナリ。尙ホ此後直謁奏聞ノ際ト雖モ、矢張今日同様兩陛下ノ御傾聽ヲ煩ハシタシ。去レバ兩陛下ニモ必ラズ本使ノ意見ヲ御了解アラセラレ、而シテ陛下大業ノ爲メ裨益スル所蓋シ尠ナカラザルベシト信ズルナリ。尤モ奏言中ニハ忌諱ニ觸ル、コトモ多カルベシ。縱ヘバ良藥モ口ニ苦シ、之レヲ忍ンデ服セザレバ健康體ニ復セザル道理ナレバ、陛下ニモ外臣ノ言辭時ニ耳ニ逆ハン、然レドモ忍ンデ聞召サンコトヲ豫メ希望スルナリ。

## 中宮

卿ガ貴國ニ忠愛ナルト同時ニ、亦我國ニ對スル衷情ハ、予已ニ業ニ之レヲ知ル、惟フニ大君主ト雖モ必ラズ卿ガ言ヲ容レ、其味ノ苦甘ニ論ナク一ニ必ラズ之レヲ勵行セラ、コトナレバ、卿其レ之レヲ諒セヨ。我國ニ何ニモ頼ムベキ事トテハナケレドモ、只ダ獨リ君權ノ重大ナル一事是レナリ。古來國民ノ頭腦ニ染入シ、君主ノ命令トサヘ云ヘバ、是非曲直ノ差別ナク直ニ默從スルコトナリ。去レバ内政改良ノ如キ、開化主義ノ如キ、君主上ニアツテ一タビ之レヲ主張スレバ必ラズ下萬民ヲシテ風靡セシメザルハ無シ。故ニ以上ノ目的ヲ達スルニハ君權ニ因ルハ此際好手段ト思ハル、ナリ。然ルニ（是レヨリ以下兩陛下同様ノ語氣ニテ）六月二十一日（我が七月二十三日）以

來殆ンド君主ハ虛位ヲ擁シ、唯ダ名アツテ其實ナク、手ヲ空ウシテ事ノ成行如何ヲ傍觀スルニ過ギザルナリ。又（少シク不平ノ語氣ニテ伯ニ向ツテ暗ニ政府ノ專行ヲ訴フルノ色アリ）開化黨ナルモノ、舉動ヲ見ルニ、國家ノ爲メ誠ヲ推シ事ニ從事セズ、只ダ六月以後何事ヲ爲シタリヤト云ヘバ、各衙門ノ名稱ヲ更メタルマデナリ（新官制發布以來官吏ノ黜陟等モ從前ノ如ク國王、王妃ハ自由ヲ得ザルニ付不平アリ）凡ソ事ハ實ヲ舉グルニアリテ、單ニ名ノミニアラザルナリ。今ノ開化黨ノ如キ多ク其名ニ拘泥シテ其實ヲ顧ミザルガ如キ、余ガ深ク望ム所ニアラズ。

## 井上

君權ト云ヒ或ハ國權ト云フガ如キハ自カラ定義アリ、一々奏明ヲナサントセバ僅々數時間ノ能ク盡ス所ニアラズト信ズレバ、追テ再ビ謁見ノ時機ニ於テ具サニ卑見ヲ披瀝シテ聖聽ニ達スベシ。

此ニ一言中宮陛下ニ奏上致シ置カザルヲ得ザル次第ハ、今日ハ從前陛下ノ御一族ナル即チ閔氏ガ外戚ノ威權ヲ挾ンデ國政ヲ專ニシタル時代ト異ナリテ、内ニハ大院君新ニ樞機ニ參セラル、アリ、外ニハ開化、守舊黨ナド云ハル、種々ノ分子ニ因ツテ政府ヲ組織セラレ、中ニハ隨分不祥ノ言語ヲ弄シ、陰險ノ手段ヲ爲スモノモアルベシ。去レバ王家ニ取リテハ孤立ノ懷ヒアリテ不安心ニ涉ラセラル、コトナラン。又タ其レニ就



テハ種々様々御疑惑モ生ズルコトナラン。然レドモ閔氏ト云ヒ、李ト云ヒ、其他ト云ヘドモ均シク是レ陛下ノ王族又ハ臣民ナリ。宜シク同心協力共ニ主トシテ國家ニ忠ナラザルベカラズ。苟クモ自家權力ノ消長ニ頼ツテ互ニ私怨ヲ結ンデ互ニ擠シ、兩陛下モ亦愛憎偏頗之ニ對セラル、如キコトアラバ、内部ノ紛擾ハ常ニ止ム時ナク、内政改革ノ事復タ大成ヲ期スベカラザルニ了ラン。外臣ガ兩陛下ノ爲メ尤モ熱心ニ猛省ヲ望ム所以ナリ。尙ホ大院君ハ最早御高齡ニシテ老體ノ御身分、殊ニ國父トシテ、申サバ中宮陛下ノ舅君ニ涉ラセラルレバ、御孝養ヲ盡サル、ハ勿論、敢テ此間ニ風波ヲ生ズル如キコトアリテハ不相濟儀ト一臣窃カニ憂慮致スナリ。

## 中宮

凡ソ人心ノ圖ラレザル壬午（十五年内亂）ノ變動ノ如キ事アリ。我國ノコト何日何時如何ナル椿事アルヤモ測ルベカラズ。此ノ如キ場合ニ於テ予ハ厚ク卿ガ保護ノ及ブラ信ズ。國太公孝養ノ如キハ乃チ予ガ當氏ノ務メニ屬スレバ、充分怠リナク予ガ熱心ニ爲サントスル所、卿幸ヒニ深く念慮スルヲ止メヨ。

## 井上

陛下ノ賢明ナル寧ロ御意ヲ此ニ注ガル、ニ於テハ、外臣亦タ何ヲカ憂ヘン。凡ソ國家ノ樞機ニ關スル事柄ハ公ニスベキコト、秘スベキコトアリ。若シ秘スベキコトヲシテ暴露スルガ如キハ大ナル害アルモノナリ。去レバ政府大臣ルモノ職務上又其責任上

秘密ヲ保タザルベカラザルナリ。然ルニ貴國ノ國柄タル此ノ秘密ヲ保ツ上ニ就テハ頗ブル難事ナリ。宮中、即チ王宮内部ノ出來事ト雖モ、朝ノ事ハ夕刻ニハ都下ノ人民ハ愚カ、各館ニモ知レ涉ルコト多シ。又軍國機務處ノ如キハ政府ノ機關トシテ國事ヲ詢議スル所ナリ。其議事ノ如キモ中ニハ世間ニ憚ルベキコトモ多カルベシ。然ルニ此ノ機務所ノ體裁ハ如何ト云ヘバ、内外人ノ區別ナク其議席ニ於テ傍聽スルコトヲ得、恰モ路傍ニ政事ヲ公開スルト均シキ觀アリ。苟クモ一國ノ樞機ニ關スル事柄ヲシテ如何ニ物ノ輕重ヲ識辨セズトハイヘ、此極ニ至ラシムルモノ欲シテ尙ホ餘リアルナリ。此ニ一例ヲ舉グレバ、使臣謁見ノ次第、奏上ノ次第モ直様世間ノ耳朶ニ觸レ、日本公使ハ斯ク々々、否、誰某ハ斯クト云フ如ク漠然虚空ヲ混ジテ風説ヲ釀成スルニ至ル。其ノ弊害舉ゲテ云フベカラズ。去レバ外臣ガ敢テ奏言ニ先チ陛下ノ左右ニ退出ヲ請ヒ、其機密ヲ保タント努ムル所以ナリ。扱テ今日ノ場合ノ如キハ充分秘密ヲ保タシ得ルト信ズレバ、兩陛下ニ豫メ薦奏致度事アリ。其レハ外臣ハ緊要ノ都度内謁見ヲ請フノ便アルモ、兩陛下ニハ外臣ヲ召サル、ニハ不便モアラン。又タ實際其レ丈ノ手順ヲ經ルノ違ナキ場合モアラン。就テハ兩陛下ノ最モ信用セラレ、誠實ナル人物ヲ撰ビ、陛下ノ旨ヲ齎シ、時ニ我館ニ就キ諮詢ノ途ヲ設ケ置カル、コト是レナリ。此ノ事ハ極メテ



秘事ニ屬スレバ、必ラズ兩陛下ト丈御心得ニ止メ置カレタシ。若シ陛下ヨリ是等信任ノ人ヲ派遣セラル、場合ニ於テハ、外臣モ充分注意ヲ嚴ニシ、敢テ漏洩ノ憂ヒナキヤウ致スベシ。但シ外臣ハ貴國ノ言語ヲ解セザレバ、遺憾ナガラ通譯ヲ置カザルヲ得ズ。併シ此席ニ隨ヘ來レル國分ハ去ル十七年ニモ信用シテ用ヒタルモノニシテ、已ニ彼レガ充分秘密ヲ守ルベキモノナル事ヲ確ムレバ、決シテ御掛念ニ及バズ。

## 大君主

朕ガ親任スル所ノ侍臣ヲシテ相往來セシメ、互ニ情意ヲ通ズルハ何事ニ付キ便宜少ナシトセズ。又今日實際卿ヲ信用スル場合ニ於テ最モ緊要ノ事ナレバ、朕ハ寧ロ先ンジテ此ノ事ヲ卿ニ告グントセシモノナリ。

## 井上

扱テ貴國內政ニ就キ云々センニ、從來及ビ今日モ貴國ノコト此ノ如ク錯雜シテ職務權限ノ明カナラザルニ於テハ、内政改良ノ如キモ一ト通リノ困難ニアラズ。縱令ヘバ貴政府權門ナルモノガ、誰某ノ區別ナク勝手自儘ノ舉動ヲ爲シ、他ノ權限ヲ侵スヲ以テ意ニ介セズ、己ノ意思ニ戻レバ忽チ之レヲ獄ニ投ジ、然カモ夜暗ニ乘ジテ縊殺セシムル等、兇暴横恣至ラザルナク、又政府大臣ト雖モ一タビ權門ノ忌諱ニ觸ル、カ、但シハ其ノ命ニ抗スルトセンカ、直ニ官位ヲ褫奪スルカ、甚シキハ不正ノ罪科ヲ構ヘテ之レヲ酷刑ニ處シ、或ハ人民ニ對シテモ苛斂ヲ横徵シ、故ナク生命ヲ失ヒ、財産ヲ掠メ

ラルト云フ。其レ此ノ如ク陰險ノ事多ク行ハル、ニ於テハ、人心不安ヲ生ジ、疑懼ヲ抱キ、其堵ニ安ンズル能ハザルナリ。然レドモ權門家ハ習性トナリ、恬然毫モ怪シム處ナク、否、寧ロ其ノ非道ニ満足スルモノナリ。此時ニ當リ内政改良ヲ説クトセンカ、此等ノ人ハ忽チ反對ノ意思ヲ顯ハシ來ツテ暗々裡ニ妨害ヲ試ミルニ至ルベシ。何トナレバ内政改良ノ事決シテ以上ノ如キ專横ヲ許サズ、職務權限ノ嚴正ナル何人ト雖モ猥リニ他ノ權限ヲ犯スヲ得ザレバナリ。

又理財上ノ事ニ關シテモ是レマデノ如ク國家ノ歲入ハ不整頓ナルニ加フルニ、王室ナリ、又ハ各衙門ナリ、其需用ノ都度分ケ取り同様、制限規矩ナク消費シ、曾テ歲計如何ヲ顧慮セザルガ如クシテハ、何程歲入ガ富裕ナルニセヨ、到底堪ヘ得ベキモノニアラズ。況ンヤ貴國ノ如キ財政窮乏ノ國柄ニ於テハ最モ嚴格ナル制限法ヲ設ケ、此ノ濫出ノ弊ヲ豫防セザルベカラズ。而シテ國稅徵收ノ事ノ如キモ、是レ亦一定ノ法令規矩ヲ設ケズシテ、今日ノ儘各地方ガ任意ノ徵收ヲ爲シ、苛斂酷徵ヲ施ストセンカ、國民ノ多分ハ進ンデ富ヲ求メ、其ノ身命ヲ危クセンヨリハ、寧ロ退イテ貧ヲ守ルノ得策ナルヲ思フ可シ。夫レ此ノ如クンバ國利民富ヲ増進スルノ途ヲ杜塞シ、竟ニ國力ヲシテ萎靡不振ノ境地ニ至ラシムルヲ免レザルナリ。夫レ國民アツテ後王室アリ政府アリト



ノ原則ヨリ推セバ、王室ガ如何ニ富裕ニシテ、其ノ財力ガ潤澤ナルニモセヨ、下人民ガ無法ノ收斂ヨリ貧苦ニ満足スベキ理アラザルナリ。之レヲ總ブルニ貴國ノ事、事毎ニ非ナラザルハナシ、又弊害ナラザルハナシ。恰モ重病ニ陥リタル患者、否、寧ロ死病ニ瀕スルモノナリ。縱令バ其ノ病源ハ久シキ以前ヨリ漸次今日ノ病疾ニ沈ミタルモノナレバ、一朝一夕ニ健康ニ復スルコトハ頗ル困難ナリ。何トナレバ其ノ病因ハ一ヶ所ニアラズ、肺部ニ、胃部ニ、心臟ニ、或ハ腦モ惡ルシ、脚疾モ兼ネ、亦血液ノ循環モ宜シカラズト云フ如キ有様ニテ、身體頗ブル虛弱ニ陥リ、其ノ一所ヲ治セントセバ他處ニ影響シ、劇劑ヲ用フレバ藥毒ノ爲メ斃ルト云フ恐レアリ。如何ニ良醫ト雖モ此ニ至テ其ノ手段ニ困却セザルヲ得ズ。故ニ先ヅ之レヲ治セント欲セバ病源ノ由來スル所以ヲ究メ、又目下何レノ病症ガ尤モ急ナルカラ察シ、而シテ後徐ロニ用劑ニ着手シ、之レヲシテ適當ニ健康體ニ復セザルヲ得ズ。夫レ此ノ如キ困難アリ、去レバ外醫モ着任以來匆匆手ヲ下スニ躊躇シ、謂ラク其ノ一タビ手ヲ下シタル上ハ、再ビ退歩ノ患ヒナカラシコトヲ欲スルナリ。

大君主  
中宮

重病ナリトノ比喩能ク今日ノ時勢ニ適當セリ。已ニ卿我が國情ヲ悉クスコト此ノ如クナル上ハ、我國ニ一ノ良醫ヲ得タルト同様ナリ。之レヲ醫治スルノ方法モ自ラ卿ガ

考案ニ浮ビタルナラン。又朕ガ政府ハ不經驗ノ人ニ因ツテ組織セラレ、目下開明主義ノ初歩ヲ進ミツ、アルモノナレバ、此際貴國人ノ中適當ナル人物ヲ推薦シテ之レニ顧問官タラシムルノ要アリ。朕此事ニ就キ卿ニ諮詢セント欲ス。(此時國王ハ手ヅカラ一封ノ信票ヲ伯ニ授ケ、此頃ノ事トテ朕ガ命ヲ矯メ、何人カ何等ノ僞旨ヲ傳ヘ惑ヲ惹クモ圖ラレザレバ、特ニ此ノ信票ヲ卿ニ授ク云々。又此信票ナルモノハ先程信用アル人物派遣云々ヲ奏上セル際、中宮ハ直様此ニ御氣附アリタリト見エ、用意ノ上陛下ニ含メテ伯ニ傳ヘラル、ニ至レルモノナリ。此ノ一事ヲ見テモ如何ニ中宮ノ機敏ナルカラ知ルベシ)

## 井上

各衙門ニ適當ナル人物ヲ得ルハ難シ、如何トナレバ所謂開明主義ナルモノハ、申サバ新ニ行ハル、動作ニシテ、貴國ノ如キ是レマデ舊夢ノ中ニ彷徨シタル時代ニアツテ、此等ノ新事業ノ爲メ相當ノ人ヲ得ルハ望ムベカラズトハ當然ノ見解ナレドモ、去レバト申シテ目下在官ノ人物ヲ更任セシメタリト云フト雖モ、之ニ次グモノハ恐ラク同流ノ人物ナルベシ。若シ夫レ此ノ如キハ寧ロ此儘ニシテ、多ク官吏ノ地位ヲ動かサズシテ可成其位地ヲ持續セシムル方事情ニ格好スルナラン。果シテ然ラバ目下現在ノ諸大臣ナリ、其他政府樞要ノ位地ニアルモノヲ猥リニ變更セザルヲ以テ第一ノ得策ト存ズ



ルナリ。

顧問官聘用ノ事ノ如キモ外臣此ノ必要ヲ認メザルニ非ラズ。去リ乍ラ今日ノ如キ各衙ニ於ケル職務權限ノ不整頓ナル場合ニ於テ、如何ナル機敏ノ顧問官ヲ聘用スルト雖モ、更ニ何等ノ成功ヲ見ザル事矢張顧問ナキノ日ト同一ナルベシ。如何トナレバ何程一方ニ於テ進歩主義ヲ執ルモ、他ノ一方ニハ内裏ニ之レニ反對ノ意志ヲ懷キ、窃カニ妨害ヲ試ミル如キ事アラバ、中途ニ挫折スルノ外ナカルベシ。果シテ然ラバ此ノ顧問官ノ如キ無用ノ長物ニ歸シ、徒ニ窮乏ノ國財ヲシテ尙ホ益々窘縮セシムルヲ免カレズ。是レ外臣ガ其ノ必要ヲ認メナガラ未ダ其推薦ニ出デザル所以ナリ。我國人中、貴國ノ顧問官トシテ聘用ニ應ゼントスルモノ甚ダ多シト聞ク。然レドモ顧問官ノ如キモ實ニ其各自ノ技能ニ應ジテ之レガ要務ニ適當ナラシメザルベカラズ。若シ然ラズシテ顧問官トサヘ云ヘバ、必ラズ何事ニモ通曉スベシナド心得フルハ大ナル誤リナリ。世間所謂鄙事ニ多能ナル人物ノアルベキ筈ノモノニアラズ。各々其長ズル所アリテ、其長技ニ適當ナル事務ニ宛テ能ク配當セザルヲ得ザルナリ。故ニ外臣本邦出發ノ日ニ於テ、我が政府ト相約シ置ケリ。夫ハ苟クモ朝鮮ノ顧問官ナリ其他何等ノ名義ニ據テ貴國ニ聘用セラル・ニ拘ハラズ、馨ノ承認ノ得ルニアラザル以上ハ、決シテ日本政府ハ猥リニ

其ノ協議ニ應ジテ紹介ヲ爲サルベシト云フニアリ。陛下幸ヒニ之レヲ諒セヨ。今後時機ヲ見計ヒ、第一ニ貴國ノ事、職務權限ヲ明瞭ナラシメ、組織秩序ヲ整頓スルノ必要アリ、然ル上愈ヨ其ノ事ニ掛ルニハ成功アルベシト認ムルノ日ハ、外臣必ラズ貴國ノ爲メ恰好ノ顧問官ヲ聘用セラル、ヤウ充分ニ盡力可然ノミ。

### 大君主

朕モ亦卿ガ此ノ事ニ付全權ヲ日本政府ヨリ委任セラレタリト聞ク、必ラズ其ノ必要ニ應ジテ適當ナル推薦ニ出ヅルヲ信ジテ疑ハザルナリ。

### 井上

之レヲ要スルニ今日ノ奏言中、陛下ノ御信用アル人物ヲシテ聖旨ヲ外臣ニ時々傳ヘラル、ノ道ヲ開カル、コト、中宮陛下ニ直ニ拜謁ノ事ノ外、敢テ秘密ヲ要スル程ノコトハ更ニ之レナキナリ。唯ダ終ニ臨ンデ一言致シ置キ度ハ、兩陛下ト大院君、若クハ政府諸大臣ト、何カ御意見ノ相衝突スルカ、又ハ改良ノ組織上ニ關シ叡慮ヲ惱マサル、ノ場合モアラバ、單純ノ公使トノミ思召サズ、一ノ顧問官トシテ御諮詢相成タク、又或ル場合ニ於テ外臣ノ奏上ニヨリ、即チ井上ヲ顧問視スル故ニ、彼レニ就テ萬事ヲ協議スベシトノ聖旨ヲ降サル、ニ於テハ、必ラズ各大臣ト雖モ外臣ニ就キ商議ヲナスベシ。然ルトキハ外臣ハ事ノ緩急ニ應ジテ諄々利害ヲ論ジ、事ノ破綻ニ至ラザルニ先キダチ之レガ調理ヲ試ムベシ。又タ外臣ヲ陛下ガ顧問官視シテ萬事ヲ御諮詢相成ルニ於

井上伯内謁見陳奏要略



テハ、決シテ公使ノ資格ニ據ラザレバ、各國公使ト雖モ之レニ向ツテ故障ヲ試ムルノ辭柄ヲ作ル恐レアラザルナリ。今日ハ貴國ノ獨立ヲ鞏固ニスル爲メ、内政ヲ釐革スルニ再ビ得ベカラザル機會ト存ズレバナリ。若シ此ノ時機ヲ失スルニ於テハ、再ビ此ノ如キ好機ガ到來スルヤ否ヤ甚ダ覺束ナシ。顧ミテ已往ニ溯レバ、陛下ハ去ル十五年、十七年以來、幾多難局ニ遭遇セラレタルニアラズヤ。外臣窃カニ陛下ノ爲ニ嘆息セザルヲ得ザルナリ、只ダ望ラクハ向後此ノ覆轍ヲ再演セザルヤウ御注意アランコトヲ望ム。假リニ此後ニ生ズベキ不幸アリトセバ、敢テ已往ノ比ニアラズシテ、尙ホ一層ノ慘禍ヲ現ハシ、何等ノ不祥ヲ見ルモ未ダ知ルベカラザルナリ。陛下ノ聰明ナル、恐ラク自カラ思慮ノ到ル處アルベシ云々。(ト奏シタル後、伯ハ奏詞ノ長時間ニ涉リシヲ謝シ、退出ヲ言上シテ程ナク殿閣ヲ出デ、歸路宮内、外務二大臣ト休憩所ニ相見テ兩大臣ニ向ヒ)定メテ今日長時間ノ奏上ヲナシタレバ、諸君ハ拙者ガ何等ノ秘密ヲ奏上セシカトノ御疑ヒモアルベシ。然レドモ拙者ガ我 皇帝陛下ノ對韓ノ 御誠意ヲ荷ヒ來ツテ貴國ノ内政改良ヲ忠告スベキハ已ニ御承知ノコトナレバ、御疑惑ナキハ勿論ノ事、亦タ大君主陛下トテモ必ラズ拙者奏上ノ始末ハ兩大臣ニモ御吹聴可相成トハ信ズレドモ、猶ホ一ト通り兩大臣ノ聽聞ニ達シ置クノ必要アリト認ムル故ニ、大略ヲ此ニ叙陳スベシ。之レヲ要スルニ拙者ノ衷情貴國ノ内政整理ニ切ナル極、其ノ奏言モ常ニ陛下ノ口ニ苦味ヲ感ゼラル、事多カルベシ。然レドモ忍ンデ之レヲ聽聞セラレザレバ、貴國ノ前途知ルベカラズトノコトヲ諄言中ノ骨子トナシ居レリ。

トノ前置詞ヲ爲シ、諄々奏言ノ要領ヲ述べ了ツテ退館セリ。

(尤モ中宮トノ對談並ニ要信ノコトノ如キハ殊更ニ此ニ表明スルノ要ナケレバ明サズ)



## 金宏集、金允植、魚允中トノ談話筆記

十一月八日午後二時、總理大臣金宏集、外務大臣金允植、度支大臣魚允中ノ三氏、日本公使館ニ井上伯ヲ訪問シタル談話筆記。一同寒暄挨拶了ツテ、

金總理大臣 御承知ノ通り忠清、全羅兩道ノ東學黨益々猖獗ヲ極メ、地方官ヲ殺傷シ、良民ノ財ヲ掠奪スルナド、頗ル切迫ノ情境ニ立至リ、我が兵力ノ微弱ナル如何トモスル能ハズ、就テハ之レガ剿滅方ニ關シテ貴慮ヲ煩ハサルヲ得ザル次第ナリ。

井上 東學黨モ實ニ追々盛シニ成リ來ルト云フ事ニ就テハ、私ガ仁川着匆匆篤ト其事モ聞キ糺シマシタ。則チ彼處(仁川ヲ指ス)兵站監長ニ伊藤ト云フ人ガ置イテアリマス、夫レカラ委シイコトヲ聞キマシタガ、何分是レハ速カニ剿滅スル策ヲ執ラナケレバナラス、足下ノ手ニ有ル兵隊ヲ以テ充分デアアル歟否ヤヲ聞イタトコロガ、伊藤ガ云フニハ、是レデハ兵モ不充分デアアル、就テハ伊藤カラモ大本營へ電信ヲ打ち、私カラモ別ニ兵

ヲ出スヨウニ云ツテヤツテ吳レト云フ請求デアアル。夫レカラ此京城ニ居ル方ノ兵ハ、ドウナツテ居ルカト云フコトヲ尋ネタ處ガ、之レガ第一軍ノ命令ニ從ツテ進退スルモノデ、當分暫時ノ間京城ノ守備ニ殘シテアルノダカラ、此京城ノ兵ヲ動カシテハ宜シクナイ。守備ニ當テ置カナケレバナラス。夫レカラ又東學黨ヲ討滅スル爲メノ兵ハ、今足下ノ手ニアル兵ノ他ニ幾千ヲ要スルヤヲ問ヒシニ、今二中隊アレバ大概充分ナリト云フ。ソコデ新タニ兵ヲ一千人京城守備ト東學黨討滅ノ爲ニ呼ビ、既ニ此ノ間外務大臣ニ此等ノ兵隊ノ宿營ニ宛ル爲メ、官舎借入レノコトヲ煩ハシタガ、其後昨日マデニ私ノ望ミダケノ兵ハ到着シタ譯デアアル。然ルニ私ガ着任スルヨリ以前ニ、陰竹、清州、其他ニモ向テ伊藤兵站監カラ多クノ兵モ出シアリ、其出先キノ方カラ押收シタ書類モ來タ、又一昨々日歸テ來タモノモアル。又其以前各處ニ出テオツタ士官ヨリ報告モ段々請取リマシタ。所デ一昨日歸ツテ來タ人ニ就テ、第一竹山ノ方ノ模様ヲ聞キ、並ニ元ト東學黨ト云フモノハ一體何モノダト云フコトヲ尋ネテ見タ處ガ、此ハ道人ト唱ヘルモノデ、元ハ全ク朝鮮政府へ反對シテ政府ヲ倒サウト云フ旨意デアツタ。所ガ段々此地方ノ官吏ガ非政ヲ行フ故、民ノ疾苦ヲ救フト云フコト、並ニ日本兵ガ來テ此朝鮮ヲ種々ニ混ゼ返ヘス、就テハ之レヲモ追ヒ拂ハネバナラスト云フ主意デアアル。夫



レカラ又其亂民ハ成程多數ナルガ、其原因ハドウ云フ譯カト云ヘバ、地方ノ人民ニ向ツテ其ノ主領或ハ接長ト唱フルモノ、又ハ其同志者ト云フヤウナモノガ、人民ニ向テ黨ニ這入レト云フコトヲ勸ムル、這入ラヌト云ヘバ直グ首ヲ切ラレル、畢竟我々ハ苛政ヲ除クモノデアル、日本人ガ來テ色々混ゼ返スカラ、此レヲ追ヒ歸ヘス主意デアルト云フノデ、即チ這入ラヌト云ヘバ殺サレルカラ嫌デモ應デモ這入ル。從ツテ又秋ノ收穫期ナレドモ、是レヲ收ムルコトガデキナイ。取ラレテシマウト云フ有様デアアル。同時ニ朝鮮政府ノ兵デアアル。此兵ガ又食料モ貫ハズ給金モ貫ハズシテ討滅ニ出デ、又人民ノ收穫ヲ奪フト云フ如キ有様デアアル。夫レデ東學黨ガ來レバ人民ハ自分ノ勞力ニ依ツテ出來タ所ノ收穫モ取ラレ、又第二兵ガ來レバ夫レニモ取ラレルト云フヤウナ有様デアアルカラ、寧ロ地方官ト云フモノハ日本ノ兵ガ來テ吳レ、バ、ソナコトハナイ、物ヲ買ツタラ代價ヲ拂ツテクレルダロウト云フ。處デ地方官モ自然日本兵ヲ望ムト云フ風ニナツテ居ルト云フ。夫レデ此竹山ナドノ地方官ハ六百ノ朝鮮兵ガオル故、我が士官ヨリ此處ニ六百ノ兵ヲ置クコトハ不用ダカラ、此兵ヲ出シテ鎮壓スレバ日本兵ガ助クルト掛合ヘバ、此ノ兵隊ヲ動カスコトハ出來ナイ、之レヲ動カスト東學黨ノ再襲ニ逢フト云ヒ之レヲ拒ミ、其ノ兵士ハ平素ハドンナコトヲシテオルカト云フヲ見レバ、

支那兵ノ平壤デヤツタヤウナコトヲシテ、土塀ナドヲ築イテオル。其中デ冬籠リヲシテ守ルト云フヤウナコトヲシテオル。ソコデ一方ニ兵ガ居タカラト云フテモ、之レハ其用ニ立たヌ。譬ヘバ東學黨ガ一千人計リアルニ逢ヘバ、官軍ノ七、八百モアレバ逃ゲテシマウノデアアルニ、却ツテ恐怖シテ進マヌカラ、止ムヲ得ズ日本兵ガ十人モ行テ討テバ、夫レガ爲ニ逃ゲテシマウト云フヤウナ、先ヅ地方ノ狀況ハ大略コンナ有様ダ。ソウシテ見レバ此京城ノ政府カラ出タ處ノ兵ガ行ケバ、地方ノ人民ハ東學黨ニ苦シメラレタ上ニ財ヲ掠メラレ、即チ二度ノ東學黨ニ逢フヤウナコトデアアルカラ、畢竟之レヲ嫌ガルト云フノデアアル。

金總理大臣 竹山府使ノ舉動ニ就テハ甚ダ奇恠デアリマスカラ、先達外務衙門ニ照會ガアルト同時ニ、今ノ巡撫使ノ方ヘ申遣ハシ、大ニ不満足ト思フカラ、早速進ンデ東學黨ヲ征討セヨト申付マシタ。夫レカラ東學黨ナルモノハ一ノ宗教カラ起ツタモノモアリ、又ハ地方官ノ日ニ民財ヲ收斂スルト云フ處カラ、地方人民ノ疾苦ヲ致シテオルコトヲ見ルニ忍ビヌト云フコトヲ口實トシテ、サウシテ地方ノ愚民ヲ聚メテ之レヲ己レニ附ケテ仕事ヲシヨウト云フ模様デアリマス。併シ昨今ニ至テハ寧ロ強盜ナドヲ逞ウシテ、無暗ニ人ノ物ヲ取ルト云フ様ナコトガアリマス。猶ホ甚シキニ至ツテハ、忠清道ニ於



テハ地方官ヲ殺シタモノモアリマス。其中ニハ最モ信ジテ居タ官隸ガ東學黨デアツテ、其ノモノガ地方官ヲ害ツタコトモアリ、東學黨ノ同類ガ幾多アルカト云フコトハ量ラレマセヌ。隨分今ハ地方ニ澤山アルヤウデアリマス。ソコデ私ノ方ノ兵隊ヲ出シテ見タ所ガ、畢竟規律ガ正シクナイト云フコトハ、中央政府ノ責デハアリマスガ、何分指揮官ナル士官ガ充分デナクシテ、軍規ヲ正シテ兵ヲ纏メテ行クコトガ出來ヌ。夫レ故今地方ニアル租稅米ヲ以テ軍糧ニ充テタレバ、ソレニテ何モ地方人民ヲ苦シメルコトハナイ筈ナレドモ、畢竟地方ノ良民ニ迷惑サセルコトヲ免カレヌハ如何ニモ恥カシイコトデアル。此頃貴國ノ兵隊ガ三十人計リ東學黨ト戰フテ大ニ効ヲ奏シタトイフコトヲ聞イテ、私等モ貴國ノ兵ガ熱心ニ盡力シテ呉レタコトニ就テ大ニ難有感ジテ居リマス。又昨日得タル槐山郡守李容奭（都憲李泰容ノ兄弟ナリ）ノ報ニ據レバ、貴國ノ兵凡ソ二十一人槐山ニ來テ居リシニ、東學黨四千人群集シテ之レヲ圍ミ、大ニ戰ツテ貴國ノ兵一人即死シ、二人傷ヲ受ケタレドモ、到底敵ノ多數ニ勝ツコト能ハザルヲ見テ、郡守ノ印璽ヲ保護シツ、我が五十里程ノ地ニテ郡守ヲ連レ來リ、之レヲ保護シ呉レタリトノ由ナリ。若シ此ガ朝鮮兵デアツタナラバ、槐山郡守モ殺サレ、印璽モ彼等ニ奪ハレタコトナラント思フ。併シナガラ貴國兵ノ勇氣アルハ自分ノ傷ヲ受ケタルニモ拘ハ

テズ、郡守ヲ困難ノ中ヨリ救ヒ呉レタルハ實ニ感佩ノ外ナシ、此事ニ就キ今日御禮ヲ申ス譯デアリマス。

## 井上

今度外務大臣ヨリモ段々御手紙ノ掛合モアリ、仁川ノ兵站監部ノ方へ命令ヲ下シテ兵士ヲ遣リモシマセウトシタ所デ、此間カラ統衛兵五百人、江華兵百人合せて六百人ノ兵ヲ出スト云フ掛合デアツテ、日本カラモ兵ヲ出シテクレト云フ話ガアツタ。ソコデ私ハ外務衙門ニ掛合ヒ、李竣鎔サンノ率キテオル兵ハ無用デアル、出兵セザル方然ルベシト答ヘタ。ソコデ遂ニ教導中隊二百人、江華兵百人、統衛兵二百人出ルコトニナツタ。一昨々晩此處へ三中隊ノ守備兵ガ着イタカラ、私ハ直グ士官ヲ招イデ又モ東學黨ガ斯克／＼ノコトデ、當政府カラ依頼モアルニ付テハ、日本ノ士官佐伯大尉ガ訓練シテオル教導隊二百ガアル、之レヲ出スベシト命ジタ。然ルニ其兵ハ訓練ハシタケレドモ、奈何セン未ダ陣頭ニ立テ充分働キヲ爲スヤ否ヤ、又夫レニ附隨シテアル士官ガ未ダ日本ノ士官ノ如ク總テノ訓練ヲシタモノデハナイ、技術ハ覺エタロウガ逆モ指揮監督ト云フコトハ不充分デアル。故ニ新着ノ士官ノ中カラ教導中隊二百ヲ指揮監督シテ、士官及ビ兵士モ適當ト思フ丈連レ行キ、此兵ヲ指揮セヨ、夫レハ當政府へモ掛合フベシト云フテ、直ニ申付タトコロ、士官ハ今晚カラデモ立チマセウト答ヘタ。其翌



日多分教導中隊が出ルデアロウト思フテ、翌日再ビ士官ヲ招イテ通辯並ニ巡查モ隨行セシメ、又教導中隊長李振鎬其人モ招キ、各士官ト引合セタ上、右中隊長ハ未熟ナ兵デアルカラ、此二人ノ士官ニ從テ始終運動シナケレバナラス。進メト云ハルレバ進ミ、止マレト云ヘバ止マラナケレバナラス。且ツ又此間訓練ヲ受ケタコトナレバ、此度實際ニ就キ訓練ヲ成シ得ベシ、今マデ朝鮮ノ兵ト云ヘバ、敵ヲ見レバグ逃ル、散亂スルト云フモ、此ノ日本ノ武官ノ下ニ訓練ヲ受ケタモノデ、ソウ云フモノガアレバ愈ヨ朝鮮ノ兵ハ人足同様役ニ立タヌモノデアアル。人ハ此ノ名譽ト云フモノガナケレバナラス。又國王ニ忠ナル志ヲ持タナケレバナラス。國ヲ愛スルト云フ精神モ持タナケレバナラス。夫レニ就テハ都テ我が士官ノ命令ヲ守ラナケレバナラス。猶ホ又日本兵ノ規律節制ノ中ニハ若シモ逃グルト云フヤウナコトガアレバ、其者ヲ直グニ切ルカモ知レヌ。此レガ兵ノ規律ヲ正スノデアアル。夫レヲ能ク心得ナケレバナラスゾト云フコトヲ日本士官二人及ビ李振鎬ヲモ置イテ言ヒ聞カセタ。夫レハ能ク心得マシタ。夫レデハ多分私ノ政府カラモ其ノ命令ガ下リマセウ。又私ハ今日マデ訓練ヲ受ケタノデアアル、何處マデモ盡シテ一身ヲ抛ツハ當然デアアル。命令ヲ受ケマスルト云フコトデアツタ。夫レデ翌朝カラ出發スルト云フコトデ、此ノ前ノ和城ニ教導兵二百人ヲ皆ナ集メテ戰場ニ

向ヒ、戰鬪線ニ立テバ即チ斯クノモノデアアルト云フコトヲ説キ聞カセ、私モ其處ニ蒞ンダ。夫レカラ兵ガ南大門ニ出ルト云フコトデアアルカラ、出ルニ付テモ又ドウ云フコトヲスルカ、色々軍規モアルカラ行ツテ見タラ宜カロウト云ツテ、又士官ヲ南大門外マデ遣ハシタトコロ、丁度日本ノ兵ノ様ニ番兵其他ノコトモ致シ居ルト云フコトデアツタ。所デ給與兵糧ハドウデアアルカト云フニ、給料ハ三月分末拂、兵糧ハ十日分シカ受取ラヌト云フ。只ダ十日分ニテハ途中ノ喰前ニモ不足ナル故、外務衙門ニ掛合ヒ、夫レデ昨日マデニ食料ヲ整ヘテ出スト云フコトデアツタ。又今朝日本ノ士官ノ方カラ未ダ全備セズ、愈ヨ出立スルハ何時デアアルカ分ラヌトノ報道ガアツタカラ、書記官ヲ巡撫使ニ遣ハシ催促ヲシテ來タノデアアル。所デ昨日カラ此ノ東學黨ハ剿滅シナケレバナラスト云フ御考ヘノ様デアリマスガ、貴政府ハ眞ニ此ノ東學黨ヲ國ノ害物デアアルカラ何處マデモ剿滅セネバナラスト云フ眞誠ノ御決心デアアルカドウカラ第一ニオ聞キ申シタイ。

金總理大臣 御言葉マデモナク、無論此レハ討滅シナケレバナラスノデアリマス。今カラ二、三ヶ月前ニ充分ニ手ヲ下シタナラバ、斯ク猖獗ヲ極ムルコトハナカツタ。併シ今日此ノ場合ニ至ツテ閣下ニマデ御心配ヲ掛ケタルハ、何ントモ面皮ノナイ話デアアル。聞ク



所ニヨレバ忠清道ノ木川、天安ノ如キハ最モ猖獗ヲ極メテオル、若シ此儘ニ差シ置クナラバ、或ハ京城ニマデ押シテ來ルカモ知レヌ。今京城ノ人民モ頼ミ切ツテ居ルノハ貴國ノ兵士ガ三中隊居ルカラ、未ダ枕ヲ高ウシテ寢ルコトガ出來ル。若シサウデナクハ人民ハ競々タル有様デアラウ。實ニ之レヲ以テモ我が國情此極點マデニ至ルコトハ實ニ御恥カシイコトデアアル。ソコデ私が閣下ニ向テ廉恥ヲ顧ミズ御願ヒスル以上ハ、何ウシテモ此期ニ平ラゲテシマハネバナラス。

魚大藏大臣 實ニ之レハ馬鹿ナコトデアツタ。寧ロ東學黨ヲ養成シタトシカ見ラレナイノデアリマス。夫レハ私ガ久シク田舎ニ行ツテ居ルト、私ヲ呼ビニ來ラレマシタカラ歸ツテ來タ。處ガ何事カト思ヘバ忠清道ノ方ニ東學黨ガ起テ大分多イカラ、貴様が行ツテ説諭シテ解散セシメヨト云フコトデ、夫レハ昨年ノ暮デ、此時ハ解散サセマシタ。所ガ今年ノ春ニナツテ全羅道ノ古阜ニ又亂民ガ起ツタ。其ノ民亂タルヤ地方官ノ苛政ニ反對シタノデアアル。所ガ地方官ハ夫レヲ以テ何ト云ツタカト云フニ、己ノ非ヲ覆ハンガ爲ニ言ヲ構ヘタノデアアル。所デ全羅監司ガ之レヲ討滅ニ掛ツタガ効ヲ奏セヌ。ソコデ京城ニ於テ政府ノ兵ヲ出スト云フコトニナツテ、此ノ朝鮮兵ヲ向ケタ。處ガ此隊ニ付テハ隨分地方民ヲ苦シメル様ナコトヲ爲シマシタ。ソレデ却テ反抗ヲ爲シ、怨ミヲ買

フコトニナツテ、段々其徒ガ殖ヘテ支那ノ兵ヲ借ルト云フコトニナリ、支那兵ガ來ルニ就イテ日本兵モ來ルト云フコトニナリマシタ。ソコデ朝鮮ノ人ハ、ソラ大變ガ起ツタ、此ノ東學黨ハ一時起ツタガ早ヤ治ツタ。何トモナイト言ヒ觸ラシテ支那兵モ早ク返サナケレバナラス。日本兵モ返サナケレバナラスト云フ處カラ、倍々元トヲ固クシテシマツテ、今日ノ場合ニナツタノデアアル。原因ヲ尋ネテ見レバ丁度養ツタ様ナモノデアアル。

井上 夫レハ如何ニモ事實ノ話ト思ヒマス。所デ今總理大臣ハ熱心ニ此ノ東學黨ヲ剿滅シナケレバナラスト云フコトデアアルガ、外務大臣ハドウデアリマス歟。

金外務大臣 此ノ東學黨ガ起ツタ爲ニ、國庫ニ租稅ト云フモノガ一ツモ上リマセヌ。穀モ錢モナイ、來年ハドウシテ政治ヲヤツテ行クカ其ノ見込ガナイ。各地方ニハ人民塗炭ノ苦シミヲ爲シテ居ルノデアアル。

魚大藏大臣 今年六月ノコトデアリマシタ。宣撫使ト云フモノヲ出シテ（東學黨ニ説諭ヲスル役人）夫レハ只ダ何か書付ヲ持ツテ廻ツタ、何ンデアノ位盛ナルモノガ、只ダ宣撫使ヲボンヤリ出シタカラト云フテ治マルベキ筈ガナイ。トウ／＼此レガ爲ニ四十日ヲ費ヤシタ、所ガ寸効モ無ク、倍々東學黨ハ盛ンニナツテ來ルト云フコトニナツタノデ



アル。今日斯ウ云フ場合ニナツテ來ルト云フモノハ、自カラ斯ク云フコトニ至ラシメ  
 タノデアアルカラ、一方ニ兵力ヲ持チ、一方ニ言葉ヲ以テ鎮撫シタナラバ宜カラウト思  
 フ。ソコデ今日ノ東學黨ハ曰ク、日本兵ガ來テ大變荒ラスト云フカラシテ、之レヲ打  
 拂ハナケレバナラヌト云ヒ、又或者ハ外國人ト云フモノハ此國ノ害ニナルカラ、此國  
 ノ外ニ追ヒ拂ラハナケレバナラヌト云フ分子ガアル。併シ百人東學黨ガアルトテ、其  
 レガ皆ナ東學黨デアアルカト云フニサウデハナイ。中ニハ雷同シタルモノガ多イト云フ  
 コトハ、私モ曾テ宣撫使ナドニ行ツテ能ク知ツテ居リマス。畢竟此根本ヲ絶ツト云フ  
 コトガ必要デアリマスカラ、此ノ巨魁ヲ斃スコトニカラ用ヒネバナリマセヌ。

井上 能ク分リマシタ。マダ疑ヒガ一ツアル。大君主ハ之レヲ剿滅セシメンケレバナラヌト  
 云フ主意乎。

金總理大臣 イヤ無論大君主モ我が蒼生ヲシテ安堵サセナケレバナラヌト云フ深キ思召デア  
 ル。ト云フコトハ自分ニ詔勅ヲ下サツタノデアアルカラ、早く剿滅シナケレバナラヌノデア  
 ル。

井上 其ノ詔勅ハ只ダ靜マレト云フコトノミデアアル歟、斯ウ云フ叛亂ヲシタ已上ハ兵ヲ出シ  
 テ討ツト云フコトデアアルカ。

金總理大臣 大君主ハサウ云フ御思召デアリマシタ。大院君ハ私が最初討タナケレバイカヌト  
 云ツタ時分ニ、是レモ一ツノ朝鮮ノ人民デアアル、夫レヲ殺スト云フコトハ忍ビヌ、  
 酷ナコトデアアル、ドウカ之レヲシテ歸順サセル方ガアルナラバ、其方ヲ執ル方ガ宜シ  
 イ、先ヅ此ノ場合ハ自分ノ言葉ヲ聽イテ勅諭文ヲ下スカラ、夫レヲ持ツテ行ツテ見ロ  
 ト言ハレタノデアアル。所ガ中々効果ガナイ。今日ハ已ニ監司ヲモ殺スト云フコトニナ  
 ツテ、最早全ク順逆明ラカナモノデアアル。サレバ大ニ悟リヲ開カレテ今日ハ早ヤ既ニ  
 討タナケレバナラヌト云フコトデアアル。

井上 大君主ノ下サレタル詔勅ノ意味如何。

金總理大臣 其ノ勅諭ト云フモノハ、此際國王ノ詔勅デアルト云フテ、或ハ日本兵ヲ追ヒ拂ヘ  
 トカ、ソレカラ開化主義ノ者ヲ拂ヘトカ、殺セトカ云フコトヲ地方ニ言ヒ觸ラシテ歩  
 クモノハ、ソレヲ早く捕獲セヨト言フ詔勅ヲ下サレタノデアアル。

井上 所デ今日大院君モ良民ヲ苦シメルモノハ干戈ヲ以テ討滅スルヨリ外ハナイト云ハル、  
 ノデアリマシヨウ歟。

金總理大臣 サウデアリマス。

井上 所ガ私が謁見シタ翌日、大院君モ此處へ來訪セラレタ。其時私ハ貴國政府ノ改良ヲ討



ツテ、獨立ノ基礎ヲ鞏固ナラシムルヨリ外ハナイ、我  
天皇陛下ノ 聖意ハソレデアアル。我が政府ノ意モ同様ト云フコトヲ言フタ處ガ、天  
皇陛下ノ 聖意ト云フコトハ聽クモ恐レ多イト云フコトヲ云ツテ見タリ、ソレカラ段  
段話ヲシタ末ニ、兎ニ角私が今度來韓ニ付アハ、何處マデモ御相談ヲシテ改良ヲセネ  
バナラヌト云フコトノ話モ出タ。スルトマア今日ハ大變ニ疲レタ、御前カラ大變ニ叱  
ラレタト云フ様ナコトヲ云フ。成程御老體ノコトデアアルカラ、他日ニ讓ツテモ宜シイ  
ガ、今日マデ日本ノ爲シ來ツタ處ヲ説カナケレバナラヌ。日本ハ斯クノノ主意、斯  
クノノ事ヲ勸告スル積リト其談ニ赴クト、ドウモ私ノ言フコトハ聞クマイト避クル  
意ガアル。ソレカラシテ、マア兎モ角今日能ク閣下ト御話モシマシヨウ、私ノ意モ  
能ク御話ヲシテ又閣下ノ意モ能ク聽キマシヨウ、其ノ次ギニハ各大臣ニモ一人々々ニ  
話ヲスルト云フコトデハ、或ハ疑ヒノ生ズル憂ヒモアル、就テハ各大臣同席ニ於テ閣  
下モ出席シテ下サイト云フコトヲ話シタ。處が大院君ガソレハドウモ國法ガ許サレヌ  
ト言ハレタ。併シ國法ガ許サヌト謂ハル、ガ、過日私ガ大君主ニ謁見シタコトハ只ダ  
當リマヘノ公使ノ資格デハナイ、種々内政改良ニ關スル意見ヲ申シ上ゲタ、若シ此國  
ノ内政ニ關シタコトデ大臣ガ列席スルコトナラヌト云フナラバ、其席ニハ外務大臣、

宮内大臣モ居ラレタ。シテ見レバ閣下ガ諸大臣列席ノトコロヘ出ラレヌ筈ハナイト云  
ツタトコロガ、謁見トハ違フト言ハレタ。ソレデソシナラ互ニ協議スル便宜ヲ開クト  
云フコトハ御好ミナサラヌカ、ソレヲ國法ト謂ハル、ナラ、一ツ閣下ニ尋ネタイコト  
ガアル、東學黨ト云フモノガ各地ニ蜂起シ、之レヲ貴國政府ハ鎮壓スルコトガデキズ  
シテ日本ヘ依頼ヲシテ、日本ノ兵ヲ派遣シテ鎮壓シテクレロト云フコトデアアル。之レ  
モ貴國ノ法デアリマス歟ト問フタ。ソウスルト日本兵ノ派遣ノコトハ予ノ意ニアラズ、  
各大臣ノ意ニ出タノデアアル、大臣ガ申シタルユエ自分ハ只ダ首肯シタルノミト云ハレ  
タ。然ラバ閣下ハ政治上ノ責任ヲ以テ之レヲ許サレタノデハナイカ、ソレニ閣下ガ之  
レヲ知ラヌト自分ノ意デナイト云フハドウ云フ譯デアルト押シ詰メレバ、サキニ願ヒ  
オキタル二個ノ意見、一ツハ内政上ノコト、一ツハ朴泳孝ノコト、自分見込ムコトア  
リ云々ト言テ以テ他ヲ云フ。

魚大藏大臣 例ヘバ身體ニ腫物ガ出來ル(即チ皮膚ニ)、ソレデ此レヲ療治シナケレバナラヌ、  
併シナガラ此レガ段々腐敗シテ肉ニ至レバ其ノ肉ヲ切り取りテ、新タニ肉ヲ擧グルト  
云フ手段ヲ執ラナケレバナラヌ。若シ躊躇シテ姑息セバ病毒ガ全身ニ及ビ、一命ヲ危  
ウスルニ至ルデアラウ。即チ東徒ノ如キモ初メニハ平定シ易イノデアアルケレドモ、既



ニ此ノ如クナツタ已上ハ、ドウシテモ此處デ一ツ打斃スト云フコトヲナサネバナリマセヌ。

金總理大臣 纒カノ百姓ノ爲ニ大ナル民ヲ損スルト云フコトニナル、故ニ其害ノ甚シカラザル前ニ防ガンケレバナラス、ドウシテモ今日猶豫シテハオケヌカラ、公使モ御盡力ヲ願フ。

井上 貴公方ノ意旨ハ分明シタガ、先ヅ大院君ハドウイフ地位デアリ、ドウ云フ人デアアル歟、大君主ノ國父、又年ハ隨分長年デアリ、長イ間支那ト云フ國ヲ世界最上無比ノモノト心得テ、支那ノスルコトハ一モナク二モナク附從スベキ心得デオル人デアツテ、今日ニ至ルモ支那ニ屬隸シ居ラバ、東學黨モ起ラヌト云フ考ヘカラ、日本兵ニ依頼シテ東學黨ヲ剿滅スルハ不利デアルト云フ考ヘヲ持ツテオルノデハナイカ、是レハ私ノ推測スル處デアルガ、此ノ推測ハ外レナイデハナイカト思フ。

金總理大臣 ドウモ夫レニ付テハ何トモ御答ヘガ出來兼ル。ト云フモノハ、大院君ハ一モ二モナク支那ノ方デアラウト云フコトハ左様ト申兼ネル。只ダ我々ノ考ヘハ此ノ朝鮮ヲシテ必ラズ善キ方ニ向ハシメヨウ、即チ國家ヲシテ旺盛ニシヤウト云フ考ヘヲ持ツテオラレネバナラス、又位地ニアル人デアリマス。

井上 外務大臣ナドハ、ドウ云フ考ヘナルヤ。

金外務大臣 如何ニモ支那主義デ、支那ヲ慕フ人デアアル。何モカモ支那通りニヤツテ貰ヒタヒト云フ人デアアル。併シナガラ今日ソソナコトヲヤラレテハ堪ラス。

金總理大臣 モウ八十近キ老人デアアルカラ如何ニモ古昔ノ考ヘガ多イ。併シ自分ニ力ガアツタラ支那ニ從ツテヤルト云フコトモアラウガ、儲テ力ガナイ以上ハ逆モ出來ナイノデア

井上 併シナガラ諸君ガ言ハル、ガ、大院君ハ第一勢力ガ強イ、今此金宏集サンヲシテ總理大臣ニシテアツテモ、大院君ハ嫌ヒナラ直グ退ケル、又魚允中サンヲ憎イト思ヘバ直グ退ケル、又意ヲ違フ歟、隱險秘密ヲ許クト思ヘバ直グ捕ヘテシマウ、或ハ政府カラ鎮撫ノ命ヲ受ケテ出張シテ居ル人ニ、此人ガ鎮撫ハセシメズ、東學黨ヲ教唆セシムル内命ヲ與ヘタリ、又甚ダシキハ人ヲ殺スコトハ狗ヲ殺スカ大根ヲ切ルヤウニ思ツテオ

ル處ノ勢力ノ一番強イ人デアリマスゾ。

金總理大臣 地位ノ高貴ナ御方デアリマスカラ、今カラ二十年前ニハ彼ノ人が政治ヲ行ツテ隨分慘酷ナコトモアリマシタ、併シナガラ今日ハ前ノ様ナ考ヘデ不可ナルハ彼ノ人モ曉ツテオラル、ノデアリマス。



井上

ドウシテモ當政府ガ日本カラ顧問ヲ雇フト云フ話モアルナレドモ、全體大院君ハ日本ノ力ニ依ツテ政事上ノ改良等ハ氣ニ入ル筈ハナイ、却テ日本ハ大院君ニ忌マル、方デアル、一モ二モナク支那ヲ崇拜シテ支那ノ通リスレバ國家泰平無事ト云フコトヲ思フテ居ラル、ト云フコトハ證據ガアルカラ夫レヲ後デ御話シ致ス。

金總理大臣

其證據ノコトニ就テハ、公使ノ御考ヘヲ以テ彼ノ人ハ老耗シテアルコトデ、ソウシテ勢ヒ茲ニ至ツタコトデアリマスカラシテ、餘リ深ク御咎メニナラズシテ、寧ロ彼ノ人ガ意ヲ翻ヘスト云フ方ニ爲シ下サルコトガ今日ノ急務デアラウト思フ。何トナレバ彼ノ人ハ一旦意ヲ翻ヘセバ、實ニ今日マデノ形勢ガ分ラヌデアリマスカラ、此處デ、ドウアツテモ國ヲ開カナケレバナラヌト云フコトガ明ラカニナツテ來ルコト、思フ。

魚大藏大臣

私ハ曾テ大院君ニ向テ、私ハ本ト勤メガ欲シクテヤツテアルノデハナイ、私等ハ國家ノ皮膚デアアル、國家ハ骨肉デアアルト思ツテヤラナケレバナラヌノデ、勝手ナコトバカリヤツテハイケナイノデアアル。私ガ嫌ヒデ退ケラレテモ宜シイ、國家ノ皮膚ト同一ニ思ツテ私共ノコトハ聽カナケレバナラヌト云ヒマシタ。

井上

御話ヲ伺ヘバ大院君ハ古イ學問バカリシテラツテ老耗シテアルト云ハル、ガ、老耗シ

タ者ガ勝手ニ威ヲ振フ故ニ政治ガ紊ル、ノデアアル。又私ガ將來勸告シテ貴公方ガ政治ヲ執ラル、ト、貴公方モ之レハ倭黨ト云フ迷惑ヲ受ケルダラウ。又其外ノ人モ舊政ヲ革メテ中央政府ヲ改良セネバナラヌト云フ人ハ悉ク倭黨トナル、倭黨デアラウガ、亞米利加黨デアラウガ、英國黨デアラウガ、夫レハ私ハ構ハヌ、只ダ私ハ朝鮮政府ノ鞏固ニナルト云フコトデアレバ宜シイガ、夫レニハドウシテモ其職務權限ヲ立テ、他カラ勝手ナ命令ヲ下サズ、假令君主ト雖モ我意ノ儘勝手ナ命令ヲ下スニ於テハ、其君主ハ暴君デアルカラ、矧ンヤ大院君ハ老耗シテ命令ヲ下スナレバ、其妨害トナリ職務ヲ正直ニ盡ス能ハズ、故ニ安馴壽、金嘉鎮ハ漸々身命ガ危クナルニ付、當職ヲ辭シテ地方官ヲ求ムト云フコトニナツテ、赤心國ニ盡スコト能ハザラシメ、却テ先ヅ驚怖ノ心起ラザルヲ得ズト云フ有様デアアル（此間國王、大院君、李載冕、平壤支那將官ニ傳意セヨト云フテ平壤監司ニ送レル書面ヲ示ス）、之レハ平壤ヲ略セシトキ得タノデアアル、本書ハ東京ヘ送ツタト云フコトデ、寫シヲ山縣大將カラ送ツテ來タケレドモ、寫シデハ効力ガ薄イ故、更ニ電報ヲ打ツテ此ニ本書ヲ取り寄セタノデアアル。即チ何處マデモ支那ニ頼ルト云フコトハ之レニ據ツテ證據立テラレル。サア大院君ハ老耗シテラツテ時々斯ウ云フコトガアルデアアリマセヌ歟、（此ノ時驚愕ヲ極メタリ）。



金總理大臣 夫レハ彼ノ時分ハ大院君モサウ云フ考ヘデアツタカモ知ラン、併シ今日ノ處デハサウ云フ心デハナイト思ヒマス。何卒此内一通ヲ私ニ下サイマセ。(一通ノ國王ノ書面ヲ取ル)

井上 夫レハ大本營ニ出シタ書面デアル故呈上スルコトハ斷リ申ス。尤モ是レヲ以テ日本政府ガ朝鮮政府ニ難問ヲシヤウトハ思ハヌケレドモ、貴公方モ隨分困難ノ地位デアル、先刻カラ云フ通り、又金宏集サンノ答ヘタ通り、隨分老耗シテアル人ガアル、貴公方ノ爲スコトモ始終妨ダラル、ト云フコトハ知ツテアルカラ、何トカ是レヲ助クル方法ヲ取ラナケレバナラヌト思フノデアル。

金總理大臣 猶ホ又公使モ大院君ニ御逢ヒニナリマシタラ、分ル様ニ説イテ御話ヲ願フ。今日ハ大ニ彼ノ人ノ意ニ悖ツテ仕事ヲヤツテ行クノデアルカラ、追々公使ノ御盡力ニ依リ悟リヲ開ク様ニナルダラウト思フ。

井上 モウ一ツアル、李煥鎔サンハ隨分惡才子ジャ。過日來訪ノ日、此方ヨリ問ハザルニ、色々ナ話ヲ私ニシタガ、其中ニハ、イヤ支那兵ニ私ノ一家カラ通信ヲスル、又何カ東學黨ニ通信ヲシテアルナド、言ヒ觸ラシ、離間策ヲナスモノ多シ、公使ハ之レヲ信ゼラレヌ様トカ、只ダ此處デハ一致協和シテ國ノ安寧ヲ計ラナケレバナラヌト歎、切ニ

言ヲ勤メラレタリ、其ノ李煥鎔ニ付種々調べテ見レバ、大院君ノ命デアルカ否ヤハ分ラヌガ、李煥鎔サンハ此ノ東學黨ヲ教唆シテアルト云フコト、其ノ發露ヲ妨止セント企テタリ、先ヅ斯ノ如キ内部ノ有様ニテハ如何ニ日本政府ガ誠意ヲ以テ勸告スルモ其効ヲ見ル能ハズ、私モ從テ駐在スル必要ハナイ。

金總理大臣 李煥鎔ト云フ人ハ、前カラ御話シスル通り、見聞モ狹ク、年モ若シ、或ハ間違カラシテ東學黨ト往復シタヤウナコトガアルカモ知レヌ。併シナガラ又彼ヲ傷ケントシテ其手紙ヲ偽造シタモノガアルカモ知レヌガ、併シナガラ大院君ガ實ヲ知テヤラセタト云フコトニ就テハ無カラウト考ヘル。大院君自身ガサウ云フコトヲ爲セバ、實ニ國家ノ存亡ニ關スルト云フコトハ知ツテヲラル、シテ又國家ト存亡ヲ共ニスル御方デアルカラシテ、ドウシテモ彼ノ人ノ考ヘカラシテ東學黨ヲ引込ンデヤルト云フコトハナイト考ヘル。併シ彼ノ人ハ古イ考ヘデアツテ、支那ヲ崇拜スルト云フコトハ、ソレハ蓋シアツタト考ヘマス。此上ハ大院君ニ充分考ヘヲ翻ヘシ、改革シナケレバナラヌト云フコトヲ悟ラスヤウニシテモライタイ。又彼ノ人モ既ニサウ云フコトヲ悟リシ以上ハ、段々進メテ行クト云フ方ニ向ハレルダラウト思フ。

井上 大院君ハ既ニ七十五年ノ高齡ニシテ、古イ考ヘヲ以テ人ヲ殺スト云フ様ナコトハ、恰



カモ大根デモ切ル様ニ思フテアルノデアアル。ソコデ大院君ハ現ニ云ツテアル、東學黨モ同ジ民デアアル、之レヲ殺スハ容易デハナイト云ツテ、段々原因ヲ調べテ見レバ、此レニ關係ガアル、鄭允徳ト云フモノガアル、鄭允徳ト云フモノハ隠レテ知レヌ様ニシテ其ノ通信書ヲ領收シタレバ、其ノ證據モアリ、丁度魚允中サンガ言フ如キ煽動ガマシキコトヲシタ人デアアル。私ハモウソレモ見抜イテアルカラ、李竣鎔サンノ管轄シテアル兵ヲ出シテモ役ニ立タヌト云フコトハ即チソノ意デアアル。

金總理大臣 ソレハ如何ナルモノデアラウカ、私共ニハ十分ニ分リ兼ネル。併シ彼ノ人ガ幾許ノ才子デハアリマセウ、ケレドモ何分年モ若シ、見聞モ狭イカラ、能ク事ヲ考ヘナイデヤツタカモ知レヌ。中ニハ皆ア一々サウデアルト云フコトハ出來ナイノデアアル。又書翰ノ如キモノガアルトシテモ、隨分人ヲ傷ケルト云フ考ヘノ人ガアレバ、偽書ナドモ行ハル、場合モアルカラ、茲ニ於テサヨウデゴザリマセウト云フコトハ云ハレヌ。ソレハ充分證據ガアル。元來此ノ東學黨ナルモノヨリシテ終ニ支那ト日本ハ戰爭ヲ始メタノデアツテ、其戰爭ニ關スル通信ニ必要ナル軍用電信ヲ屢々妨害斷絶セラレ、又兵站部ヲ襲撃シ、日本ノ罪モナイ人足、或ハ商人ナドモ東學黨ノ爲ニハ數十人殺サレタ。故ニ尋常ノ刑事ト大ニ異ナル罪人デアアルカラ、領事ヲ立合セテ取調ヲ命ジタ。通

## 井上

信ノ本書ハ今領事ガ持ツテアルカラ御目ニ掛ケルコトハ出來ナイガ、又過日李秉輝ナル者ヲ調べテ見ルト、業ニ已ニ大院君ノ方カラ裏面ニ手ヲ廻シ、ソレガ知レルト大變ダカラ決シテ云フナ、云フト命ヲ取ル、言ハナケレバ罪ヲ免ジテ役人ニシテヤルト内命ヲ傳へ、且ツ種々ナル手段ヲ以テ居ラル、ノモ發露ヲ防グノ證據デアアル。サウ云フ様ナ人ハイクラ打破シヨウトシテモ中々六ヶ敷コトデアラウト思フ。尤モ斯ノ如キ老翁ヲ一度私ガ説破シ謝罪セシムルモ、其暴威ハ再ビ出テ來ルデアラウ。又今一ツ大院君ノ出ヌ前ハドウデアツタカト云フコトヲ人ニモ就イテ聞イテ見タガ、丁度大院君ト同様、或ハモット惡ルカツタカモ知ラヌ。閔氏ガ世道トシテ國政ヲ執リ、人ヲ殺シ金ヲ掠ルト云フ如キ非政ヲ行ヒ、大院君ハ其レト伯仲スル人デアアル。又其ノ大院君ヲシテ政治上ニ容喙セラル、ナレバ、整理改良ハ無用ノ事ダ、且ツ大君主ニ謁見シタ處ノ模様ヲ見ルト、王妃ガ障子ヲ隔テ、影カラ彼レ此レト國王ニ言葉ヲ添ヘラル、聲ガ皆聽ヘル、就イテ考フレバ王妃モ中々才物デアラウ。元ト閔氏ノ勢力、即チ王妃ノ勢力ニ依テ強カツタノデアアルガ、今其ノ權力ヲ大院君ノ暴威ヲ以テ押ヘタルハ、恰モ大院君ト云フ毒ヲ以テ以前ノ毒ヲ押ヘタリト云フニ過ギヌ。

又孫ノ李竣鎔ト云フ人ハ小才子ニシテ、前後熟慮深思ガナイ。世子モ何ンダカ善惡差



別ノ付ク歟、甚ダ無思東ノ貴公方デアラウ。臣下ノ身トシテ餘程前途困難ノ場合デアラウト思フ。本使モ亦着手ノ仕方ガ無イ、止ムヲ得ズ貴公方ヲ責メナケレバナラス。一方ニハ井上ガ來テカラ八釜敷キコト許リ言ハレテ困ルト云フ考ヘモ起ルダラウト思フ。實ニ私モ甚ダ困難デアアル。迎モ六ヶ月或ハ一年駐在シタ處ガ此ノ始末ハ着カヌト思フ。

右ノ人々ガ政治ニ關係セヌヤウナコトガ出來ルヤ否ヤ、出來ヌト云フナラバ、日本デハ最早貴國ヲ打棄テ、或ハ恰モ今日支那ニ向フ様ナコトヲ行ハネバナラス不幸ヲ顯出スルヤモ計ラレス。

金總理大臣 一々御尤モデアリマス。私ガ臣下ノ分トシテ憚カルコトモアリマスガ、外ノ國カラ我國ニ斯克マデ御盡シ下サルニ、此國ノ爲ニ充分盡サナケレバナラスノハ當然デアアル。今マデトテモ十分力ヲ入レタナラバ、今少シク發達シテ行ツタノデアリマセウガ、如何セン實ニ吾々が充分力ヲ伸スコトガ出來ナカツタ。併シ是レハ自分等ノ責デアリマス。何ウシテモ今此場合ニナツテ、貴國ガ今此國ヲ見捨ルト云フ様ナコトニナツテハ、實ニ大變ナコトデアアル。斯克マデ御話スルノハ恥カシイコトデアリマスガ、恥ヲ忍ンデ一言致サナケレバナラス。貴國ノ力ニ因テ段々此國ノ體面ヲ維持シテ來タノデ

アルカラ、今此處デ目的ガ付カナイカラト云フテハ、則チ功ヲ一篋ニ缺クト云フ様ナモノデアアルカラ、充分ニ此處デヤツテ貫ヒ、又大院君ヘモ充分御話下サツタナラバ、正面ニ立ツテ政府ノ仕事ヲ爲スト云フコトハ無クナルコトニ及ブト思フカラ、ドウカ十分ニ願ヒ度イ。

其レカラ今上陛下ノ萬々歳ノ後、今ノ世子宮ノ御代デアリマスガ、之レハ大ニ諸事整頓基本ガ建ツタナラバ維持ガ出來ルデアリマセウ。其レモ此ノ基礎ガ立チマセヌ以上ハ、先ヅ其ノ基礎ヲ立テ倍々發達セシメテ、此國ヲ維持シテ行クコトノ出來ルヤウニ致シ度イ。

魚大藏大臣 目下重病人同様デアリマスカラ、之レヲ治療スルノ手段方法ハ貴公ノ諒察ニアツテ適當ナル藥ヲ與ヘテ貰ハナケレバナラス。

井上 藥ヲ用フルト云フコトハ餘程困難ノ業デアアル。第一大院君ダガ、成程今マデノ大院君ノ迷惑ヲ説破シタナラバ大丈夫トオツシャルガ、中々此説破ガ面倒ナコトデアアル。夫レデ大院君ニ用フベキ藥劑ハ、政治ニ餘リ關係セヌト云フ尤モ苦イ藥ヲ與ヘネバナラス。是レハ大院君ガ非常ニ苦惱シ又附隨ノ頑固黨ハ皆不快ヲ抱キ、始終亦タ不平ガ起ルト云フコトニナル。ソコデ先ヅ國王ニシテモ、王妃ニシテモ、政府ノ人々ニシテモ、



貴公方三人ハ宜シイガ、アトノ人ハ頼ミニナラス。而シテ私ハ醫者ニナラネバナラス。看病人モセネバナラス。隨分方法モアリモシヨウガ、其方法ヲ用フル手段ハ私ハ甚ダ困難ヲ感ズル。

大藏大臣魚允中 貴公ハ日本デ維新ノ元勳デアリマス。貴公ガ此處ヘ御出ニナルト云フコトハ、我々ハ寔ニ宜シイ御醫者サンヲ得タ。此ノ御醫者サンヲ得ルニ於テハ餘程宜シイ療治ガ出來ルモノト思ツテアリマス。今其藥ヲ病人ガ飲ムカ飲マヌカ、先ヅ餘リヒドイ藥ヲ用ヒズ、宜シク柔ラカナ藥ヲ用ヒテ平和ナ手段ヲヤル方ガアラウト思フ。則チ貴公ノ處方書ヲ御出シクダサルト、私ハ何モ身體ニ怖レモシナイ、惜シミモシナイ、故ニ貴公ノ藥ノ處方書ヲ以テ大院君ト其他ニモ忠告シテ用ヒシメマス。

井上 若シ私ガ朝鮮ノ臣民ヲモ、コンナ場合ニ職務ヲ盡セバ、惡人ニナリ奸物ト云フ名ヲ蒙ル。其ノ盡シタ事柄ハ國ノ爲ニナルヤラ害ニナルヤラ分ラヌカラ之レヲ避クルト云フ事ニ成ル。

又、金鶴羽ノ如キ強直ナル者ハ、皆命ヲ取ラル、ト云フコトニナル。看病人モ追々ナクナリ、其ノ術ヲ施スノ手段ニ頓着セザルヲ得ナイ。今金宏集サンノオ話ノヤウニ、大院君ヲ能ク政治上ニ容喙セシメヌト云フコトガ出來ルヤ否ヤト云フコトガ第一デア  
ルガ、是レヨリ外ニ仕方ガナイト思フガ、又裏面ニ如何ヤウナル害ガ起ルカト云フコトヲ考ヘテ見レバ、前キニ言フ通り大院君ニ附從シテ居ル頑固者杯ガ、折角介抱人ヲ入レテ事ヲ爲ス時ニ其看護人ヲ殺シテ見タリ、何カ妨害ヲ加ヘテ見タリスル様ニナル  
ダラウ。

總理大臣金宏集 大院君ト云フ人ガ愈ヨ本統ニ悟リヲ開キ斷念ヲ付ケレバ、サウデモアルマイト思フノデアリマス。

大藏大臣魚允中 何ウモ朝鮮ト云フ國ハ大變君權ノ隆ンニ行ハレタ國デアツテ、終ニ政府ハ有名無實ノ姿ニナツテ、政府ハ有テモ無クテモ宜シイト云フ有様デアアル。支那モ其通り一向政府ガ何歟分ラヌト云フ有様デアアルカラ、自然此ノ國威トカ何トカ云フコトモ構ハヌ、只々王室ニヨツテ政府ノ仕事ヲスル習慣ニナツテアル。

ソコデ貴國ハ全ク之レト違フ、則チ維新ノ時分幕府ト云フモノガ有ツタ爲ニ、王室ノ光輝ヲ失フト云フコトノ爲メ改革ガ行ナハレテ、維新ト云フコト、ナツテ、其レデ維新ノ當時ハ 皇帝陛下モ未ダ幼年ニアラセラレタガ、當時政府ノ組織頗ル完全シテ、又 皇室ノ威嚴ト云フコトモ明ラカニナツタ。私ノ國ハ是レト違ツテ何百年來此様ナル風ニ慣レ來ツタノデアアルカラ、畢竟一朝一夕ニ釐革スルコトハ困難ノコトデアアル。



井上 日本ノ維新ハ薩、長ノ武力ヲ以テ幕府ヲ破壊シテ今日ニ至ツタノデアアル。幕府モ其ノ  
権限ハ中々盛ナモノデアツタニモ係ハラズ、又全國各大名(諸侯)ト云フモノハ皆此ノ  
兵ヲ養ツテアリ、自ラ各藩ノ組織モアリ、故ニ貴國ノ有様トハ大ニ異ナル所ガアツタ。  
貴國ノ情勢ハ如何ト云フニ、世道(執權職)則チ李閔金ナドガ君權ヲ假冒シテ世道ナド  
ノ名稱ヲ用ヒ、始終一家ノ爲メ勢力ノ爭奪ノ騷動ノミヲ事トシテ居ル。又兵力ガアル  
カト云フニ其ノ兵力ハナイ。故ニ日本トハ變轉ヲ異ニスルノダ。

大藏大臣魚允中 一體我國ハ總テノコトガ、文具(裝飾的)ノコトガ多イノデアアル。

總理大臣金宏集 モウ政府ノカナド、云フモノハ何百年ト云フ昔時カラアリハシナイノデアリ  
マス。殊ニ又人物ノ如キモ達見博識ノ人ト云フモノモナク、國力ト云フモノハ全クナ  
カツタノデアアル。

井上 ソコデ何ノ國ニ於テモ臣下ノ人物ノ出ル時モアル、又出ナイ時モアル、共和政治ノ國  
ニ於テモ又サウデアアル。則チ寒暖計ノ様ニ始終善キ人物ガ出レバ國位ガ上ニ昇リ、惡  
イ人物ガ出レバ國位ガ下へ下ル、上ツタリ下ツタリスルト云フコトニナル。ソウデア  
ルカラ、此處ニ政治ノ基礎ヲ定ムルニハ、一々其法ガ立チ、事々物々之レニ照シテ行  
ヒ、又君主モ其法ニ因テ政事ヲ行フヲ好シトスル。

總理大臣金宏集 貴公ニ有益ノ御話ヲ承リマシタ、猶ホ又二、三日中ニ御話ヲ承リ度イ。

大藏大臣魚允中 病人ノコトニ就テ段々御話モ伺ヒマシタ、要スルニ只ダ此處デ處方書ヲ出シ  
テ下サルコトヲ望ミマス。今日ハ是レデオキマシテ、何ウカ藥ヲ充分ニ御研究下サツ  
テ與ヘテ貰ヒタイ。

井上 貴公方モ御疲勞デモアリマセウガ、用意シテアリマスカラ食事ヲナサレテ未ダ御話ス  
ルコトガアリマス。

(時ニ休憩ス、午後六時三十分ナリシ、午後七時二十分再開)

井上 今假リニ大院君ガ先ヅ政治上ニ喙ヲ出サスト云フ約束ガ出來テ、大君主モ只ダ篤實溫  
厚ト云フ御方ニシテ、又其ノ裏面カラ王妃ナドガ誰ヲ採用セヨ、誰ヲ退ケヨト云フコ  
トノ無イヤウニシナケレバナラス。若シ之レニ對シテ王妃ナドガ喙ヲ容ル、トスルト  
キハ、即チ大君主ノ眞意デハナイノデアアル。且ツ中央政府ノ組織權限ト云フモノヲ夫  
夫定ムルト想像シタ處デ、全羅、忠清ト云フヤウナ所カラ租稅ガ納ラズ、政府ノ費用  
ガ足ラス、一方ニハ東學黨ガ起ツテ甚ダ逞シイ有様デアアル。又平壤近傍モ租稅ガ納ラ  
メ。只ダ黃海道近傍ハ幾ラカ租稅ガ納マルカ知ラヌガ、之レモ當テニハナラヌト云フ  
モノハ、平壤ノ方ハ支那兵ガ來テ財ヲ掠メ、家ヲ燒イタ様ナ有様デアアル。山縣大將カ



テノ報告ニモ、平壤以北義州マデハ何故カ出火ガ劇シイ、燒ケテ仕方ガナイ、之レヲ搜索スル暇モナク、支那兵ノ殘徒ノスルコトカ、是レモ監司ナドニ言ツテ見ルケレドモ、何ウモ此ノ支那人ト云フコトニナルト取締ヲスルコトガ出來ヌ。何ントナレバ從來支那人ヲ崇拜シテヲツタノデアルカラ、充分ナコトガ出來ヌ。成程日本ノ兵モ多數集合シタガ、日本ノ兵ハ菜ヲ買ツテモ、牛ヲ買フテモ、其報酬ハ爲シテ迷惑ヲ掛ケテハ居ラヌ。併シナガラ支那兵ノ爲ニハ隨分難儀ヲ受ケアルト云フコトハ之レモ能ク御承知デアラウ。右ノ事體デアルカラ、彼ノ邊カラハ租稅ハ納ラヌ、スルト本年ノ收入ハ殆ンド皆無ナラント想像スル。

收入ナクシテ支出ハ出來ヌノミカ、平年ニ異ナリ東學黨ヲ討滅ノコトモアリ、兵ヲ出ス、又此兵ニモ給料モ糧食モ充分給與セネバナラヌ、又冬ニナレバ防寒ノ具ニ「テン」モ拵ヘテヤラナケレバナラヌ、其費用モ隨分夥シイ事デアラウ、凡テ會計上如何スル積リカ承リタイ。

## 大藏大臣魚允中

ドウモ政府ノコトハ一體不整頓ナコトデアリマスガ、是レカラ氣ヲ付ケテ御話ノ通りニスルトシタ處ガ、倍々歩ヲ進メテ行カナケレバナラヌ。ソコデ今、日清ノ戰ヒデ平壤カラ向フノ方モ目的ハナシ、又三南（忠清、全羅、慶尙）モ先ヅ目的モナ

イ、併シナガラ平時ニ復スルニ至リマセウガ、夫レデナクアモ租稅ガ豊カデアルカト云フニ中々左様デナイ、矧ンヤ今度段々仕事ニ掛ラナケレバナラヌ場合デアツテ見レバ、其ノ不足ヲ感ズルノデアル。

先ヅ必要ノ費用ヲ補フ爲メ紙幣ヲ發行シヤウト思フ。其レデ紅參、則チ（人參）是レハ御承知ノ通り此收入ハ王室ノ歲入トナツテヲツタノデアリマス、支那ヘ持つテ行ツテ其金ヲ王室ノ費用ニ充テアツタノデアル、所デ今度之レ等モ度支衙門ノ管轄ニシテヤルト云フコトデアルカラ、此ノ人參ヲ賣ツテ之レヲ使フ考ヘデアル。其レハ平常ナレバ凡ソ三、四百萬圓ノ金ガ出來ルノデアル。併シ今其レヲ賣ル場所ハ何ウデアルカト云フト支那デアル、支那ノ感情ハ朝鮮ニ對シテ惡イ、其レデアルカラ之レガ賣レルカ賣レヌカ心配デアリマス。

## 井上

紙幣ヲ發行スル、成程日本デモ發行シタ、併シナガラ紙幣ト云フモノハ何時ニテモ正金ト引換ユルコトガ出來ナケレバナラヌ、國民ハ無理ニ押付ケルトシテモ、外國人ニ對シテ銀或ハ金ト引換ナケレバナラヌ。

今日ハ他國ト貿易ヲスル故、外國人ガ紙幣ト引換ニ來タ時ニハ否ムコトハ出來ヌ。札ヲ以テ來タ時ニハ正金ヲ渡サナケレバナラヌ。人參ヲ賣ルトシテモ、今、我國ト支那



ト開戦ヲシテアル有様デ、此戦争ガ來年二月濟ムカ、三月濟ムカ、五月ニナルカ、時機ガ分ラヌ。今假リニ五月落着シタ所ガ、夫レカラ先キデナケレバ金ハ得ラレヌノデアル。

此ニ於テ今紙幣ヲ貳拾萬圓、若クハ三十萬圓出シタト見テ御覽ナサイ、日本人若クハ西洋人ガ取換ニ來ルト云フコトニナル。凡テ銀行ガ紙幣ヲ發行スルト其銀行ニ向テ外國人ナドハ度々正金ノ引換ニ行ク、ソウシテ何度行ツテモ彼ノ銀行ハ引換テ呉レル、大丈夫ジャト云フコトニナツテ、初メテ世ノ中ガ其紙幣ヲ信用スルコトニナルノデアル。政府ノモノニシテ、サウデア。引換ユル元資ヲ用意シテ置クコトガ出來ルカ何ウ乎、其ノ札ヲ發行シテ來年マデ繰廻シテ行クハ宜シカラウ、外國人ガ引換ニ來タ時之レニ對シテ金或ハ銀ナリ用意ガアルカドウカ、ソノ邊ヲ承リタイ。

大藏大臣魚允中 貴公ガサウ云フコトハ最モ御委シイコトデアルカラ、財政ノコトモ御掛リニナツテアラレタコトデアリマスカラ、何ウゾ適當ナ方法ガアルナラ其レヲ伺ヒ度ク思フ。

井上 先ヅ日本ナラ凡ソ一ケ年ノ租税ハ幾千歲入デア、三ケ年又ハ五ケ年ヲ平均シテ見レバ凡ソ幾百萬圓トナル、或ハ新タニ税ヲ課シ得ルト云フコトヲ調べタ上ナレバ、立案

モ出來ルダラウ、故ニ貴公方ガ國庫ニ是レ丈ケノモノハ懽カニ納マルト云フモノト、又税ノ中デモ何々ハ増税シ得ル歟、此税ハ高イカラ斯ウ云フ風ニ減ジテ斯ウ云フモノニ税ヲ課スルガ宜シイト云フコトニナツテ、然ル上ニ此ノ朝鮮政府ノ收入ガ假リニ一千萬圓ノ歲入ガアルトシテ、ソコデ王室モ政府ノ方モ無用ナ費用ガ大變掛ル、丁度一例ヲ舉ゲテ見レバ、私ノ聞イタ所デハ王室ニ女ガ七百人モ居ル、其レカラ又各役所ナドハ無用ノ役人ガ澤山居ル、此儘節減ヲ痛ク行ハズシテハ、其費用ハ一千万圓デ之レヲ支フルコトハ出來ナイ。然レバ年々ノ歲入デハ不足ガ起ル。

就テハ第一王室ノ費用ハ是レマデ節減セネバナラヌ、政府各衙門モ無用ノ費ヲ節シ、其ノ合併スルモ廢止スルモアリテ、且ツ官吏ハ充分ニ職責ヲ盡スト云フコトニシナケレバナラヌ。然ル上歲入ト歲出ト剩餘ヲ算出シ、其額ニ從ツテ紙幣ヲ發行スルト云フコトニナツテ、其ノ引換金ヲ他カラ借り入レタ所デ、之レニハ利子ガ付ク、之レヲ凡ソ何ケ年間ニ償還シ得ラル、ト云フ計算ヲ立テネバナラヌ、其稠密ナル調査明了ナラザル以上ハ、私ガ幾ラ經驗ガアツテモ案ハ立テラレヌ。

大藏大臣魚允中 ソコデ朝鮮ハ元ト今ノ様ナ銅錢ヲ用ヒタコトモ以前ハナカツタ、則チ物品ヲ以テ金ト見做シテ來タノデアツテ、人民モ互ニ信用アル書付ヲ以テ政府ノ用ニ使フテ



來タノデ、銅錢ヲ使用シタコトハ昔ハナイ。八道ノ納税ト云フモノモ、米、絹、木綿ヲ以テ收メシメタ。雜穀ハ餘リ取ラヌ（江原道ノ或ル部分ニ於テハ取ツタガ）夫レデ此錢ヲ用フルコトニナツテモ、矢張り錢ヲ持ツテ來タ地方ハ少ナイ。地方ニ於テ物品ヲ賣ツテ金ヲ持ツテ來ルノハ不便デアルカラ、是レヲ京城マデ持ツテ來テ京城デ賣ツテ納メタ、マアサウ云フ納メカタニ成ツテヲツタ（地方ハ物品賣買ニ不便ナレバ、現品ヲ持チ來ツテ上納スレバ、物品ノ賣買ハ京城ガ却テ便宜多シト云フニアリ。）

其レカラ一年ノ歳入ヲ段々調ベテ見タガ、其レヲ御話シスレバ、税關ノ收入ヲ除キ、地方官ノ經費ニ充テル月給ヲ除イテ、京城ニ這入ルモノガ幾干有ルカト云フニ、凡ソ五百萬圓許リデス。（日本壹圓銀貨ノ割ニテ）其外ニ雜税ト云フモノガアリマス。其ノ雜税ト云フモノハ、是レマデ王族ナドノ私ニ使ハレテ居ツタノデアル、其レヲ除イテ本統ニ這入ルモノハ五百萬圓以内デアアルノデアリマス。ソコデ京城ガ御承知ノ通り一年ノ間何ウシテ支ヘルコトガ出來ルカト云フニ、五百萬圓ト云フノハ日本デ見レバ殆ンド帝室費ト同様ノモノト思ハレルガ、其額ハ國庫ハ些少ニシテ、主トシテ王室ノ方ニ這入ツテ居ル。其中或ル部分ハ王妃ノ爲ニ遣ハレテヲル。サウ云フ譯デアアルカラ京城ノ役人ハ極ク祿ガ少ナイノデアアルガ、地方ニ行ツテ地方官トナツテ地方ニ於テ財ヲ

拵ヘテ來ルカラ、今日マデ何ウカコウカヤツテ來タノデアアルガ、併シ今度制度ヲ定メ、役人ヲ定限シ、節減ヲ加フルニ非ラザレバ、到底今マデノ如クシテ爲スコトハ出來ヌ。各港カラ上ガル金モアラウガ五百萬圓デハ六ヶ敷トハ思フ。

夫レデ私共ガ朝鮮人トシテヤラナケレバナラスコトハ、先ヅ朝鮮ノ王室ヲ制定シ、各衙門ノ歳出ヲ定メ、成ル可ク節約シテ、成ルベク金ノ入ラヌヤウニヤツテ行カウト思フ。

## 井上

夫レハ御尤モデアアル、王室ノ制度規模ヲ定ムルト云フコトニ付テモ、凡テ租税ハ度支衙門ニ統轄シ、王室モ定額ヲ付ケルヲ第一トセネバナラス。

然ルニ風説ニヨレバ、費用ハ五拾萬圓ト云フコトヲ議シタヤウニ聞ク、スルト大院君ハソシナ王室ノ尊嚴ヲ缺クヤウナコトヲシテハナラス、日本ガ三百萬圓ダカラ朝鮮ハ之レニ倍シテ六百萬圓ナケレバナラスト云フ説ノヤウデアアル。眞ニ非ザルカ否カハ知ラヌ。若シ斯ノ如キ誇大ノ考ヘデハ經濟ハ立難イ。

日本ノ歳入ハ昨年ハ八千萬圓餘デアツタ。皇室費ハ其中カラ三百萬圓、日本デハ維新以來ノ改革ハ皇室費ナドハ非常ニ節減シ、餘程以前ト破格トダガ出來タ。此間モ謁見ヲスル時ニ此様ナ卓子ニ此様ナ卓被ヲ掛ケテアツタ、之レモ餘程ノ高イ金ヲ出シテ買



ツタモノデアラウ、我々が五圓デ買フモノハ、三、四拾圓モ高價ニ當ルデアラウ。詰  
リ無用ナ役人が多クアレバ種々弊害ヲ生ジ、金ヲ吸ヒ取ツテ仕舞フヤウニナル。是等  
ヲ除クコトガ出來ルカ否カ、總理大臣、外務大臣ナドモ、ヤリ遂グルト云フ御決心デ  
アルカ否カ。

私ノ言フコトハ小イサイ塵ノ様ナコトヲ云フ様ニ思フカモ知ラス、併シ小ヨリ大ニ及  
ブマデモ經濟ト云フモノハ無用ナ金ヲ使ハズ、有用ナ事ニ使フト云フコトデナケレバ  
ナラスガ、今日ノ有様ハ私ノ言フ處ハ想像デアルガ、其ノ想像ノ外ニ出ヌダラウト思  
フガ何ウデアリマス歟。

大藏大臣魚允中 實ニ御尤モデアアル、假令國家ニ金ガ多クテモ制限ヲシテ使フベキ所ニ使ハナ  
ケレバナラスノデアリマス。

井上 現在ノ有様ヲ見ルニ、王室ニハ兵卒モ幾分居ルガ、此ノ兵ガ守護ノ用ニ立ツカ否カ、  
又無數ノ小吏極メテ多ク、其他各衙門等モ同様デ、其ノ實ハ遊民製造所ト言フモ過言  
デハアルマイ。斯ノ如クニシテ魚允中サン、又總理大臣ナドガ幾干骨ヲ折テモ無益デ  
アラウ。國ノ經濟ト云フモノハ、大藏大臣一人デスルモノデハ無イ、第一王室、各大  
臣等ノ關係ニ尤モ必要デアアル。何レニテモ一、二ノ處ガ不經濟ヲ行ヘバ、全社會ニ波

及スルノ理デアアル。恰モ人間ノ身體ノ血液ノ如ク、夫レニ因テ生ヲ保ツコトヲ得ル、其  
ノ血液ガ段々減ズレバ人ノ體モ段々疲衰シテ死ニ至ル、一國ノ經濟モ又同ジ道理ダ。

私ガ困難ト云フハ、一方ニハ大院君並ニ王妃、其他王族ニモ政治上ニ容喙ヲ禁ジ、只  
ダ尊嚴ヲ保ツト約ヲナシタリトスルモ、即チ之レハ非常ニ苦藥ニ相違ナイ、ソコニ附  
隨シアル人モ不快ヲ極メルデアラウ。然ル上ニ第二ノ苦藥、則チ第一王室費節減、人  
員ノ減少等、之レヲ實行スルニ當ツテハ非常ニ不自由ヲ感ゼラル、デアラウ。又各衙  
門以下ニモ不自由ガ起ル、地方ニモ波及セザルヲ得ナイ。今度ハ前キニ政治上ニ容喙  
ヲ停止シ、復タ一層ノ苦藥ヲ段々勤メザルヲ得ナイ。扱テ此ノ病人ガ其ノ苦藥ヲ堪ヘ  
テ飲ムコトガ出來ル歟、否カト云フニ、中々飲ミ難イコトデアラウ。今度ハ先ヅ二週  
間前カラ居テ、事々物々眼ニ見、耳ニ聞クコト、總テ先ヅ何ウシタラ此國ガ自主獨立  
ヲ鞏固ニナスコトガ出來ルカト云フコトヲ深思熟慮シテモ、今日ノ場合、中々至難ノ  
事デアアル。其ノ苦藥ハ佳味ト思ツテ飲ム人ハ一人モ無イ、實ニ困難至極デアアル。

總理大臣金宏集 私ノ國モ元トハ斯ウデハナカツタノデアアル。役人ヲ出スニモ各省大臣カラ奏  
上ヲシテ君主ノ許ヲ受ケタノデ、却テ國王カラ直接ト云フコトガアルト恥カシク思ツ  
タ。必ラズ相當ナ處カラ出ナケレバナラス、政府カラ稅ヲ取立テルコトモ又少ナカツ



タ。大闕内ノ修繕ノ如キコトモ無暗ニセズ、勝手ニスルト云フヤウナコトハ決シテナ  
カツタノデアル。此ノ三、四十年前マデハサウ云フ風デアツタノデアル。

井上 今オツシヤル通り、國務大臣ガ責任ヲ帶ビ、國家ヲ脊ニ負フテ過失アツテモ國王ニハ  
掛ケヌ、其換リ國王モ信認シタル以上ハ充分保庇シテ其職ヲ盡サシムルコトガナクテ  
ハ責任ヲ負フハ難事デアル。

總理大臣金宏集 寔ニサウデ、偕テ其君主ガ大臣ヲ撰ブト云フコトハ何ノ爲ニ撰ブノデアルカ  
ト云フニ、則チ此ノ撰ブト云フコトハ信用シテ政務ヲ委ヌルカラノコトデアル。

外務大臣金允植 王在上安在下勞スト云フコトモアル。

大藏大臣魚允中 何ウモ此頃ノ様デハ仕方ガナイ、外國交渉ノ事ハ外務デアツテ之レヲ司ル、  
然ルニ其途ニアラザル宮内ヨリ直接ノ往來ヲ爲スコトガアリ、實ニ驚ク可キモノデア  
ル。

井上 私人ノ意見モ漠然タル事ニ非ザレバ明瞭シタ事デアラウ、從テ其ノ藥モ幾種トナク非常  
ニ苦クナル、ソコデ私モ今朝鮮ノ臣民ナラバ仕方ガナイ、日本ノ

天皇陛下ガドウカシテ此ノ朝鮮政府ノ内政ヲ改革シテ、獨立ノ權ヲ完フスルヤウ盡力  
セイト云フコトデ來ツタノダガ、如何セン、スルコト爲スコト朝鮮ノ頑固黨、大院君

王妃、李媛鎔、其他ノ妨害物多ク、且ツ改良スル事モ實ニ至難ノコトバカリダ。寧ロ  
放棄シテ歸國ノ上 天皇陛下ニ獨立ヲ鞏固ナラシムル實ヲ舉ゲシムル能ハザルノ理由  
ヲ上奏セントノ考案ガ強クナル。

總理大臣金宏集 併シ私等ハ思フニ隨分危ナイノデアアルガ、公使ハ外國ノ御方デモアリ、又職  
務デ御出デニナツタノデアアルカラ別條ナイ。

大藏大臣魚允中 貴國ノ厚誼ハ終ニ日、清ノ交戦トナリ、大兵ヲ動カシ來ツテ今日ノ有様ニナ  
ツタ。則チ是レ我國ノ爲ニ箇様ナコトニナツタノデアアルガ、則チ日本ノ爲メ、東洋ノ  
爲ニヤラレタノデアアルカラ、此處デ貴公ガ斷念シテ下サツテハ、折角ノ御厚意ニナツ  
タガ御本意デモナカラウ、ドウアツテモ日本ノ義侠ト云フコトハ世界デモ知ツテヤル  
コトデアアルカラ、此際充分ニ眼ヲ離サズシテ幫助セラレタイ。

井上 今日何レノ國ニシテモ、國ヲ立ツル以上ハ富國強兵ト云フコトヲ計ル。其國ノ害ヲナ  
スモノハ之レヲ除却シ、利益ヲ擴張セザルヲ得ザルハ通義デアアル。日本ガ義侠心ヲ以  
テ貴國ヲ獨立セシムルト云フモ、貴政府自ラ其ノ獨立ヲ口ニ唱フルモ、其實ヲ舉グル  
ヲ務メザル上ハ、日本政府ハ止ムヲ得ズ朝鮮ニ對スル政略ヲ變ゼザルヲ得ヌ。則チ吾  
國ノ有害ハ兵力ヲ以テ我國ノ鞏固ト國利ヲ計ラネバナラス。將來何年間モ貴國ノ用達



ノ如キ義務ハ無イノデアアル。

總理大臣金宏集 其レテ私ナドハ極ク單純ノ考ヘデ來マシテ、茲ニ段々聞イテ見レバ誠ニ御尤モデアアル。第一妨害物ヲ排除セナケレバ仕事ハ第二デアアル、第一ノ基礎ヲ作ランケレバナラヌコトハ大ニ分リマシタ。看病スル人ハ此ノ病ガ何ンデアアルト云フコトガ知レマシテ、今御醫者サンニ就イテ其ノ病ヲ治ス藥ヲ聞ク、所デ寔ニ今日ハ危急存亡ノ秋デアアルカラ、私等ハ充分ニ講究致シマス。

井 上 三人ノ御相談ガ就イタラ私ガ御相談ニ與カラウ。度支大臣ノ方ハ第一歳入モ非常ナ關係モアリ、又財政上ノコトニ就イテモ御考ヘアリタイ。

總理大臣金宏集 私ノ方カラ却テ御頼ミシナケレバナラヌコトデアアルニ、貴公ノ方カラ恐入リマシタ。

井 上 貴公方ノ御決心ヲ能ク聽イテ見テ、奮發スル心ガアル以上ハ茲デ貴公方ノナサルコトガ鏡ニ照スヤウニ映ズルノデアアル。

總理大臣金宏集 道ガ開ケサイスレバ漸次此ノ事モ進ムデアラウト存ズル。

井 上 私ハ貴公方ノ決心次第ニ依テ考案ヲ試ムル事ニスル。

(時ニ午後十時四十分散會ス)

## 朝鮮改革ノ至難ニ付具申

井 上 馨

本官赴任以來、國王殿下、大院君並ニ各大臣ニモ面晤致シ、朝鮮ノ内政改良並ニ東學黨鎮撫ノ義ニ付教示ノ初步ハ談話筆記ニ御承知ノ通り、大院君ノ剛愎、李竣鎔ノ狡譎ナル、此二人ノ勢力ヲ箝制シタル上ナラデハ到底何事モ改良ノ緒ニ就キ申候事六ヶ敷義ニ有之候。東學黨ノ件ニ就テモ、外務衙門ヨリハ我國ニ向ヒ同黨鎮撫ノ爲メ兵隊ノ派遣ヲ請求スルニモ拘ラズ、大院君、李竣鎔ハ嘗テ陰ニ人ヲ遣ハシテ同黨ヲ煽動シタルハ蔽フベカラザル事實ナリ。曩ニ大院君等ガ同黨煽動ノ内命ヲ傳ヘタルニ、前警務使李允用ガ其探偵上職務ヲ盡シタルノ故ヲ以テ、大院君ハ事ノ露顯センコトヲ恐レ、竊カニ之レヲ防止センコトヲ圖リ、九月二十八日大院君ハ我公使館ヲ訪問シタル歸途、巡檢(巡查)ノ舉手ノ禮ヲ行ヒタルヲ以テ國法ニ違ヒタルモノナリ



トシ、巡查五名ヲ縛シ、之レヲ獄ニ投ジ、即日李允用ノ官職ヲ剝奪シ、自己ノ黨下タル許璣ヲ舉ゲテ警務使トナシ、巡檢ノ外ニ巡捕(是レハ元捕盜廳ニ屬シタルモノニシテ改革ノ際之レヲ廢シ、代フルニ警務廳ノ巡檢ヲ以テシタルニ、之レヲ再興シ、大院君ガ自己ノ用ニ供セルモノナリ)ナルモノ百名許リヲ設ケ、名義ハ犯人ノ探偵タリト雖モ、其實專ラ自己ノ爪牙ノ用ニ供シ、以テ暴威ヲ逞ウスルノ具トナシ、專横ヲ極ムルニ過ギズ。去ル三十一日夜、法務協辦金鶴羽刺客ノ爲ニ暗殺セラレタリ。此ノ暗殺ハ大院君ノ使喚ニ出デタリトノ嫌疑ハ事實ニ近キモノトスルモ大過ナカルベシ。依テ兇手ノ搜索ニ百方手ヲ盡スモ、大院君ノ毒虐ニ恐怖シ、警務廳ノ人員等モ證據ヲ得ルコトヲ務メズ、此ノ如キ形況ニテ趙義淵、安駟壽、金嘉鎮等開化黨ト名ケラル、者等モ皆恐怖ノ心ヲ生ジ、其ノ生命ノ且ニタヲ計ラザルヲ慮リ、現在ノ職務ニ安ズル能ハズ。一例ヲ舉グレバ、過ル六日安駟壽、金嘉鎮ノ兩人ハ已ニ地方官ニ轉任セントシタルヲ以テ、本官ハ一方ニハ韓廷ニ向ヒ、今ノ時ニ當リ此等ノ人物ヲ地方ニ出スノ不可ヲ説キ、他ノ一方ニハ右兩人ニ對シ此ノ如キハ單ニ其身ノ危難ヲ避クルコトヲ圖リ、國家ニ對シテ忠節ナラザルヲ責メ、事纒カニ止ミタリ。抑モ彼等ガ斯ク地方ニ出ヅルヲ冀望スルハ他ナシ、一方ニハ金鶴羽ノ如ク大院君ノ毒手ニ罹ランコトヲ怖レ、又一方ニハ大院君ガ竊カニ手ヲ廻ハシ、此等開化派ノ人物ヲ韓廷ヨリ退ケントスルノ陰謀ニ出デタルナリ。右ノ次第ナルガ故ニ、先ヅ大院

君及ビ李竣鎔ノ兇暴ヲ箝制シ、其ノ毒威ヲ挫折シ、改革ノ妨害ヲ與フルコト能ハザルニ至リテ始メテ能ク各々其ノ職務ニ安ジ、其ノ權限ヲ守リテ相侵スコトナク、諸事ノ改良ヲ圖ルヲ得ベシ。左レバ其ノ兇威ヲ挫折スルニハ其ノ陰謀密計ノ證據ヲ握リ、事實ヲ慥ムルコト極メテ必要ナルベシ。本官ガ曩ニ平壤ニテ我兵ノ手ニ入りタル書柬ノ原書ヲ請求セシモ、右證據ノ一端ニ供シ、老爺ヲ羈絆シテ其ノ暴威ヲ箝制スルノ具トナサンガ爲メナリ。

大院君及ビ李竣鎔ガ内命ヲ傳ヘテ東學黨ヲ煽動シタル件ニ關シテハ、李秉輝及ビ大院君爪牙ノ具トナリ、目下入獄中ナル許燁ナル者アリ、許燁ハ大院君及ビ李竣鎔ノ内命ヲ奉ジ、東學黨ニ密書ヲ送リタリト云フ鄭寅德ナル者ト共謀ナルノ故ヲ以テ、前警務使李允用ノ手ニテ之レヲ捕獲セリ。又李秉輝ハ此ノ事件ニ關係スル所アルヲ以テ、曩ニ李允用ハ之レヲ利用シ該事件ノ探偵ニ力ヲ盡シタルヲ以テ、大院君ノ怒ニ觸レ獄ニ投セラレタルモノナリ。此二人ヲ詰責セバ大院君等ガ東學黨ヲ煽動シタル件ニ關シ事實ヲ得ルノ望ミアリ。依テ東學黨ガ我が軍用電線ヲ切斷シ、兵站部ヲ襲撃シ、商人並ニ人夫等ヲ虐殺シ、我が政府ニ關係アルヲ以テ内田領事ヲ立會セ、目下法務衙門ニ訊問中ナリ。

右等ノ手段ハ敢テ故ラニ大院君等ノ舊惡ヲ訐發シテ之レヲ追咎スルノ旨趣ニアラザルモ、前ニ陳述スル如ク百事ノ改良ハ大院君ノ暴威ノ下ニ屈伏シツ、アル以上ハ、此ノ兇虐ヲ挫折シテ



其毒威ヲ逞フスル能ハザルノ手段ニ出デザルベカラズ。而シテ此ノ手段ヲ取ルニハ先ヅ事實ヲ儲メ證據ヲ蒐集スルコト第一ノ急務ナリト信ズ。

此ノ第一ノ手段ニシテ老猾ヲ羈絆スルノ効ヲ奏スル能ハザル場合ニハ第二、即チ最後ノ手段ヲ取ルノ必要モ生ズルヤモ計リ難シ。即チ大院君ヲ朝鮮ノ政治界ヨリ拒絶シテ國政上一切ノ容喙ヲ許ササルカ、若クハ嘗テ彼ニ向テ支那ガ取リタル如キ手段ヲ取ラザルベカラザル場合ニ立至ルヤモ難計、勿論此ノ最後手段ヲ取ルニ就テハ閣議ニ提出スル所アルベケレドモ、豫メ御含ミ置キ相成度、左リナガラ大院君モ七十五年以來支那アルヲ知リテ他ヲ知ラズ、頂ヨリ踵ニ至ルマデ全ク頑固ノ二字ニ固着シタル老爺ヲ駈リテ、開明ノ風潮ニ誘導セントスル、是レ人ニ進ムルニ行ヒ難キヲ以テスルモノニテ、元來無理ナル注文タルヲ免レザルナリ。

將又東學黨ナルモノガ唱道スル所ハ、苛酷ナル收斂吏ノ暴威ノ下ニ屈服スル人民ヲ塗炭ノ苦ミヨリ救ヒ出サントスルヲ名トシ蜂起シタルモノナルガ、日清戰爭ノ起リタル時、大院君ガ清兵ト相應ジテ我兵ヲ攻撃セシメ、大ニ支那ノ歡心ヲ買ハンガ爲メ處々ニ人ヲ遣ハシ、該黨ヲ煽動シ、之レヲ利用セントシタルヨリ、俄カニ其ノ増加ヲ見ルニ至リタルナリ。該黨鎮撫ニ關シテハ曩キニ請求セシ五中隊ノ内、三中隊ハ十一月五日京城ニ到着セリ。是レハ專ラ京城ノ守備ニ供スルモノナリ。外二中隊ハ去ル六日仁川ニ着セリ。是レハ仁川滞在ノ伊藤兵站監司令ノ下

ニ屬セシメ、暴徒鎮撫ノ爲メ從來渡韓ノ分ト共ニ一舉シ暴徒ヲ剿絶セント欲ス。且ツ朝鮮政府ヨリモ此度一中隊（我が武官佐伯歩兵大尉ノ訓練シタル兵ニテ、技術ダケハ先ヅ卒業シタルモノナリ）ヲ派遣スルコトニナリタレドモ、元來朝鮮兵ハ到底無用ノ長物タルヲ免カレズ、曩キニ東學黨鎮撫ノ爲メ竹山ニ六百許リノ朝鮮兵ヲ派遣シタルモ、賊ニ遇ヘバ却テ逃走シ何ノ用ヲナス能ハズ、且ツ朝鮮兵ハ糧食ノ備ヘナク、給料ヲモ支拂ハザルニヨリ、到ル所人民ノ財産ヲ掠奪セザルヲ得ズ。人民ハ既ニ東學黨ノ爲ニ其ノ財産ヲ掠奪セラレタル上ニ、又韓兵ノ掠略ニ遭遇スルノ悲境ニ陥リ、寧ロ東學黨ニ投ズルニ如カザルノ念ヲ起サシメ、朝鮮兵ノ派遣ハ暴徒ヲ鎮壓スルヨリ寧ロ人民ノ蜂起ヲ促スノ形情ヲ呈スルノ實況ナリ。依テ此度韓廷ヨリ派遣ノ一中隊ニ就テハ嚴敷談判ノ上糧食ノ準備ヲナサシメ、且ツ派遣兵ハ我が士官ノ指揮監督ニ屬シ、我が軍律ノ下ニ立タシムルコトニ取極メ、漸ク此レマデ滯リタル三ヶ月分ノ給料ヲ支拂ツテ出發セシムル有様ナレバ、此後トテモ朝鮮兵ノ使用ハ東學黨ノ鎮撫ニ關シ何ノ役ニモ立ツコト六ケ敷、若シ御來諭ノ如ク速カニ該黨ヲ鎮撫セントナラバ、此上少ナクモ四中隊ノ日本兵派遣ヲ要スベキ見込ミナリ。

右等ノ次第ニテ朝鮮政府ノ有様ハ事々物々豫想外ニテ、本官モ失望スルコト少ナカラズ。決シテ悠々トシテ時日ヲ消費スルコトヲ好ムニ非ザレドモ、中々内國ニテ御考ヘノ如ク容易ニ改



革ノ緒ニ就クコト六ヶ敷義ニ候。内閣ニ坐シテ命令ノ御催促ハ本官ノ不快トスル所ナリ。若シ御疑ヒニテ拱手消光罷在候事ト御推察ナラバ、貴官親シク御出張御視察相成度候。

明治二十七年十一月十日

伯爵 井上馨

外務大臣子爵 陸奥宗光 殿

### 金宏集、金允植談話筆記

十一月十一日午後二時外務大臣金允植氏來リ、間モナク總理大臣金宏集モ來リ會シ、同席ノ上井上伯ト談話筆記。

金總理大臣 扱テ本日我が大君主ノ旨ヲ奉ジ、來ツテ閣下ニ面會致ス事ハ、去ル八日閣下ヨリ示サレタル我が大君主ガ舊七月中平壤監使閔丙奭ニ宛テ其ノ旨主ヲ清國武官ニ傳ヘシメタル親書ノ儀ニ付キ深ク後悔被成、如何ニモ不相濟事ト思召シ、何卒閣下ヨリ貴國皇帝陛下ニ電報ヲ以テ事ノ不始末ヲ御詫ビ被下度シトノ事、並ニ拙者ヨリモ代ツテ可然閣下へ御詫ビ可致トノ御意ナレバ、其邊御諒察ヲ請フ。

井上 左様大君主ニテモ惡シカリシトノ御後悔被成、殊ニ御詫ビノ詞ニ及バセラル、以上ハ、此事ハ自ラ釋然致ス可シ。元來此レガ爲メ強ヒテ事端ヲ醸スノ意毫モ無之、然レドモ當時内情ノ如何ハ姑ク措キ、兎ニ角貴國政府ハ我が兵力ヲ假リ、牙山ニアル清兵ヲ擊



チ吳レル可シトノ公然タル依頼ヲナシ、又一方ニハ對清戰鬪ノ盟約ヲ結び置キ乍ラ、  
裡面ヨリ窺カニ清ニ通ズルト言フ不徳義ノ行ヒアリテハ、何人ト雖モ不快ヲ生ズルハ  
當然ナリ。然シ最早今日ハ大君主ヨリ惡シカリシトアル以上ハ、拙者ヨリモ其ノ趣書  
面ヲ以テ大本營ニモ奏達スル事ニ致ス可シ。

金總理大臣 早速閣下ノ御承諾ヲ得テ、拙者モ我が主上ノ聖意ヲ達シ面目ナリ。歸ツテ此ノ由  
ヲ入奏セバ主上陛下モ定メテ御滿悅ニ思召ス事ナルベシ。

井上 只今大君主ヨリ惡シカリシトノ御言葉ハ承知セリ。去リナガラ此ノ惡シカリシト云フ  
事ハ、以來ハ全ク清國へ隸屬スルヲ眞ニ斷念ナサレ、即チ獨立ノ基礎ヲ鞏固ナラシム  
ルトノ意哉、又ハ獨立ヲ鞏固ナラシムルトハ取りモ直サズ内政改良ノ實ヲ舉グルト云  
フ事ニナルガ、此儀ハ如何。

金總理大臣 勿論我が主上ニハ十餘年前ヨリ獨立ノ事ハ勿論臣民ヨリ熱心ナリ。臣民ハ却テ數  
百年ノ藩屬ニ慣レ、清ニ背クヲ以テ大ニ不可ナリトスルモノナリ。然レドモ我が主上  
ノ意ハ斷然獨立主義ニ決セラレタル以上ハ、内政改良ノ如キモ、奮發シテ實効ヲ奏ス  
ルヤウ聖意ヲ盡サル、コト、ナルベシ。

井上 果シテ然ラバ尙ホ一言奏上ヲ願ハシ置キタキ事アリ。夫レハ中宮ナリ。大院君ガ是レ  
ヤデノ如ク政治上ニ容喙シ、或ハ官吏ノ黜陟ニモ干涉セラル、事アリテハ、政事ガ多  
門ヨリ出テ、如何ニ政府ガ改良ノ實ヲ舉ゲントスルモ種々ノ妨害ニ逢ツテ成功ヲ見ル  
能ハザルベシ。就テハ此後ハ中宮、大院君トモ決シテ政治上ニ關係セラレザルハ勿論、  
大君主ト云ヘドモ猥リニ政府大臣ノ職務權限ヲ侵サル、事ナキヤウ致シ度シ。但シ此  
儀ニ付キ閣下ヨリ奏上憚カル次第ナラバ、拙者ハ直チニ内謁見ヲ請ヒ奏上スルモ妨ゲ  
ナシ。

金總理大臣 夫レハ委細承知ス。其ノ御話ヲ奏上スルハ決シテ難キニアラザレドモ、又一ツ御  
話シテ置カネバナラヌ事アリ。其ノ中ニ大院君、中宮殿ハ政治上ニ關係シテハナラヌ  
ト云フコトハ、充分ニ大君主ニ向ツテ申上ゲマス。併シナガラ其ノ中ノ一ツ、即チ中  
宮殿ノ事ナリ。是レハ我々臣下ノ身トナリ、父母トシテ事ヘネバナラヌ御方ナレバ、  
直接ニ御話モ出來ナイ。若シ御話スルニハ大君主ニ向ツテ御話シシナケレバナラヌ。  
然ルニ大君主ニ向ツテ中宮殿ハ政治上ニ關係スルハ宜シクナイカラ御止メナサツタラ  
宜シカラウト云フ事ヲ上申スルハ、私ノ口カラ申スノハ甚ダ憚ル次第デアルカラ、御  
諒解ヲ願ヒタイ。又此レマデ議政府ニ大臣ガ居リ、之レヲ政府ト云ヒマシタ。假令バ  
此處ニアル外務大臣モ其他ノ大臣モ同様ニ大臣デアツテ、均シク政事ヲ行フノデアレ



ドモ、元ノ習慣ガアルカラシテ今我が政府ノ責任ヲ規則正シク設ケネバナラヌト云フ事ヲ云フト、一寸考ヘルト何ンデモ自分ガ又勢道者ト云フ氣ガアツテ言フノデハナイカト云フ事ヲ考ヘル者ガアル。夫レヲ私ガ恐レヲ抱イテ言フノデハナイガ、皆サウ言フ様ナ疑心ヲ抱クノデ御座イマス。又其レデ私ハ中宮殿ヲシテ成ルベク覺ラセル様ニ御話シヲシマスル、今充分明言スル事ハ憚カルナレドモ、自然ニ御覺リニナル様ニ申シマス。

## 井上

君主ニ事フルハ父母ニ事フル如シト言フ意ナルガ、段々其ノ父母ガ家政ヲ紊ス様ナ事ヲシテモ、子タルモノ、義務トシテ幾ラ家政ヲ紊ス様ナ事ヲシテモ黙シテ居ラナケレバナラナイト云フ道理モアルマイ。況ンヤ國ノ父母ト云フ事ニナツテハ、君ニ諫言ヲナシ、王妃ニ諫言スルト言フ事ハ正當ナ臣ノ分デアアル。併シ右ノ事タルヤ貴公ノ自意ヲ傳奏ナサル、ノデアアル、過日大君主ニモ申上ゲタリ。其ノ事タルヤ此ノ支那ノ屬國ト言フ事デアアル。屬國ト云フ觀念ガアツテハ第一直接間接ニ國ノ利益ヲ害スル故ニ、何トシテモ獨立セネバナラヌ。然ルトキニハ只ダ支那ヲ尊敬シテ自ラ純然タル獨立ノ實ヲ擧ゲナケレバナラヌ。

獨立ト云フ事ハ當事ノ宿弊ヲ一掃シ、内政ノ改良ト云フコトガ出テ來ル、其ノ改良ヲスルニハ何カト云ヘバ、第一政治ノ基礎ヲ定メ、其ノ權限ヲ明ラカニセナケレバナラヌ。大院君、王妃等ノ勢力ノ限リヲ明カニセナケレバナラヌ。直接ニ政治ニ關係スル事ハ宜シクナイ。以前ハ如何デアツタ、何故ニ閔氏ノ權力ガ強クナツタノカ、ソコデ大院君が出テ又二ノ舞ヲスルハ宜シクナイ。サウ云フ事ヲ革メテ内政ノ改良ノ實ヲ擧ゲネバナラヌ。又只管堪忍力ヲ以テ着々歩ヲ進ムルニ非ザレバ能ハザルナリ。左モナケレバ國家ハ危險ニ赴ク、私ガ此レヲ言フモ貴國獨立ノ位置ヲ鞏固ニナサシメタイト言フ意ニ外ナラズ。

今一應大君主陛下ニモ、王妃ニモ上奏ナサル可シト云フノハ、貴大臣等ガ親ラ上奏ナサレト云フノデハナイ、私ノ意ヲ以テ傳奏ナサイト云フノデアアル。又タ夫レモ云ヒ難シトナラバ私ガ言ヒマセウ。其ノ換リ其ノ時ニハ大院君モ王妃モ各大臣モ其ノ席ニハ御出席ナサラナケレバナラナイ。

此ノ國ノ獨立ノ基礎ヲ建テントナラバ、第一妨害物タル政事多門ニ出デ、ハ其ノ基礎鞏固ニナラヌ。

金總理大臣 其レハモウ臣下ノ身トシテ何デモ自分ノ身命ヲ差シ出シテアルカラ、其レハ忌諱ニ觸レテモ構ヒマセヌカラ言ヒマス。矧ンヤ公使ノ意ヲ私ノ口カラ奏上スルノハ何ノ



難キ事モナシ。私ガ話セナイカラ閣下カラ話シテ呉レト言フ事ハ恥カシクテ言ヘヌカラ悉ク奏上シマス。

井上 其レハ事情ノアルモノヲ何ウアツテモ斯クスベシト無理面倒ヲ起スコトハ好マヌ。無理ニナサレトハ言ハヌ。私ハ何方デモ宜シイ。ソコデ大院君モ居リ、中宮殿モ居ラルル處ニ於テ、私ガ其ノ仔細ヲ直ニ上奏スル故ニ、貴公等ハ其ノ大略ヲ御話シニナリテ置カルレバ然ル可シ。難事ヲ貴大臣方ニ強ヒルニ非ラズ。

金總理大臣 其レハモウ閣下マデ我國ノ事ニ就テ御盡力下サル場合ニ於テ、嫌疑ヲ避ケルト云フコトハナイ。故ニ充分其邊ハ委シク御聽キニ達スルト云フコトハ寔ニ宜シイコトデ有リマスカラ、私ハ其ノ通り申シマス。何卒左様御思召シ下サレ度シ。

井上 貴大臣ヲ疑フニハ非ザレドモ、謁見ノトキニ當リ先ツ過日總理大臣ノ來ツテ大君主ガ箕伯ニ送ラレタル書翰ノ事ハ深ク御後悔云々ノ御傳意ハ無論違フ筈ハナイガ、斯ノ事柄ハ深ク慥メテ置キ度イ。私ガ此間議政府ニ於テ閣下ニ面會ノ際、他人ニハ話サヌ、其ノ事柄ハ十七年ノ變動ハ十五年和約後ノ親書ニ起因シテアルト云フコトナリ。其ノ事ハ未ダ我が國ノ外務省ノ記録ニ殘ツテキル。其時ノ事モ正セバ其ノ原動力ハ果シテ何人デアルカ、其ノ當時ノ有様ニ因テ見レバ事頗ル曖昧ノ間ニ埋没シ去リタル故ニ、

此度ノ如キハ充分確實ニ爲シ置カザレバ他日警メトナラザルノ恐レアリテ、終ニ再ビ同様ノ手段ヲ見ルニ至ルモ知ル可ラザレバ、陛下ノ御言葉ナリトテ總理大臣ガ斯クノ事ヲ傳ヘマシタガ、只ダ承知致シマシタトハ御受ケナシ難シ。大君主ノ御直話ヲ承リ、之レヲ私ガ甘諾シ、然ル上獨立ノ實ヲ舉ゲルニ付テハ、一國ノ組織、權限、政治上ノ組織ハ斯クナクテハナラヌ、政治ハ多門ニ出テハナラヌ、中宮殿並ニ大院君ガ容喙セラレズ、又御採用ナサラヌヤウ慥メネバナラヌ。

金總理大臣 只今ノ御話ハ其通り御尤モデ御座リマス。私ガ内奏シテ何レ閣下ガ謁見ニナルト云フ事ハ申シマセウ。

井上 内謁見ヲシテ委シク大君主ニ慥カニ彼ノ事ハ惡ルカツタト云フコトニナレバ、大本營ニ奉達スベシ。扱テ左様云フコトニナレバ愈ヨ彼ノ事ハ惡イト言フ事ハ直チニ其裏ハ何ガ必要カト云フ事ガ起ル事ニナルベシ。

金總理大臣 其レハ御尤モデアリマス。

井上 ソンナラ其時願クハ各衙門大臣モ御列席アリタシ。

金總理大臣 私等モ行キマセウ。併シ皆ト云フ譯ニモ行カヌ、魚度支大臣並ニ軍務大臣ナドガ來リマセウ。



金外務大臣 誰某ト言ハズシテ大臣皆ト云フコトニシテ置ク方宜カラウト思フ。

井上 其ノ方ガ宜シイ、百事陰然ニシテ宜カラズ、公明正大ニ爲ス事良カラシ。

金外務大臣 昨日大院君ニ逢ツテ、政治上ニ喙ヲ入レル、ハ宜シクナイト云フ事ヲ話シタ處

ガ、何ウモ是レマデノ事ハ惡カツタカラ、決シテ之レカラ政治上ニ關係シナイカラ、

何ウカ貴様カラ井上伯ニ會ツテ話シテ吳レト申シマシタ。又宮内大臣李載冕モ來テ、

大院君モ今ハ誠ニ當惑シテ居ル、寔ニ惡ルカツタ、決シテ以來政治上ノ事ニ關係シナ

イ。只ダ宗社ノ爲ニ國王ヲ保護シテ政治ノ事ヲ誤マラヌ様ニスル。決シテ政治上ノ事

ニハ關係シナイト云フ事ハ宮内大臣自分ガ保證スル。則チ親父ノ言ツタ事ヲオ前サン

ニ話スカラト云フテ私ニ言ハレマシタ。私ガ此處へ上ガルト言フコトヲ聞イテ、何ウ

カ此事ヲ言ツテ吳レト吳々モ頼ミマシタ。今朝私ガ起キルト手紙ガ來マシタ、是レ

デ(書翰ヲ示ス)アリマス。

井上

大院君ノ事ニ就テ未ダ話ガアル。彼ノ李堉鎔氏ガ二度私ノ處へ來テ、天長節ノ日モ來

テ長談ヲナシタ。例ノ風説ヲ信ズル事ハ惡イ、支那ノ兵ニ關係ガアルトカ、大院君ガ

東學黨ニ關係ガアルトカ言フ様ナ事ヲ作ツテ離間策ヲ施ス奴等ガアル。其ノ説ヲ信用

シテ吳レテハ困ルト、未ダ私カラハ何トモ言ハヌ前ニ、ソナコトヲ餘程言フ巧ミニ

シテ私ヲ瞞着シヨウト計リ、又最初東學黨ノ事ニ就テモ、大院君ハ自分ハ討滅シテ吳

レト言フコトヲ頼ミハセヌ、只ダ内閣ノ人ガ頼ンダノダト言フ様ナコトヲ私ニ辯解シ

テ、只ダ大院君ハ何ウカシテ私ノ眼ヲ暗マシ、己ノ非ヲ隱シテ己ニ有リシ事ヲ無キ様

ニシヨウト一時遁レニ始終努メラレタリシテ、國王ハ決シテ咎ムル人デハナイ。亦李

載冕ト言フ人モ篤實溫厚ナ人デアルカラ、決シテ私ハ咎メモシナイ。只ダ大院君ガ最

初面會ノ時斯々ノ事情ニ付大勢ヲ洞見スルコト能ハズ誤ツタト思フ、此後ハ改心シテ

唯一ニ獨立國ノ實ヲ舉ゲ、充分ニ内治改良ヲ爲ナケレバナラヌ、是ノ儘デハ此國ガ持

テヌ故、オ前ノ忠告ヲ聽クベシ。即チ日本政府ノ厚意ニ酬ユルノデアル。自ラハ政治

上ニ喙ヲ容レマイト男兒ヲシク淡白ニ云ツテ吳レ、バ、私ハ其レデ満足スル。又李堉

鎔ト言フ人モ來テ是レマデ甚ダ惡カツタト云フコトヲ言ヘバ、私ハ其レニテ釋然シ得

ル、始終アル事柄ヲナキ様ニ言フテアル。又警務廳取調ノ事ニ付テモ、關係人ヲ法廷

ニ呼出サシメントスル己ノ惡事ノ露顯ヲ恐レテ種々ナ手段ヲ以テスルヨリ、各大臣ハ

只ダ恐怖ノ心ヲ生ジ、其ノ内喙ヲ容レ、種々ナル口實ヲ設ケ、其ノ關係人ヲ法廷ニ出

スハ國法ノ免レザル所爲ト公書ヲ送り來リタリ。故ニ昨日モ總理大臣ノ使ヲ以テ、安

駟壽氏ガ東學黨討滅依頼ノ義ニ就テ云々セリ。其ノ時私ハ若シサウ言フコトナク、東



學黨モ京城へ引込メテ來ルガ宜シイ、支那へモ手紙ヲ遣テ兵隊モ借ルガ宜シイ、日本へ敵對スルガ宜シイ。何レモ正ニ我國ニ反對スルガ然ルベシト答へ置キタリ。

## 金總理大臣

昨日安駟壽ヲ以テ申上ゲタ事ハ、是レマデ何ンデモ打明ケテ御話スルノデアルガ、人カラ聞イタ事ガアツテ申シタノデアツテ、段々調べテ見レバ全ク彼ハ東學黨ト言フ事モ言ヘナイデ、地方官ガ人民ニ穀物ヲ貸シテアル、其ノ人民ハ借シテ有ル數ガ多イト言ヒ、地方官ハ是レダケ貸シタト言ヒ、終ニ彼所ノ人民ガコンナニ澤山借リタコトハナイト言ツテ、其ノ辯解ニ掛ツタノデアリマシテ、實ハサウ云フコトカラ大變困難ヲ生ジタ。其レヲ閣下マデ安駟壽ニ鳥渡言ツテ貰ツタノデアリマス。其レデ私デアレバサウ言フ事ハ淡白ニ申ス、寔ニ穢ナイ考ヘカラ、ソシナ事ガ出來タノデアルカラ、惡カツタト云フ事ヲ申シテ謝シシマウ、最モ宜シクナイ考ヘデアツタカラ私ハサウスルノデアアル。

ソコデ東學黨ノ事ハ私方ノ考ヘデハ、大院君モ李載冕モ知ラヌ様デアリマス。唯ダ李竣鎔ハ年モ行カズ、識見モ定マラナイ處カラシテ不都合ナコトヲ考ヘ出シタ時ハ、東學黨ト關係ガアツタト見エマス。併シナガラ李載冕、即チ其ノ親父ニ於テハ關係アルヤハ思ハレマセヌ。大院君モ今ニ至ツテ之レヲ知ツタト言フノデ、之レハ我が孫兒ノ可愛サニ、ソシナコトハナイト思ツテ居タノト、其ノ親父ノ李載冕ト言フ人ニ眞直ニ言ツタナラバ、李竣鎔カラ大變ニ叱ラル、カラ言ハナカツタ。其レデ李載冕ハ知テナカツタノデアアル。若シ李載冕ガ最初カラ知ツテ居タナラバ、ソシナ事ハナク大變ニ怒ラル、ノデアツタラウ。又大院君モ最初カラ關係ハナイ、只ダ孫ノ可愛サニ己ノ孫ハ決シテソシナ事ハナイト言フ様ナ事カラ、成ル可ク李竣鎔ヲ蔽フ積リデ、竟ニ今日ノ場合ニ至ツタノデアアル、右ニ付キ大院君ガ私等ニ望ム所ハ、何ウカ此ノ事ガ訐カレズシテ無事ニ治マル事ヲ願ツテヲリマス。

## 井上

其レモ先刻カラ私ノ言フ通り、大院君ガ自分ノ意中ハ斯々デアツタト淡白ニ言ハルレバ何事モナイケレドモ、其レヲ始終曲庇シテ置クト言フカラ、止ムヲ得ズ法務衙門ハ李秉輝ヲ取調ルニ領事ヲ立會スルニ至リタリ。其ノ口供ニ依ツテ見レバ、李竣鎔ニ關係ガアル、其ノ關係ハ李秉輝ニ是非斯ウ言ヘト云フコトヲ云ツテアル。其レモ最初大院君ガ實ハ私ガ惡カツタト言ツタナラ、コンナ事ハ仕ナクテモ宜シイ。然ルニ夫レヲ自ラモ曲庇シ、誤魔化シテナイ様ナ事ヲ言ツテヲラル、故ニ、其ノ證據書類ヲ押收ニ着手シタリ、又兵隊ニモ東學黨ヲ殺スヨリモ巨魁ヲ押ヘロ、證據書類ヲ押ヘロト内訓シテアル。追々證據書類モ出テ來ル。其レヲ蔽ヒ切レル事ナラ宜シイガ、蔽ヒ切レヌ



事ヲ蔽フノハ愚ノ至リデアル。其レデアルカラ己ノ孫ガ幾ラ可愛イカラト言ツテモ、國家ヲ紊亂スル反徒ニ内通スル如キ所爲ヲ默視スルハ、幾ラ孫デモ兒デモ親デモ免サナイ。故ニ終ニハ李峻鎔ニ關係スル場合ニ於テハ、止ムヲ得ズ用捨ナク同氏ヲ取調ブル積リデアリタシ。最モ尋常ノ犯罪ナラバ領事ヲ立合ハシテ調ベル必要ハナシ。併シ今日ハ日本ト朝鮮ハ同盟シテ互ニ支那ト宣戰ヲ布告シ、開戰最中最も必要トスル通信ノ機械、即チ電信ヲ切斷シタリ、兵站部ヲ襲ツタリ、無辜ノ商民或ハ人足ヲ殺シタリスルモノハ誰デアルカ、即チ東學黨デアアル。此ノ東學黨ハ貴國ノ政府カラ何ウカ鎮壓シテ呉レ、朝鮮ノ兵デハ行カヌカラ助ケテ呉レト依頼シナガラ、大院君ノ孫ナル李峻鎔ガ教唆シテアル。シテ見レバ此妨害物ハ立合フテ是非調ベテ見ナケレバナラヌト言フ必要ガ起ツテ來ル。若シ之レヲ打明ケテ甚ダ惡カツタ、サウ云フモノニ關係シテ居ル様ノモノハ私ノ家ニハ一人モナイ様ニ計ヒマスルト云フテ、心ヲ翻シテ謝罪改心スレバ宜シ、李峻鎔ガ未ダ幼年デアツテ、考ヘガ淺イト言フナラ、之レニ孫營衛ノ兵ヲ扱ハスルト云フヤウナ事ハ出來ナイデハナイカ。

又手紙ニ付テモ、李峻鎔、大院君モ茲へ來テ打明ケテ話スナラ何モ其レヲ調ベル必要ハナイケレドモ、事實ヲ蔽フテ置ク事ナラバ將來モ何ヲスル歟分ラズ、其レデモ日本ハ政府ガ誠意ヲ以テ朝鮮ヲ助クルト云フ必要ハナイ。最早東學黨鎮壓ノ爲メ我兵ヲ出ス必要モナシ、貴國ノ李氏等ハ朝鮮ノ自滅ヲ企ツルノ手段ヲ取リツ、アリ、右等ノ惡爲ヲ隱蔽スル爲メ、情實へ理屈ヲ付シテモ屈服サセヨウトスルナレドモ、私ハ其理屈デハ屈服シナイ(此時東學黨征討ノ兵ヨリノ來翰ヲ示ス)幾ラ包ンデモ分ル、此ノ通り兵士カラ證據ガ舉ツテ來ル。

金總理大臣 實ニ私ハ閣下ノ御話ヲ聞クト、恰モ氷ノ火ニ會フテ解ケル如ク、實ニサウ云フ風ニ物事ガナツテ釋然トシテ行カナケレバナラヌ。彼ノ人等モサウ云フ風ニ行ク事ヲ望ミマス。

井上 私ガ斯ク六ツケ敷ク言ヒ出スノモ、道理ニ逆ツタ事ノミヲシテアルカラデアル。李峻鎔サンモ私ノ前ニ來テ謝罪スレバ宜シイ。然ルニ何ウカ己ノ陰事ヲ許カレマイトシテ居ル、凡ソ人トシテ過ト云フモノハ聖人ノ外ハアルナラン。其ノ過ハ改ムルニ憚ルナキハ真正ノ人ナリ。則チ日本ノ好意ハ充分了解シタ、日本ノ誠意ニ隨ツテドンナ苦イ藥モ飲ミ、獨立ノ實ヲ舉グルニ一心不亂ニシテ、日本黨トカ、ヤレ支那黨トカ云フ事ハ言ハズ、只ダ獨立黨ト決心スルト、真心ヲ以テ明言スレバ宜シイ。然ルニ左様デナクテ、是レマデノ様ナ事ガ段々續イテ行ケバ、止ムヲ得ズ正面上ヨリ大院君ノ決答ヲ



聞カネバナラヌ。其ノ決答次第デ眼前ニ大事ガ起ルナラン。如何ニ幼年トテモ此位ノ事理ハ分ラナケレバナラヌ。

金總理大臣 私モ彼ノ人能ク悟リヲ開イテ、能ク分ル様ニ言ツテ聞カシテオキマス。彼ノ人等ハ今大ニ心配シテ、ドンナ大事ニナルカト言フ事ヲ心配シテ倍々拙ナ考ヘニナルノデアリマス。私ガ來テ御話ヲシタ所ガ、閣下ガ御解ケ下サツタト云フ事ヲ御話シテ彼ノ人ノ惑ヒヲ解キマス。

井上 ソコデ疑心暗鬼ヲ生ズルト言フコトガアル。自分デシタ事ガ知レテハナラヌ、彼レガ知ラナイ様ニト言フ心ニ鬼ガ生ズルノデアアル。私モ此處ニ來テ朝鮮政府ヘ難題ヲ見付出シ、終ニ之レヲ領奪シヨウト言フ意志ハナイ。又日本政府ノ意向及ビ國民ノ意思モ皆サウデハナイ。然ルニ大院君、李竣鎔ノ意中ハ斯様ナ行掛リカラ、次第ニ依ツテハ法勢衙門マデ李竣鎔ヲ呼ビ出シテ調べラレハセヌカト疑ツテ、成ルタケ理屈ヲ付ケテ陰ニ陽ニ隱蔽セラル、故ニ、此ノ如ク六ツケ敷クナツタノデアアル。尤モ今一時ノ彼ノ謝罪ニテ何ウデモ構ハヌト言フヤウナ心裏ナレバ、終ニハ國家ノ安危ニ掛ル岐道デアアル。真心以テ前非ヲ悔イ改心セラル、ナレバ、私モ又タ自ラ釋然トシテ蟠リハナイ。然ル上ハ政治ノ多門ニ出ル事ヲ止メ、此ノ内政ヲ改良セシメ、獨立ヲ鞏固ナラシムル

方略ノ講究ニ着手モ始メ度存ズル。只今マデノ有様ニテ改良ニ着手シテモ、一方ニハ妨害者多クアリテ片端ヨリ打破ルノ姿ナリ。

先ヅ大院君並ニ李竣鎔共ニ謝罪ニ來ルガ第一着ナラン。

金總理大臣 其レハモウ御話ガナクテモ閣下ノ意ハサウダラウト考ヘテアリマス。

井上 ソコデ李竣鎔氏モ第一來テ謝罪スルハ可ナリ。大院君モ又來ルモ同様ナリ。過日貴大臣方ニ御話申シタル事、仔細ニ大院君等ヘ御話下サレタシ。又私モ公使ノ資格デナク、顧問トシテ異見スル考ヘナリ。尙ホ進ンデ私ハ大君主ヘ内謁ヲ乞ヒ、其ノ節ハ大院君、王妃、李竣鎔、其他各衙門大臣一同列席ノ上ニテ、大君主ニ向ツテ奏上ス可シ。則チ前途政治ヲ改良スル處ノ基礎ヲ作ラザル可カラズ。若シ然ラザルトキハ如何ニ獨立ノ組織ヲ爲サントスルモ、外ヨリ之レヲ破壊スルモノアリテハ相成ラヌ故、其妨害ヲ防グ事ハ緊要ナリ。若シ幸ヒニ大君主採納アラバ、東學黨モ何モ恐ル、ニ及バズ。私ハ一ヶ月モ經ツタナラバ鎮撫スルハ難キニアラザルベシ。尙ホ聞クニ昨日頃ヨリ大院君ハ彼ノ米國公使、獨逸及ビ英國等ノ領事ナドヲ招キテ、日本公使ノ内政ニ干涉ガ強クテ困ルト云フ様ナ事ヲ言ハレタル由、左レバ其等公使、領事ノ力ニ頼ツテ之レヲ避ケントスル事ト思ハレタリ。私ハ大概王室等ニ政府部内又ハ大院君ノ爲サル事及ビ王妃



等ノ隠然謀略ハ直チニ私ノ耳ニ入ルナリ。右様ノ拙事許リヲ爲シテ居ラル、次第ナリ。宮中ニ於テモ御命ヲ受ケ各所へ内通スルモノアリテ、處々方々ニ色々ナコトアリト聞ケリ。去レバ殘ラズ私へハ明瞭ニ分ル事ナリ。宮中ノ有様右ノ次第ニテハ外務衙門ナド、言フモノガアルモ、何ノ益モ爲サズ、凡ソ物ハ一條ノ道ヨリ出ヅルニ非ラザレバ弊害ヲ生ズベシ。

金總理大臣 併シ外務ノ方ハ他ノ衙門ヨリ幾何カ宜シイカモ知レヌ。

金外務大臣 明日大院君モ此處ニ來ラル、筈故、閣下ヨリ御話シニナリシ後、私モ亦同君へ申ス可シ、然ル後往イテ各大臣モ出タ所デ慥メナサル事ニ御話ナサルガ宜シイ。

井上 承知セリ。

金外務大臣 是レマデノ例ハ百官ノ出席スル、即チ政府ノ重キ役人ガ出席シタル時ハ、大院君ハ決シテ出席シタル事ナシ。ソレハ何故ナル乎ト云フニ、同君ニ與フベキ席ナキガ爲メナリ。其レ故出席シタ事ガナカツタイデアル。併シナガラ今日ノ場合其様ナ事ヲ云ツテ居ル場合ニアリマセヌ。國王ノ後ニ控ヘルガ宜シイ。依ツテ大院君モ後ニ御控へナサイト申ス事ヲ御申出ラ願フ。

井上 宜シイ。又私ハ決シテ王妃ニ面會シタキコトナシ、障子内カラデモ御聞キナサレタシ。

後日王妃ヨリ私ハ聞カナカツタナド、言ハレテハ困ル。

金總理大臣 承ルニ全羅道ノ方ノ東學黨ガ陷穽ヲ澤山造ツタサウデアリマス。依ツテ貴國ノ兵モ注意セラレン事ヲ望ム。

井上 承知シマシタ。

今一ツ御話シテ置キ度キ事柄ハ、此ノ間、大院君ヨリ洩レ聞キタル事ナリ。夫レハ魚度支大臣モ支那へ手紙ヲヤツタニ違ヒナイト言フ事ナリ。然シ彼ノ人ハモウ少シ利口ダカラ、天津カ何處カへ直接ニヤツタラウト推測セリ。

金總理大臣 其レデヤ、私ヲ欺イテキルカラ、魚大臣ニ向ツテ一ツ尋ネテミマセウ。

井上 イヤ其レニ及バヌガ、彼ノ人モ堅固ナ人ナリ。支那へ傾イテキルト云フ事ハ免レザルベシ。

金總理大臣 其レハモウ御尤モナ話ナリ。其レ故彼ノ人ハ朝鮮黨ト言ハレ居ル位ナリ。

井上 先ヅ理屈ヲ止メテ明日、明後日デモ李竣鎔氏ナリ大院君ナリ來テ謝罪スルト云フ事ナラ御盡力アリタシ。

金總理大臣 夫レデ此ノ局ヲ纏ムルハ畢竟大院君ノ仕方如何ニアルノデ、閣下ニ望ム事ハ出來ナイノデアル。



井上 其レガ濟ミ次第謁見ヲ請求スベシ。サウスレバ互ニ打明ケテ公明正大ニスルコトニ致シマセウ。

## 大院君來館談話筆記

十一月十二日午後二時來訪、井上伯ト談話要略筆記。

大院君 扱テ今日推參致シタルハ、拙者ガ去ル七月中（陰曆）前平壤監司閔丙奭ノ來書ニ答ヘタル書翰ノ不始末ニ關スル御詫ビテ親シク致度ト存ズルノデアアル。

井上 過日金宏集、魚允中、金允植ノ三氏ガ來館アリシ時ニ書翰ヲ出シテ示シ、其ノ不都合ヲ責メタル次第ナリ。抑モ過日御來館ノ時、閣下ハ問ハザルニ風説ヲ信用シテ吳レルナ、支那ノ兵ガドウシタトカ、或ハ東學黨ニ通ジテ居ルト云フ様ナ離間策ヲスル惡漢アリ、故ニ信用セザル様ニトノ御話ガアリ、又李竣鎔氏ヨリモ二度モ三度モ同ジ様ナ事ヲ聞キマシテ、彌ヨ疑念ヲ生ゼリ。之レモ李竣鎔ナリ、閣下ガ最初ニ實ハ斯々ノ事ガアツタ、其レハ何分未ダ形勢モ分ラヌ、我々ノ眼光ノ狭イ處カラ迎モ日本ノ兵ガ支那ニ勝ツコトハ出來ヌダラウ、朝鮮ハ小國デハアルシ、再ビ支那カラ詰問ヲ受クルモ



困ルカラト云フコトヲ思ツテ居タト、淡白ニ言ハルレバ何ントモ思フ様モナシ、李竣鎔氏ハ餘リ繰返サル、故ニ、然ラバ宜シイ調ブレバ多少證據モ出ルカラト云フテ置キタル始末ナリ。

## 大院君

最初岡本ガ來テ、閣下ハ支那ノ兵ニ手紙ヲ送ツタ事ハナイカト聞イタ故、否、左様ナ事ハナイト申セリ。若シ左モナクシテ前監司ニ手紙ヲ出シタト云フ問ナレバ、其レハ自分ガ淡白ニ出セリト答ヘシナラン。其レハ前監司ヨリ自分ヘ手紙ヲ送り越シ、清兵ノ模様ヲ通ゼシ時、日本ノ處置ニ付餘リ心持能ク思ハザリシ、而シテ支那兵或ハ支那士官モ音信ナシニ捨テ置ク事モ出來ヌ、一方ニ亦自分ハ不平ナ處カラ、旁タ前監司ニ手紙ヲ出シタノデアツテ、即チ自分ガ誤ツタ感情カラ起ツタノデアル。去レバ岡本ガ前ノ監司閣内爽ノ處ヘ出シタカト云フ問デアツタナレバ、實ハ淡白ニ話シタノデアリマス。

## 井上

私ハ深く貴下ヲ責ムルノデハナイ、併シ此ノ書翰中ニ二摺云々トアレバ(書翰ヲ示ス)外ニモ手紙ガアルト思ハル。日本政府ハ唯ダ一ニ朝鮮ヲ獨立サセ、其ノ基礎ヲ鞏固ナラシメヨウト云フ誠意ヨリシテ、終ニハ御承知ノ通り兵ヲ出シテ支那ト戰爭ヲシテラ。之レハ則チ東洋ノ局面ニ平均力ヲ保持シ、東洋ノ平和ヲ保持セントスルノデアル。

其ノ破ル、處ハ何處デアルカト云ヘバ、則チ朝鮮デアル。己ニモウ朝鮮ハ破レツ、アル故ニ、日本政府ハ充分力ヲ盡シツ、アル。抑モ七月二十三日ニ於テハ則チ閣下ハ國民ノ尊敬スル所ノ國父デアルカラ、岡本始メ閣下ノ處ヘ行ツテ、閣下ガ出レバ此ノ國ノ獨立ガ出來ルデアロウ、改革モ出來ルデアロウト言フノデ入宮ヲ勸メ、終ニ閣下モ起ツテ入宮シ、國政ニ預カル様ニナリシナラン。爾後一方デハ陰然支那ニ隸屬スルニ勉メ、又一方デハ李竣鎔氏ガ陰然東學黨ト通信シ、之レヲ教唆シ、早速幾萬ナリト多數ノ黨ニ入京ヲ促シタリ、清兵、東學ト合併シテ一舉シ、日本ノ兵ヲ排出スル策ナル事押收シタル書面ニテ判然セリ。必竟日本ノ誠意ニ酬ユルニ斯ノ如キ惡意ヲ以テセラ、ハ更ニ了解スル能ハズ。最初カラ日本ガ此ノ朝鮮ヲ取ルト言フ野心アルナレバ、則チ我國ハ此ノ事ヲ表白シテ名義ヲ作ルニ屈強デアル。夫レハ大院君、則チ國王ヲ補佐スル人マデガ、斯ノ如キ所業ヲナシ、又一方デハ李竣鎔氏ガ東學黨ト共ニ斯々ノ事ヲスル、最早此ノ朝鮮ヲ敵國同様トスル尤モ宜キ名義ナラン。併シ日本ハ決シテ斯クノ如キ野心ハナイ。李竣鎔氏カラ閣下ガ初メヨリ決シテ左様ナ事ハナイト言フテ隱シテオイテ、進退維谷マリ、此ノ様ナ證據ガ出テ來タ、メニ惡カツタトオツシヤル。サレバ其レハ深く私ハ咎メハセヌ、又決シテ日本ガ之レヲ名トシテ以テ朝鮮政府ヘ取テ



掛り、難題ヲ起ス様ナ事ヲナス意モナシ。

大院君

ソコデ此ノ手紙モ私が出シタモノニハ相違ナイ。斯ウ言フ事ヲ御聞キニナツテ手紙ガ御手ニ入ツタ爲ニ、直チニ斯ウ云フ事ガアルカラ日本政府ハ甚ダ不快ナル事、又或ル場合ニ依テハ此ノ朝鮮ガ疑心ヲ抱イテ、サウシテ敵ナル支那ニ好意ヲ通ジタ、言ハバ婦女ガ姦夫ヲシタト云フ様ナ事デアルカラ、之レヲ名トシテ戦ヒヲ興シ不義ヲ問フト言フ様ナ事ニナツテモ實ハ一言ノ申譯ナシ。併シ七月二十三日ノ有様ハ實ニドウナル事ヤラト思ツテ大ニ驚イタ、殆ンド虎ニ襲ハレタ様ナ心地ガシタ。先ヅ軍器ト云フモノハ一切取上ゲラレテ仕舞ヒ、殆ンド自分等ノ身動キサヘモ出来ヌ場合デアツタカラシテ、人民ハ散亂シテ實ニ困難デアルト思フ。折柄前ノ監司カラ手紙ヲ送ツテ來タ。其レデ宋慶ト言フ人ガアル、支那へ行ツテキタ時ニ知ツタ人デモアリ、其レニ名刺ヲ送り、又監司ニ當時ノ有様ヲ通ジタ次第ナリシ。貴國ガ我國ニ對セラル、御厚意ニハ相違ナイ、併シ其ノ當時ハ是レガ如何様ニナルヤラ大ニ驚怖シタ。又一般人民モ大ニ驚イタ有様デアリマスルカラシテ、何ウシテモ其ノ當時ノ感情ヲ言ハスレバ、私ハ決シテ快ク無カツタ。私ハ不快ヲ感ジタ事デアル。斯ク言フ事ガアル爲ニ、私ハ何ント問ハレテモ此ノ不義ニ付テハ仕方モナイ次第デアリマス。夫レデ私ハ昨日其ノ話ヲ聞

キマシテ、直チニ今日デモ上ツテ惡カツタト申シテ釋然ト御解ケ下サレバ幸ヒ、併シ左様デナク何處マデモト云フ事デアレバ、殺サレテモ仕方ガナイ。

井上

貴下ガ淡白ニ不義デアリ、惡カツタト言ハルレバ、日本政府ニ於テモ朝鮮ノ國ヲ略取スルトカ、危険ノ地位ニ至ラシメ様ト言フ惡意ハナイ、私ハ深く詰責スル積リハナイ。其レデ安心シマシタ、ソコデ七月二十八日時分ノコトハ何ウ云フ有様デアツタカ、閣下モヨク御存知デアリマセンデシタロウ。其レデ此ノ事モ只ダ平壤ニ手紙ヲ遣ツタカト云フコトヲ問ハルレバ其ノ事ハ言ツタノデアリマシタ、併シ支那ノ將官ニ手紙ヲ遣ツタコトハナイカト問ハレタカラ、夫レハ遣ツタコトハナイト云ツタ譯デス。

大院君

其レデ野心ハナイ、何處マデモ朝鮮獨立ノ基礎ヲ鞏固ナラシムル外ハナイト言フ事ガ明瞭ナリ、釋然トシタト御答ヘアレバ我モ亦釋然タラン。抑モ此ノ戦争ノ起リハ則チ支那ガ朝鮮ヲ隸屬視スルト云フ事カラノ面倒デアル。之レヲ隸屬視サレテハ東洋ノ平和ハ保テナイ。第二ニハ一葦帶水ヲ隔テ、ラル朝鮮國デアレバ、日本國ノ利害ニ關スル事カラ起ツタノデアル。就テハ閣下ニ於テモ斷然支那ニ隸屬スル心思ハ今日ヨリ直チニ斷念シ、朝鮮ノ獨立ノ基礎ヲ固メバナラヌ必要ノ決心ハ確乎タルカ。



大院君

當時支那ノ士官ガ來タ處ガ、元ト私ガ支那ニ四、五年モ往ツテキタ時ニ知ツタ人デア  
ルカラ、其レハ能ク御出ニナツタト云フ挨拶ヲスル爲ニ、監司ニ手紙ヲ送ツタ。其レ  
ヲ言ツテヤツタノデア。強ヒテ日本ノ兵隊ヲ嫌ヒデ云ツテヤツタノデハナイ。併シ  
事此ニ至ツテ事情支那方ニ好ミヲ通ズルト言フコトノ文句ガアルト言フ事ニナツテ見  
レバ、何ントモ申譯ハナイ。誠ニ其レハ私ガ如何ニモ惡カツタト謝シマス。其レデ充  
分罪ヲ謝シテ此ノ後ノ事ハ又一ツ御相談ヲシナケレバナラス。先ヅ以テ其ノ過失ハ謝  
シマス。サウシテ疑ヒガ釋然タリト云フ事ガ男子ノ事ト思ヒマスカラ、私ハ今日閣下  
ニ謝スル次第デアリマス。

井上

其レハ能ク分リマシタ。私ガ第一必要トスル所ハ、支那モ屬國視シ、朝鮮モ亦屬國タ  
ルニ甘ズルト云フコトヲ斷念シ、只ダ獨立ノ基礎ヲ固メネバナラスト言フ御決心ハ宜  
シイカト云フコトヲ御尋ネスルノデア。

大院君

其レハ誰ガ獨立ヲ好マンデアリマセウ。固ヨリ獨立ハ充分ニヤラナケレバナラス、又  
私ハ之レマデト雖モ支那ニ辱メヲ受ケタ事ハアツテモ恩ニハナラス、何ンデモ今日早  
ク獨立ノ基キヲ固クシナケレバナラス、サレバ貴下モ斯ク御出デニナツタカラハ、充  
分御一任アツテ早く改良ノ道ニ進ムコトヲ願ヒタイ、私等ノ力ニ及ブ處デハナイカラ。

井上

其ノ獨立ノ基礎ヲ立テ、早く其ノ實ヲ舉ゲルト云フコトハ、則チ第一ニ内政ヲ改良ス  
ル必要アリ、今日ノ有様デハ到底其ノ實ヲ舉ゲルコト能ハズ。失禮ナ申分ナルガ、例  
ヘバ身體ニ種々ノ病氣ガアルト同様デ、一ツ茲ニ一種ノ腫物ガ出來タ、之レヲ切斷ス  
レバ健康體ニ復スルト云フコトナラ、容易ナル治療ナルガ、併シ全身ノ腐敗シタルニ  
至ツテハ、十年ヤ二十年ノ間ニ腐敗シタノデハナイ、餘程積弊ガ重ツテ來タノデア、  
サレバ心臟モ肝臟モ肺モ腦モ四肢モ能ク働カヌ、殆ンド人身ノ各部局ニ對シテ病氣ヲ  
生ジテアル有様ナリ。其レデ其ノ療治ヲ急ニスベキモノ、又漸ヲ以テスベキモノトノ  
區別アリ。直グサマ夜中ニ日光ヲ顯出スル如ク、日本現今ノ如クスベシト御勸メスル  
ニアラズ、唯ダ此ノ民力ニ堪ユル度合ガアル、今日民政ノ事ハ丸デ地方官ニ委任シテ  
アル、裁判モ兵力モ又中央政府ニ納ムル租稅ト云フ如キモ、亦其ノ中央政府ニ收入ス  
ル些少ノ租稅ヲ除キ、其ノ餘ハ勝手ニ徵收シテ勝手ニ各部局ニ使用スル有様デア。ル  
斯ノ如キ事マデ改良ヲ要スル。サレバ段々苦イ藥ヲ進ムル事ニナル、其ノ藥ヲ御飲ミ  
ナサランケレバ健康體ニ回ル事ハ出來ヌト云フニアリ。

大院君

御尤モデス、今病人ノ例ヲ以テ御話ガアリマシタガ、其ノ通りデ手足モ何モキカナク  
ナツテ、漸ク命脈ガアル、生ヲ保ツテアルト云フ丈デアルト思フ。寔ニ之レガ少シ血



液ノ循環デモ與ヘル爲ニ藥ヲ飲ムト云フ場合デアアル。然ルニ東學黨ノ爲ニ地方ノ人民ハ騒イデアル。租税ガ這入ラヌ、政府ノ財力ハ窮乏シテヲツテ、七デ藥ヲ盛ツテモ其レヲ受ケ答ヘルカ否カト云フ有様デアアル。私ハ兎モアレ、此ノ國ノ爲ニ盡力サル譯デアアルカラ、此ノ旨一切ヲ御依頼致シマスカラ、何ウナリ始末ヲ付ケテ下サイ。私モ大變年モ取り、世間ノ様子モ分ラヌ、然シ私モ命ノアル間ハ相當ノ盡力ヲスル、亦人民ヲ斯ク爲ヨト云フナラ其レモヤリマス、兎ニ角、私ハ老人デアツテ寔ニ不案内デアアルカラ、政治上ニ容喙セズ、閣下ニ御依頼致ス次第デアアル。

井上

左様御依頼アレバ誠ニ釋然一點ノ疑ヒモナイ。然シ第一血液ノ流通ガ惡イ様デハ困難デアアル、今日ノ様ニ財政ノ窮乏ニ沈ンデハ此ノ改正ハ困難デアアルカラ、人民カラ非道ノ徵發ヲスルト云フ様ナコトデナク、一方ニハ財源ヲ起ス手段モ爲ス必要モアレドモ、一方ニハ王室ノ費用モ無用ナモノヲ痛ク減ズルト云フコトガ尤モ必要ナリ。亦政府ノ事務ニシテモ、成ル可ク無用ナ費用ヲ減ジナケレバナラヌ。今私ノ見ル所デハ王室ノ兵隊ナリ又ハ政府ノ各大臣ノモトニモ澤山ナ役人ガアル、私ハ恰モ遊民ヲ製造スル場所カノ様ニ感ズル。抑モ國ヲ富マスト云フノハ人民ヲ富マスト云フ實ヲ施サネバナラヌ。左ナクテハ王家モ民モ日ニ衰弱ヲ極メ、自立スルコト能ハザラン。

大院君

私ガ今日カラ二十年許リ前ニ、十年程朝鮮ノ政府ニ立ツテ仕事ヲシタコトガアリマシタ。其ノ時分ニハ非常ニ濫費ヲ防ギ儉約シタ結果トシテ、八道ニ四十萬石ノ米ヲ積ミ、此ノ城内ニモ十萬石許リ積ンデ飢饉ノ備ヘヲナシタ。其レカラ又收税ノ道ヲ定メテ正シク法ヲ設ケタ。其ノ後、權門ガ國財ヲ濫費スルニ因テ、米穀ノ餘蓄モ皆使ツテシマヒ、復タ國ノ收税モ私囊ヲ肥ス爲メ、畢竟此ノ様ナ事ハ紀綱ノ亂レルト云フコトカラソウナツタノデアアル。夫レハ自分モ經驗シタコトデアリマス。ソコデ閣下ガ病氣ノ事ニ就テ御話ガアリマシタガ、一ツ御話ヲシマスガ、ソレデ苦イ藥、辛イ藥ヲ閣下ニ御勸メシタナラバ、閣下ハソレヲオ飲ミニナリマスカ。

井上

病氣ニナツテ健康體ニ復サンコトヲ望メバ、之レヲ飲ムハ當然ナラン。

大院君

若シサウナクテ旨イ藥ヲ飲ンデ苦イ藥ヲ飲マンデ回復スルコトガ出來レバ如何デス。

井上 旨イ藥ガアツテ夫レヲ飲ンデ回復ガ出來レバ、夫レ程宜シイ事ハナイ、人情誰モ同ジカラシ。

大院君

先達岡本ガ來タ時分ニ、六典條例ト言フ本ヲ差シ出シタ、アノ本ハ自分ガ多少手モ入レタ法典デアアル。アノ通り規則正シク諸事行ハル、ト云フ事ナラ、之レハ國ノ爲メ旨イ藥デアロウ。

大院君來館談話



井上

私モ讀ンデ見タガ、アノ通り行ヒ得ベキ事モアリ、當時ニ不適當ノ事モアリ、閣下ガ先達御出ニナツタ時ニ漢高帝ノコトヲ伺ツタ、私ガ夫レハ誤リガアルト答ヘタ、即チ時世ガ違フカラ其ノ時世ニ相應ノ法ヲ設ケザルベカラズ。

大院君

左様今日ハ私ノ書面ノ事ニ就テ實ハ御詫ビニ來タノデアリマスカラ、此ノ事ニ就テ御話ガアレバ、再ビ御眼ニ掛ツテ御話ヲ承ル事ニ致シマセウ。ソコデ今一ツノ事ハ私ノ孫ガ東學黨ヲ教唆シテ、或ハ日本兵ヲ追ヒ出サウカト云フ様ナ惡心ガアルト云フ様ナコトニ就テハ、私ニハ少シ信ジ難イノデアアル。併シ私ノ孫ガ不學ニシテ知識ノナイ處カラ、其ノ下ニ立ツ所ノ者カラ誤ラレテ、或ハサウ云フ方ニ意ガ向ツタノカモ知レヌ。併シナガラ申サバ夫レハ東學黨ニ加盟シテ日本兵ヲ拂ヒ、此ノ京城ニ這入ラセヌト云フコトハ則チ反逆ト云フコトニナルカラ、之レハ苟クモ王族ニ列スルモノガ決シテサウ云フコトハ出來ベキモノデハナイ。併シ何ニシテモ配下ノ者共ニ誤ラレタルナリ。或ハ又東學黨モ其ノ名ヲ借リテ一ツノ手段トシテ其ノ勢ヲ盛ナラシメントシテ、ソウ云フコトヲ言ヒ觸ラスニ至リシナラン。此ノ事ニ就テハ私モ落度アリ、斯様ナル子供デアルカラ自分ガ氣ヲ附ケテ取締リヲシタラ、決シテサウ云フコトニハ至ラナカツタデアラウト思フガ、終ニ手放シテオイテ勝手ナ事ヲ爲シ嫌疑ヲ蒙ムルコトニナツテ來

タノデアアル。此ノ責ハ深く自分ガ受ケテ然ルベキモノデアアル。前ニ自分ノ手紙ノ一條、又孫ガ東學黨教唆ノ事ニ就テ皆責ヲ負フテ謝サナケレバナラヌト斯ウ思ヒマスカラ、ドウゾサウ思召シテ下サイ。

井上

其レモ能ク分リマシタ。ソレデ強ヒテ此ノ後ハ領事ヲ立會ハセ審査追及スルニモ及バザレバ、金宏集氏ニモ金允植氏ニモ話シテ、許燁モ李秉輝ノ取調べハ中止セシムベシ。併シナガラ私モ證據ノナイ事ハ申サヌ、又只ダ惡カツタト言ヒ、又李竣鎔氏モ年ヲ取ラヌ人デ、下ニ立ツ人ニ欺ムカレテソナ事ヲシタト言フナラバ、實ニ李竣鎔氏ニシテモ未ダ年モ若シ、將來有爲ノ人ニナランケレバナラヌ、只ダ王族ト云フ様ナ名ニ甘ンジテ年ヲ老フルハ取ラザル所ナリ。故ニ將來他國ノ學問ヲセンケレバナラヌ、只ダ尊大許リヲ構ヘテ居ルト云フコトハ身ノ不爲ナリ。

大院君

畢竟年ノ足ラヌ處カラ下ノモノニ售ラレタモノト思ハレル。寔ニ彼レモソレ程ノ考ヘノアルモノデハナイノデアリマスガ、ドウモ之レニ附隨シテ居ルモノ、爲ニ誤ラレテ斯クノ如キコトニ立至リタルハ、私モ聊カ若年ノモノノ愛ニ溺ル、ト云フコトガアルカラ面白クナイガ、御存ジノ通りニ李氏ト言フモノ、私ノ一代ノモノ、外幾人アル歟ト申セバ、脈ヲ取ツテ貫フニモ傍ニ付添フテ介抱シテ手足ヲ動カスニモ、私トモ三人



シカナイノデアル。

井上

ソレハサウデアル、宗家ノコトモ御考ヘニナラナケレバナラス。何ウシテモ離間策ニ掛ルヤウナ事ガアツテハナラヌカラ私ハ言フノデアル。又王妃タリトモ政治上ニ喙ヲ御出シナサル様ナコトガアツテハ、政治ハ始終紊亂シテ來ル。私ガ外面カラ見レバ閔氏ガ王妃ヲ楯ニシテ政權ニ專横ヲ極メタノモ、又其ノ臣下ノ者ガ位地ヲ得ヨウトカ、身ヲ立テヨウト云フコトヲ考ヘテ種々ナ弊害ガ生ズル。此ノ事モ今度内謁見ノ時ニハ王妃ノ耳ニ這入ル様ニ慥カニ言ハネバナラスト思フ。サウ云フ事ガ政治多門ニ出ルト言フコトデアル。又閣下モ御存知ノ事デアルガ、此ノ人事ノ繁雜ナル社會ニ於テハ、閣下ナドニハ學問モアリモシヨウ、又經驗モアリモシヨウガ、御年ノ上カラ時世ニ合ハヌ事ガ多イ。故ニ閣下方ハ餘リ政治上ニ喙ヲ入レヌ方然ルベシト存ズ。私ハ此ノ國ノ獨立ノ基礎ヲ鞏固ナラシムル爲メ依頼スルトノ事故、隔意ナク直言シテ憚ル處ナシ。ソレハ一々御尤モナ御話デ御座リマス。併シ私ガ一ツ言ツテ置キタイコトガアル。ソレハ内謁見ニナツタ時ニ、中宮ガ政治ニ干涉云々ノ一言ハ云ツテ下サルナト云フ事デアル。ト云フモノハ閣下が二度目ノ謁見ニナツタ時ニ、大君主、王妃、世子宮ナドニ向ツテ御話シニナツタ事ガアル、固ヨリ均シク臣民デアアルカラ、李氏、閔氏ハ不可ヌ、

大院君

金氏ダカラ不可ヌト云フコトハナイ。一致協同云々ト言ハレタ。ソレデ閔ト言フコトヲ中宮ガ聞イタ。ソコデ閔姓トイヘドモ用フベカラザルノ理ナシト主張スルニ至ツタ。今閣下が中宮殿ニ政事多門ニ出ヅルハ弊害アル故ニ容喙スベカラズト明言セラル、時ハ、私ガ來テ閣下ニ頼ンデヤルヤウニ中宮ハ疑心ヲ生ゼラルベシ。就テハ私ガ擔當シテ此事ハ程能ク言ヒマスカラ、今度御出デニナツテモ其ノ事丈ハ御話ナイヤウニ願ヒマス。

井上

併シナガラ政治ガ多門ニ出ルト云フコトヲ言ハネバ不分明デアル。又私ハ閔氏ヲ御用ヒニナル様ナ言葉ヲ使ツタコトハナイ。王家トハ大君主、中宮、世子ノ御一族デ、此ノ王族ニ屬シテオツタ者ハ、閔氏、李氏、金氏デモ皆王家ノ一族デアルト理由ヲ述べタルニ、我意偏言ヲ以テ勝手ノ裁斷ヲ下サル、故ニ明言シ置カンコトヲ欲スルナリ。當時ノ場合ニ閔氏ヲ採用スル如キコトアラバ、混雜ヲ再演シ、終ニハ牝雞ノ晨惟家之索ト云フ故ニ、中宮ガ政事上ニ立サワラヌ様ニ云フテオクハ必要ナリ。閣下が國父デアツテ王家ノ弊ヲ防グコトヲ努メラレネバナラス。

此ニ閔氏ト李氏ト云フモノガアツテ、互ニ相讐敵視スルノ念慮消滅スルヤウ御配意ナケレバ、終ニ内亂モ起ルナラン。故ニ私ハ今度ハ國政ト云フモノハ斯々デアアル、王室



ト云フモノハ斯々デアル、職務權限ト云フモノハ斯々デアル、斯クシナケレバナラヌト言フコトヲ各分限ヲ明カニ申ス積リデアル。

大院君

元ト閔氏ガ政權ヲ恣ニシテ地方官ヲ賣買スルコトニナツタノハ、則チ牝雞ノ鳴キ始メデアツテ、其ノ結果今日ノ有様ニナツタデアリマス。

私モ今年六月以來王宮ニ這入ツテ、始終王室ニ居ラネバナラヌト云フコトハ、サウ云フ危険ガ絶エナイ、成ル丈ケ其レヲ押ヘナケレバナラヌ、然ラザレバ直チニ亂雜ヲ招ク基キト思フカラ、始終動止ヲ見テ居ル。今日ニ於テ十中八、九マデハ必ラズ改ツタ。猶ホ今少シ進シダナラバ全ク改心スベシ。今度閣下ガ來ラレタナラバ、緊要ナル事ハ大院君マデ申出タレバ其レヲ御聽取ニナリ度トアレバ、委細ハ私カラ言ヒマセウ。左様デナイト何ダカ私ガ閣下ノ所へ來テ頼ンデ言ツテ貫ツタ様デ具合ガ惡イカラ、私ガ閣下ノ御意見ハ御分リニナル様ニ申上ゲマスカラ、其ノ御積リデ願ヒマス。今デハ役人免官ノ事ニ中宮殿ハ關係セズ、政府大臣ガ擔任スル事モ明ラカニ定ツテ居ル。亦閔氏ダカラト言フテモ全ク用ヒヌト云フコトデハナイ、政府ノ役ニ立ツ人ナラバ用ユルガ宜シイ。只ダ中宮殿ガ干渉サレナケレバ宜シイノデアル。

井上

未ダ私ガ大院君ニモ君主ノ權ト云フコトノ解釋ヲ委シク申上ゲナンダ、從來ノ習慣最

モ專制ノ弊アリテ、只ダ我が意ノミニヨリ生殺與奪ヲ獨リ君主ノ權ト云ハズ、之レニハ定義ノ存スルアレバ克ク御話シナケレバナラヌ。此間僅カナ時間デ此ノ事等委シイ事マデハ御話ガ出來ナカツタ、私モ自ラ朝鮮語ヲ話ス譯ニ行カスカラ、通辯ヲ用フルカラ一時間ノ話ハ二時間掛ラナクテハ出來ヌ。ソコデ此後謁見ノ節、王族、外戚、其ノ他何人モ政治上ニ關係ナキ人ヲオ招キアリタシ。若シ政治上ニ喙ヲ入ル、ニ於テハ政治ヲ紊亂シマスと云フコトヲ此ノ間大院君マデ言フテオキマシタカラ御聽聞アリタシト言ヒマセウカ。

大院君

左様願ヒタシ、又以前ノ如ク勢道ナルモノガ再出シテ、國政ヲ自ラスル様デハ、再ビ六月二十一日ガ來マスカラ、其ノ邊ハ充分御忠告ヲ願ヒマス。

井上

人才ナラ兎モ角モ、今何ンデモ閔氏ヲ御用ヒナサルト言フコトガアツタナラバ、其レハ紛亂ヲ生ジ終ニハ再ビ六月二十一日ガ來マス、其ノ代リ此ノ李氏ノ中ニ於テ人物ガ出ル様ナ事ヲナサラネバナラヌ。

大院君

其ハモウ尤モナ御話シデス。其レハ今李氏トハ私等三人シカナイ、李載崐、即チ宮内大臣ハ元來孝行ナ性質ノ者デアリマス、過日岡本ガ持ツテ行ツタ言行録ヲ御覽ニナツタ歟何ウカ、猶ホ彼ノ書物ヲ御覽下サイ。



井上 其レデ今政府ノ人デモ金宏集、金允植、魚允中ノ三氏ノ如キ人ハ、多少皆性質ハ違ヒマスルガ、此人等ガ能ク政治ヲ執ツテ一心ニナツテ共同一致シテヤルナラバ、改良ノ實ガ擧ガルト思フ。

大院君 昨日十五人ノ人ヲ書イテ出シマシタガ御覽ニナリマシタカ。

井上 未ダ見マセヌ。

大院君 若シ朝鮮モ此ノ速記術ノ速カナルト同様ニ進歩スルナラバ、亡ビル様ナ事ハアルマイ。ケレドモ中々朝鮮ノ人ハ斯ウ云フ技術ニ能ク取り掛ツテ致シマセヌ。其レデ私ハサツキカラ此ノ速記者ノ書クノヲ見テオリマスガ、實ニ言葉ヲ直チニ寫スト云フコトハ一種ノ技術デアリマス。

井上 是レモ前カラ日本ニアルノデハアリマセヌ、歐羅巴カラ移ツタノデ、議院ナドデ辯論ヲ速記スルコトニ用ヒテアル。

大院君 朝鮮人ハ斯ウ云フコトハ出來マセヌ。

井上 私ハ今日ノ天氣ト同ジク爽快ニ感ジマス。閣下ノ心モ一點ノ疑惑ヲ殘サズ、是レカラ屢々御面會イタシマセウ。

大院君 其レデ私モ今日ハ意中ガ釋然トイタシマシタ。今後決シテ蟬リノアル筈ハナイ、今後ハ何モ打明ケテ御話イタシマスカラ、何ウカ閣下ニモ其ノ心ヲ以テ、チツトモ胸ニ停滯ナクシテ心事ヲ吐露シテ下サル事ヲ願ヒマス。

井上 多分御承知デモアリマセウガ、私ハ決シテ物ヲ婉曲ニスル様ナコトハ出來ヌ性質デス。昨日モ金宏集氏、金允植氏ニモ、愈ヨ此ノ内政改革ノ實ヲ擧ゲ、獨立ヲ鞏固ナラシムルコトヲ云フナラバ、大君主ニモ謁見ヲ仕ナケレバナラヌ、能ク其ノ意志ヲ慥カメナケレバナラヌ、書翰一條ガ惡カツタト云フ許リデハ效能ガナイカラ、謁見ヲ申込ミ置ケリ。其ノ席ニハ大院君モ御出ニナツテ、王妃モ障子ノ陰デモ宜シイカラ、又各大臣モ出席シテヲツテ聞カレタシ、凡ソ物ハ公明正大ナランコトヲ要スレバナリ。

大院君 其レハ至極宜シイ御話デ御座イマス。サウ云フコトニ致シマセウガ、實際大君主ノ傍ニアルト云フコトハ今マデノ例デハ六ヶ敷シイノデアリマス。故ニ大君主ノ後ロノ方ニヲツテ聞クコトニ致シマセウ。

井上 御老人ノコトデアリマスカラ其レデモ宜シイ。

大院君 私ハ其レハ何デモナイガ、私ガ傍ニアルト大君主ガ大變不便ヲ御感ジナサル故、私ハ直グ後ノ一問ニテ御話ヲキ、場合ニ據テハ御答モ致シマセウ。

井上 私ハ強ヒテトハ言ハヌガ、成ル可ク其處ニ御出デニナツタ方ガ宜カロウト思フ。



大院君 私ガ世子宮ノ後ニ居テハ、大君主ガ非常ニ面倒ニ思フカラ、其ノ傍ニ近マル室デ聞キマセウ。

井上 然ラバ其レデ宜シイ、強ヒテハ言ハヌ。

大院君 謁見室ノ傍ニ部室ガアルカラ、椅子ニ倚ツテ聞クコトニ致シマス。只ダ私ガ與ツテ聞キサイスレバ宜シイト云フコトナラバ、左様御承知置キ下サイ。

井上 ソレデ宜シウ御座イマス。大王妃モ其ノ席ニ出テ御聞キナサル様ニシテ下サイ。

大院君 大王妃ニハ此頃御不快デアリマスカラ、此ノ儀ハ難シカルベシ。各大臣列席ノコトハ御申出置キ相成リタシ。

井上 大王妃ノコトハ致シ方ナシ。各大臣列席ノコトハ此ノ間金宏集氏ニ言ツテ置キマシタ。

大院君 今日總理大臣ガ王宮ニ出テ話サル、トノ事ナレバ、不日謁見ニナルベシ。其レデ明日孫ガ參リマス。兎ニ角寔ニ惡カツタコトハ私ガ其ノ責ニ當ラナケレバナラヌ。其レデ私ノ考ヘデハ流罪ニデモヤロウト思フ、少シノ間デモ。

井上 左様ノ事ハ被成ヌ方ガ宜シイ。何モ私ガ日本公使ノ資格デ書面ヲ以テ難問題ヲ申込ミタル次第デハナイ、表面ニナサラナクテモ宜シイト思ハレル。

大院君 ソウナレバ誠ニ仕合ナコトデアル。兎ニ角外ノ謀略ニ陥ツテ竟ニサウ云フコトニナツタノデアリマセウ。併シ兎ニ角之レモ均シク悪名デアリマスカラ、打棄テルト云フ譯ニモ行カナイカラ。

井上 御老年ナル閣下ノ地位デ考ヘテ見テモ、左様ナ罪ニナルヨリ、倭人ニ交際セシムル様ナコトノナイ様ニナサル、方宜シカラシ。最早今日ハ朝鮮ヤ支那流ノ學問許リデハ六ヶ敷イカラ、他ノ學問ヲサセテ精神ヲ改メサセルコトヲ考ヘナケレバナラヌ。他ノ學問ヲ學バシメテ他日此ノ朝鮮ノ政治上ニ就テモ有爲ノ人ニ御ナリナサラネバナラヌ。故ニ先刻申ス通り學問デモサセタ方ガ宜カロウト云フノデアリマス。

大院君 却ツテ私カラ其ノ事ヲ願ハネバナラヌ處デアル。左様オツシヤレバ寔ニアリガタイ。其レデ私ガ彼レガ酒ヲ飲ミ道樂ヲスルト云フコトナラ、見放シテシマウノデアルガ、是レマデカウ云フコトモナシ、今度ハ全ク他人ノ術中ニ陥ツタ事ト思フカラ、改良致サセ度イト思フノデアリマスカラ、何ウカ閣下ガ勘辨シテ下サル様ナ事デアレバ、私ハ是レカラ前ノコトヲ計畫スル様ニ致シマス。

井上 李竣鎔氏モ度々私ノ處ヘ來ルガ宜シイ、恥ヲ知レバ過チハ改メナケレバナラヌ、只ダ私ハ未來ノコトヲ云フ、アノ人ガア、云フ才ガアルカラ、其ノ才ヲ適當ニ政治上ニ使  
用セネバナラヌ、其レニハ學問ヲ爲サラナケレバナラヌ、又追々私モ委シク御話イタ



シマセウ。此處デ咎ムル考ヘハナイ、閣下ガ罪スル様ナコトハ御用捨アリタシ。

大院君 段々悔悟ヲ致シマシテ馬鹿ナコトニモ與ミセヌ様ニナルデ御座リマセウ。

井上 即チ馬鹿事ニ與セヌ様ニナルニハ、第一自分ノ明ト云フモノガ備ハラナケレバナラス。

其レニハ學問ヲシナケレバ明ヲ他人ニ暗マセラレヌ様デナケレバナラス。

大院君 明日ニモ來マシタラ私ノ孫ト思召サズシテ、即チ閣下ノ孫ト思ツテ御教訓願ヒマス。

井上 承知シマシタ、王室ノ爲ニハ則チ人才ヲ造ツテオカナケレバナラスノデア

大院君 其レハ寔ニサウデアリマス、是レマデ閔氏ノ爲ニ流罪ニ處セラレテ殆ンド殺サレカ、

ツテ居タ李容元ト云フ人ガアリマス。是レハ王室ノコトニ就テ正直ニ上奏ヲシテ流サ

レタノデアリマスガ、是レハ明日東大門外マデ歸ツテ來テ門外ニオキマス。

井上 其レモ罪ヲ宥サレタ後ニテ宜シイ、私ノ處ヘオヨコシナサイ、其レデ李峻鎔氏ハ閣下

ノ年カラハ孫デア

ルガ、私ノ年カラハ兒デア

ル、故ニ私ハ兒ト思フテ充分ニカラ入

マセウ。

大院君 左様願ヒマス。此レガ皆ナ李氏ノ一族ノ人デアリマス（時ニ筆紙ヲトリ人名ヲ記ス）

此ノ様ナ人モ御聞ニナツテ、適當ニ用ユル處ガアツタラ御使ヒ下サイ。國家ノ基礎ヲ

立テルニ就テモ私ハ力ガ及バヌカラ關係セズ、宮内ノ事ハ別段デア

ルカラ之ニ從事シ、

能ク整頓シテ行キマセウ。

井上 能ク御心事ガ分リマシタ。

大院君 私ノ子ノ李載冕ハ私ト同様ニ思ヒ下サイ、又私ノ孫兒ハ閣下ノ孫兒ノ様ニ扱ツテ下サ

イ。

井上 私モ閣下ノ子ヤ孫兒ノ方々ニモ無論時々イヤナ事ヲ云フカモ知レマセヌ。併シ朝鮮ヲ

ヨクスル爲ニ言フノデ、或ハ政府ノ不和、或ハ王家ノ不和ニナルト云フ様ナコトハ申

シマセヌカラ其レハ御安心ナサイ。

大院君 閣下ノコトハ明治九年以來親シク聞イテ居リマシタ。日本ノ元勳ト仰ガル、御方デア

ツテ、今度御出デニナツテモ閣下ガ御考ヘニハ私ノコトハ充分御分リナカッタト考ヘ

ラレ、私モ閣下ノ心ガ能ク知レマセンデシタ。併シ今日ニナツテ斯ク御話ヲシテ見レ

バ、晴天白日一點ノ蟠リハナイ、將來ハモウ斯ウ云フコトガアルカ何ウダト云フテ、

互ニ打明ケテ怪シムコトノナイ様ニ致サナケレバナリマセヌ。ソコデ又私ガ軍國機務

處ノ事ニ就テ關係スル積リデ、元カラヤツタノデハナカツタ、昨日モ岡本ニ會フテモ

色々ナコトニ關係スル様ナコトハ決シテナイ、若シソ

ンナ事ガアツタ

ン私ノ命ヲ出シ

テ宜シイト云ツタ様ナ譯デアリマス。